

平成27年度

大学院生による授業評価結果報告書
(前期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
7	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	木内 陽一,山崎 勝之,皆川 直凡
8	教職共通科目	30032100	現代の諸課題と学校教育 I	小西 正雄
9	教職共通科目	30033000	子ども理解と生徒指導	小倉 正義,葛西 真記子,吉井 健治
10	教職共通科目	30034000	子どもの発達支援	田村 隆宏,島田 恭仁,津田 芳見,塩路 晶子,木村 直子
11	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	梶井 一暁
12	人間形成	30112000	近代教育文化史演習	梶井 一暁
13	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内 陽一
14	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎 勝之
15	人間形成	30119000	教育認知心理学研究	皆川 直凡
16	臨床心理士養成	30421000	精神医学研究	今田 雄三,古川 洋和
17	臨床心理士養成	30422000	精神医学文献演習	今田 雄三,小倉 正義
18	臨床心理士養成	30424000	臨床心理学研究 I	吉井 健治
19	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究 II	葛西 真記子
20	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学研究	今田 雄三
21	臨床心理士養成	30433000	臨床心理査定演習 I	久木 禎子,今田 雄三,栗飯原 良造,中津 郁子,吉井 健治,小倉 正義
22	臨床心理士養成	30444000	臨床心理学研究法特論	葛西 真記子,吉井 健治,松嶋 秀明
23	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	中津 郁子,栗飯原 良造,今田 雄三,葛西 真記子,吉井 健治,小倉 正義
24	臨床心理士養成	30448000	臨床心理面接研究 II	栗飯原 良造
25	臨床心理士養成	30449000	社会心理学研究	佐藤 健二
26	臨床心理士養成	30452000	心理臨床特別研究	高村 茂
27	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	木村 直子
28	幼年発達支援	30516000	こころの発達支援研究	浜崎 隆司
29	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村 隆宏
30	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	湯地 宏樹
31	幼年発達支援	30524000	幼年発達と幼児教育内容論	塩路 晶子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
32	現代教育課題総合	30637100	文化とコミュニケーション	小西 正雄,太田 直也,金野 誠志
33	現代教育課題総合	30638100	人間と文化Ⅰ（基礎研究）	太田 直也,小西 正雄
34	現代教育課題総合	30639100	人間と文化Ⅱ（地域研究A）	太田 直也
35	現代教育課題総合	30643200	コミュニケーションと環境	金野 誠志,谷村 千絵,小西 正雄
36	現代教育課題総合	30646200	人間とコミュニケーションⅢ（実践研究B）	金野 誠志,谷村 千絵
37	現代教育課題総合	30647200	環境と文化	田村 和之
38	現代教育課題総合	30649200	人間と環境Ⅱ（実践研究A）	田村 和之,近森 憲助
39	現代教育課題総合	30657000	現代教育課題特論	小西 正雄
40	現代教育課題総合	30658000	異文化理解と人間形成	金野 誠志
41	特別支援教育	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上 とも子
42	特別支援教育	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上 とも子
43	特別支援教育	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	高橋 眞琴
44	特別支援教育	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷 博俊
45	特別支援教育	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原 光恵
46	特別支援教育	31166000	特別支援教育学習心理学研究論	島田 恭仁
47	特別支援教育	31168000	発達障害児病理・病態生理学研究	田中 淳一
48	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原 卓志
49	言語系	32140000	日本語Ⅰ	田中 大輝
50	言語系	32144000	日本古典語研究	原 卓志
51	言語系	32146000	現代日本語研究	茂木 俊伸
52	言語系	32148000	日本文学研究Ⅰ	黒田 俊太郎
53	言語系	32150000	日本文学研究Ⅱ	小島 明子
54	言語系	32153000	日本語教育学研究	小野 由美子
55	言語系	32156000	日本語文法研究	田中 大輝
56	言語系	32158000	社会言語学演習	永田 良太

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
57	言語系	32159000	言語習得・発達論	田中 大輝
58	言語系	32161000	日本語音声表現研究	田中 大輝
59	言語系	32173000	国語科教育学研究	村井 万里子
60	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田 伸司
61	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷 裕次
62	言語系	32183000	日本語教育法研究	小野 由美子
63	言語系	32220000	英米文学応用演習Ⅱ	太田 直也
64	言語系	32224000	言語教育基礎論Ⅱ	藪下 克彦, 眞野 美穂
65	言語系	32226000	英語学研究Ⅰ（英文法理論）	藪下 克彦
66	言語系	32227000	英語学研究Ⅱ（言語表現）	眞野 美穂
67	言語系	32230000	アカデミック・ライティングⅡ	吉川 エリザベス
68	言語系	32231000	パブリック・スピーキング	吉川 エリザベス
69	言語系	32276000	英語科教育特論Ⅰ	石濱 博之
70	言語系	32277000	英語科教育特論Ⅱ	山森 直人
71	言語系	32278000	英語科教育特論Ⅲ	畑江 美佳
72	言語系	33158300	歴史学研究Ⅱ	町田 哲
73	社会系	33158300	歴史学研究Ⅲ	原田 昌博
74	社会系	33158700	地理学研究Ⅰ	畠山 輝雄
75	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生 多聞
76	社会系	33159500	社会学研究	山本 準
77	社会系	33171000	社会科教育学研究	伊藤 直之
78	社会系	33173000	社会科授業研究	梅津 正美
79	自然系	34125000	代数学研究	平野 康之
80	自然系	34172000	数学科教育学研究	秋田 美代
81	自然系	34175000	数学科教材開発研究	佐伯 昭彦

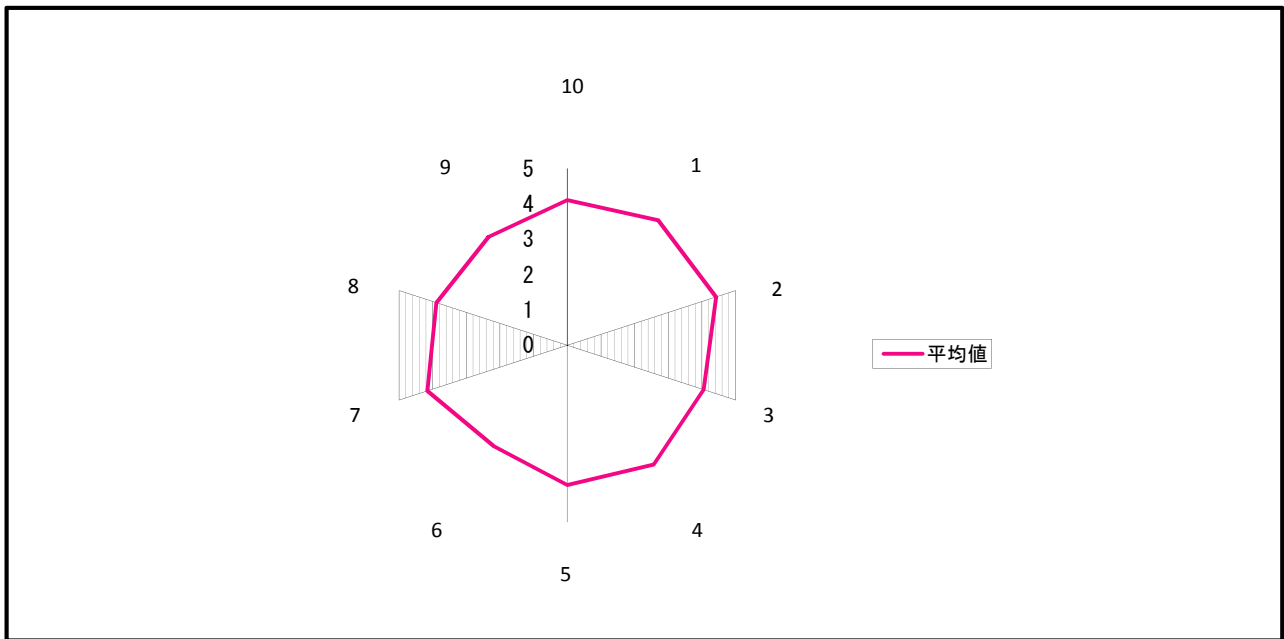
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
82	自然系	34212100	物理学特論Ⅰ	本田 亮
83	自然系	34215100	物理学特論Ⅳ	本田 亮
84	自然系	34225100	生物科学特論Ⅱ	工藤 慎一
85	自然系	34228500	宇宙科学特論	西村 宏
86	自然系	34229000	地球科学特論Ⅰ	村田 守,香西 武,足立 奈津子
87	芸術系	35113000	音楽発声法	頃安 利秀
88	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森 正,田中 巳穂
89	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	山田 啓明
90	芸術系	35117000	ピアノ演奏法	森 正
91	芸術系	35120000	管弦打楽器総合演習	山根 秀憲
92	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根 秀憲
93	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田 啓明
94	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡 貴史
95	芸術系	35171000	音楽教育史研究	長島 真人
96	芸術系	35172000	音楽科教育研究	長島 真人
97	芸術系	35174000	音楽科授業演習	小山 英恵
98	芸術系	35211000	絵画制作研究	鈴木 久人
99	芸術系	35222000	陶芸制作演習	栗原 慶
100	芸術系	35227000	芸術学研究	小川 勝
101	芸術系	35273000	美術科授業研究	山木 朝彦
102	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田 芳明
103	芸術系	35276000	美術科教育研究法演習	山木 朝彦
104	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原 資裕
105	生活・健康系	36117000	学校体育経営研究	藤田 雅文
106	生活・健康系	36120000	体育・スポーツ心理学演習	村上 妃斗美

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
107	生活・健康系	36121000	運動学研究	乾 信之
108	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井 敦典
109	生活・健康系	36131000	健康科学研究	廣瀬 政雄
110	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中 弘之
111	生活・健康系	36171000	保健体育科教育学研究	梅野 圭史
112	生活・健康系	36175000	体育教授学研究	綿引 勝美,湯口 雅史
113	生活・健康系	36211000	情報処理研究	菊地 章
114	生活・健康系	36215000	コンピュータ科学研究	宮本 賢治
115	生活・健康系	36221000	材料及び加工学研究	米延 仁志
116	生活・健康系	36222000	材料及び加工学演習	米延 仁志
117	生活・健康系	36224000	情報科学研究	伊藤 陽介
118	生活・健康系	36226000	プログラミング演習	林 秀彦
119	生活・健康系	36227000	信号情報処理研究	菊地 章
120	生活・健康系	36232100	計算力学研究	畑中 伸夫
121	生活・健康系	36233100	計算力学演習	畑中 伸夫
122	生活・健康系	36235000	木質材料加工法演習	米延 仁志,尾崎 士郎
123	生活・健康系	36275000	情報科教育研究 I	森山 潤
124	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川 衣代
125	生活・健康系	36315000	衣生活学研究	福井 典代
126	生活・健康系	36317000	食生活学研究	松永 哲郎,西川 和孝
127	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金 貞均
128	生活・健康系	36371000	家庭科教育学研究	速水 多佳子
129	国際教育	37133000	教育研究・調査	石坂 広樹,小澤 大成
130	国際教育	37138000	外国語運用能力強化演習 I	石村 雅雄,石坂 広樹
131	国際教育	37184000	国際教育総合セミナー I	近森 憲助,石村 雅雄,小澤 大成, 石坂 広樹

結果報告書

授業科目名 学校教育の人間形成的役割
 評価実施日 平成27年7月29日
 担当教員名 木内 陽一, 山崎 勝之, 皆川 直凡 回答者数 19 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	6	3				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	5	3				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	7	2	1	1		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	6	5				4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	5	6	1			3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	5	5	3	1		3.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	5	4	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	4	5	1	1		3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	8	6	1			3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	5	4		1		4.1



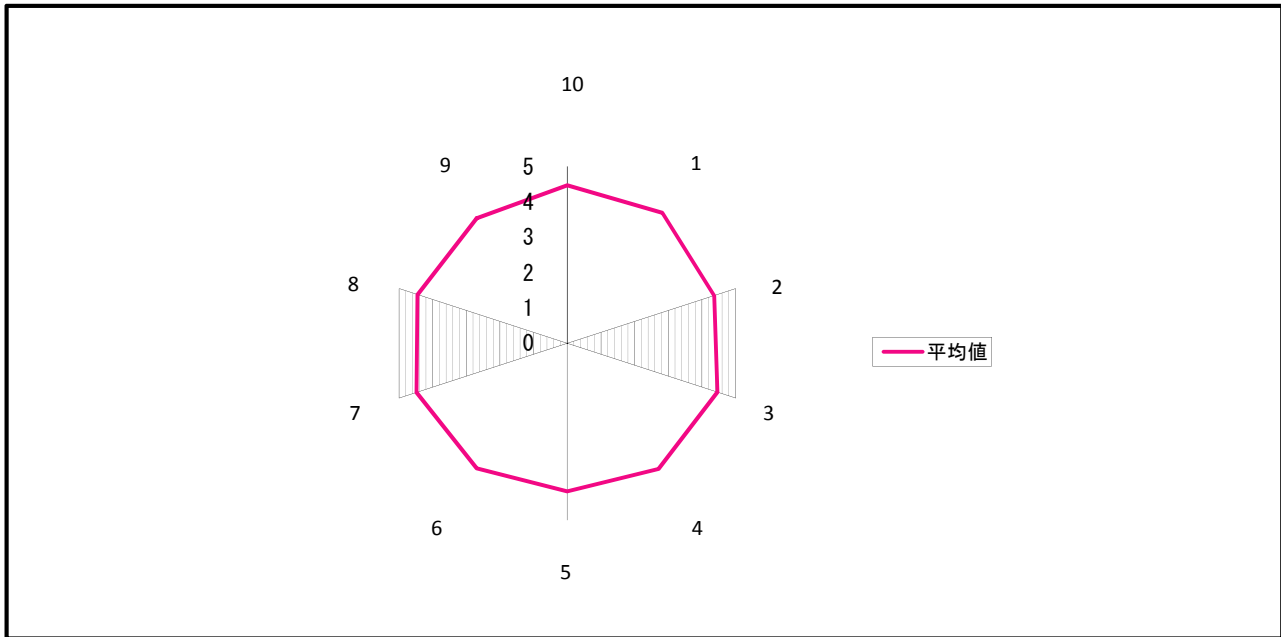
教員のコメント

本講義は、教育学と心理学を専攻する三人の教員が担当し、各々の専門分野を基盤としながら、教職を志望する院生、現職教員の受講生の問題関心を考慮しながら授業を進めている。(木内担当分について)近代教育の思想的基盤の考察を中心に、近代西洋のチャレンジ、明治日本のレスポンスという枠組みで、人間形成の史郎の背景を考究した。担当教員はそれなりに努力しているつもりだが、授業評価アンケートの回答が、院生らしくない内容だ。授業者をはっとさせるようなコメントがほしい。(山崎担当分について)オムニバスの授業で、十分な時間をかけることができなかつたことは事実である。しかし、少ない回数の中、限定しながらも重要事を伝えることができたのではないかと考えている。(皆川担当分について)総合評価の評定値と各項目への評定値、それに記述部分への回答を考え合わせると、本授業への興味・関心、参加度、および理解度に大きな個人差があつたことがうかがわれる。すべての受講生を満足させることは難しいが、今後とも、できる限り多くの受講生の知的好奇心を喚起する授業内容の構成と展開に努めたい。

結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育 I
 評価実施日 平成27年7月21日
 担当教員名 小西 正雄 回答者数 39 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	27	9	1	2		4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	22	10	6	1		4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	24	10	4	1		4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	24	9	3	3		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	16	16	5	2		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	14	4	1		4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	22	15	1	1		4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	23	12	3	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	21	10	7		1	4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	22	12	4		1	4.5



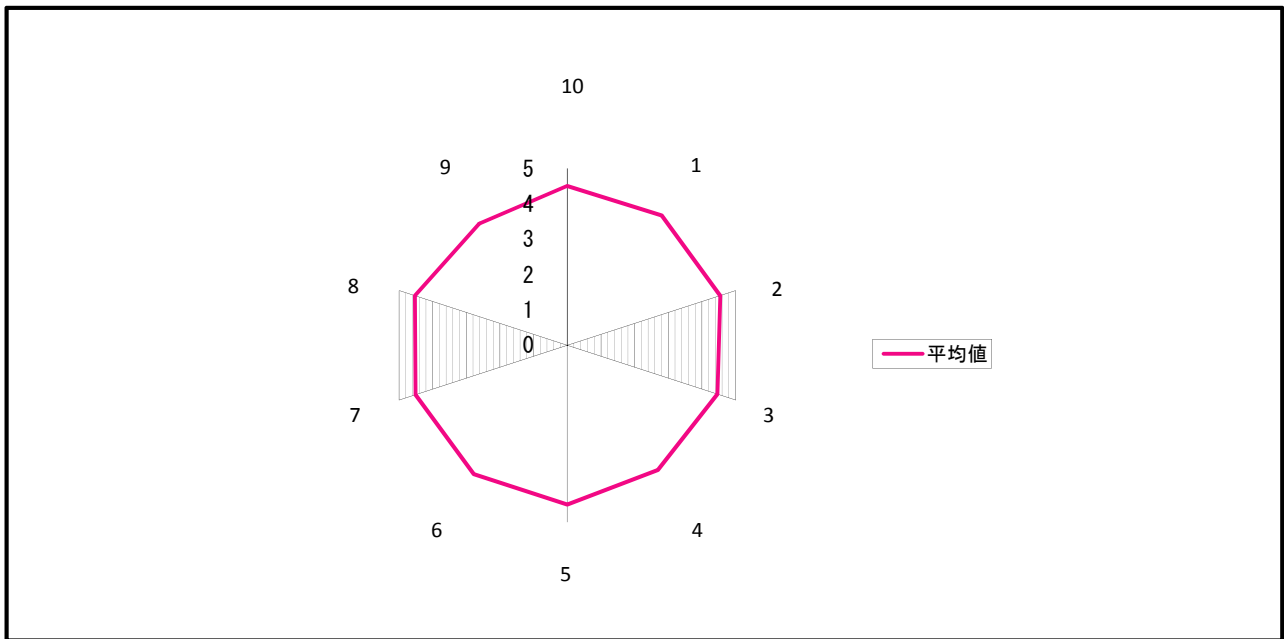
教員のコメント

この授業を担当するのも今年度が最後となった。だからとくに力んだわけでもないが、そのような気合が自然に伝わったのか、平均4.5の評価を得ることができて満足している。授業づくりに直接寄与する内容ではなかったが、長い目で見て受講生の教師人生に一定の好影響を与えることと確信している。

結果報告書

授業科目名 子ども理解と生徒指導
 評価実施日 平成27年7月29日
 担当教員名 小倉 正義, 葛西 真記子, 吉井 健治 回答者数 149 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	90	50	8	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	92	47	9	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	90	37	20	1		1	4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	76	49	22	1		1	4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	90	44	14	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	95	36	15	3			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	93	40	15	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	96	38	14	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	69	52	24	4			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	90	41	14	1		3	4.5



教員のコメント

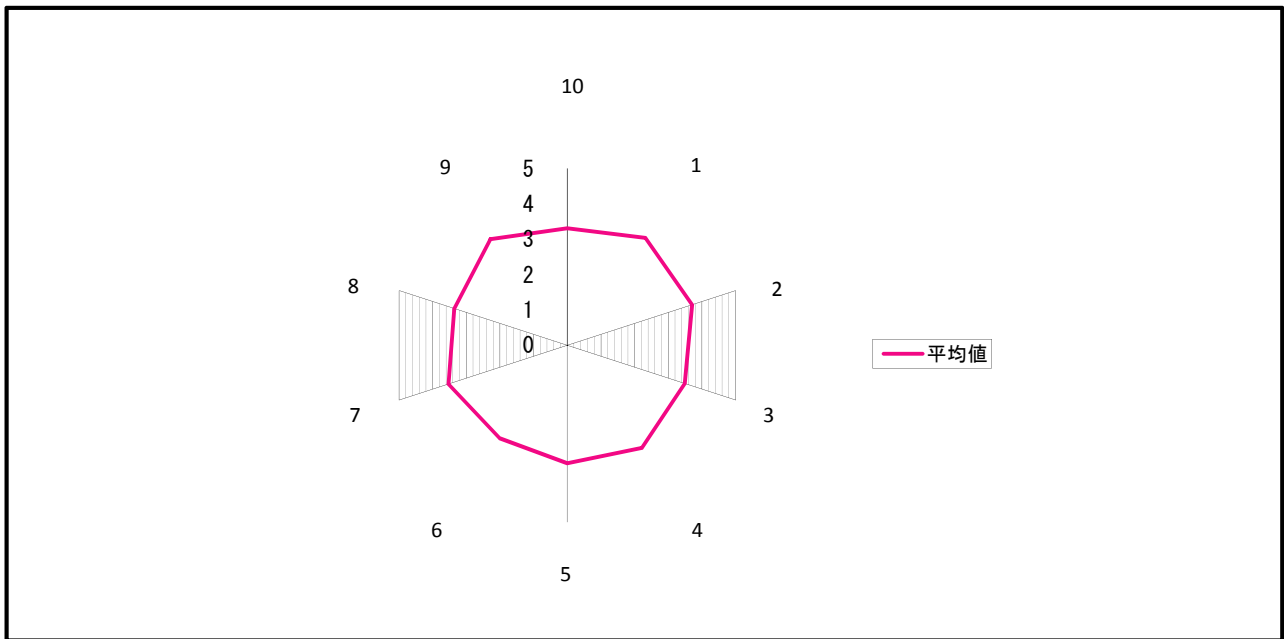
・多くの学生が興味をもって聞いていただけたのはありがたいと思いました。より実践力を身につけることができる授業であるために、教育内容については検討していきたい。
 ・感想にもあったが、履修者が多く、ほぼ満席状態で行う授業なので、集中力の低下などデメリットもあると思われる。環境調整することも大切であるが、授業担当者としては、よりそのデメリットを感じさせないような(できれば人数が多いことをメリットに変えていけるような)授業展開の工夫がより必要になってくると感じられた。
 ・「授業に主体的・積極的に取り組んだ」と感じている学生がやや少ない。授業担当者間で話し合い、より「自ら考えること」を大切にできる授業をつくれるように、授業改善にも取り組んでいきたい。

結果報告書

授業科目名 子どもの発達支援
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 田村 隆宏, 島田 恭仁, 津田 芳見, 塩路 晶子, 木村 直子

回答者数 118 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	37	36	29	11	5	3.8	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	40	32	25	13	8	3.7	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	26	35	32	16	7	2	3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	30	33	34	12	7	2	3.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	26	32	28	17	14	1	3.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	22	35	23	24	13	1	3.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	28	38	29	13	9	1	3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	26	32	28	21	10	1	3.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	32	35	34	13	2	2	3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	32	31	18	12	2	3.3



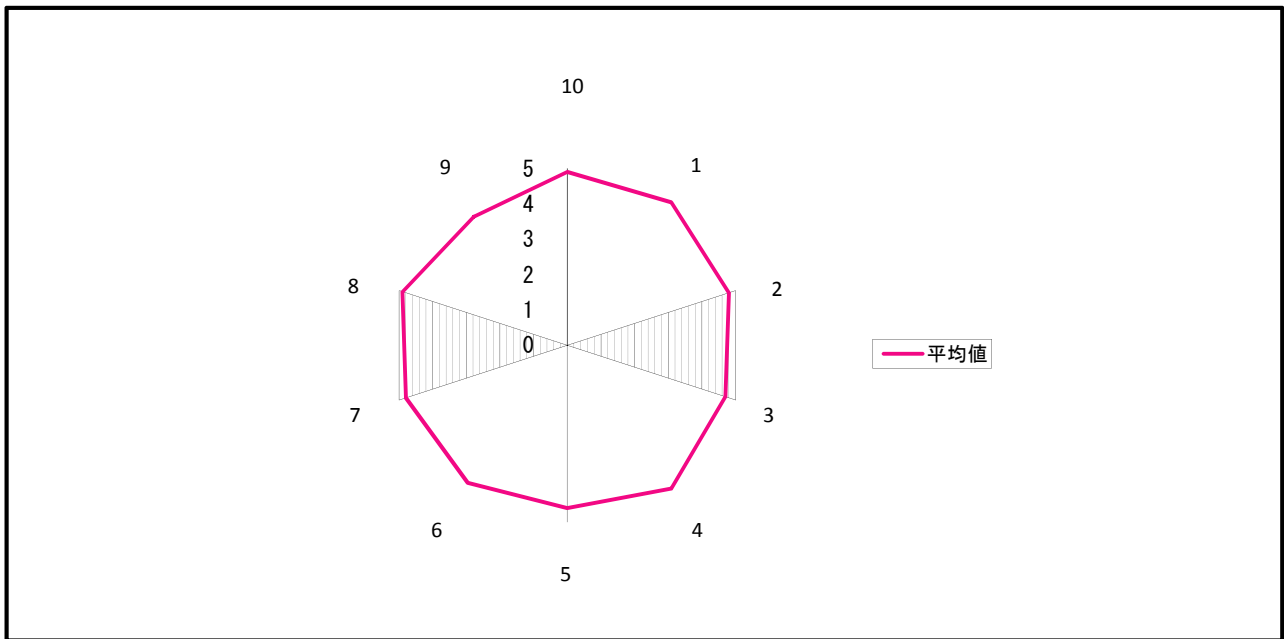
教員のコメント

各項目の評定値をみると、(1)～(4)、(7)、(9)の項目で3.5以上であり、これらの項目内容については概ね肯定的な評価を受けている結果となった。しかしながら、(5)、(6)、(8)、(10)の項目では、中央値3(どちらでもない)を僅かに超える程度の評定値であった。今後の講義では、特に授業の進む速さを適切なものにする、受講生に対して分かりやすく説明すること、教科書や配付資料等を適切なものにする、板書や視聴覚機材の使用を適切なものにする、などに配慮する必要がある。また、今後改善して欲しいことに関する受講生のコメントでは、「声が聞き取りにくい先生がいたので、マイクをしっかり使って欲しい」、「複数の先生で内容に重複するものがあった」、「授業の進度があまりにも速すぎて、ノートも取れず、ついて行けなかった」といった内容が特に多かったことから、授業で取り上げる内容の再吟味と授業の進め方についての再検討が必要である。

結果報告書

授業科目名 人間形成文化史研究
 評価実施日 平成27年9月11日
 担当教員名 梶井 一暁 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9		1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9



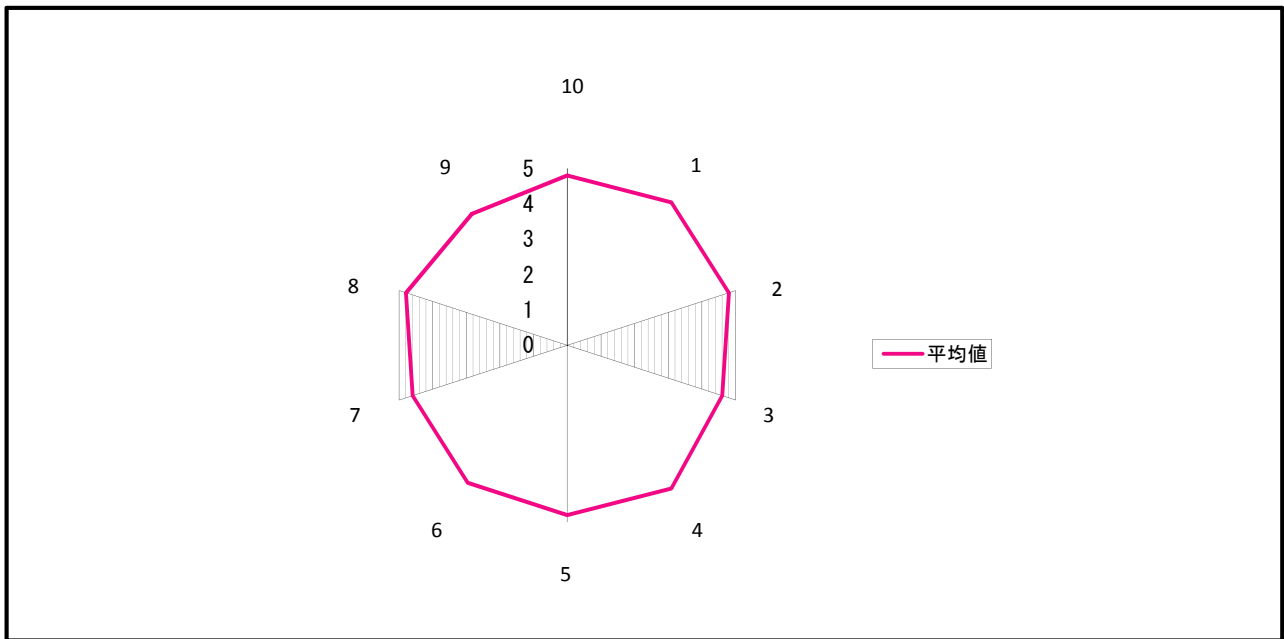
教員のコメント

受講生から積極的な評価を得られたと思う。
 集中講義であったため、準備してあった内容を教授することで精一杯となり、受講生の関心や反応を確認しながら修正することはあまりできなかった。授業進行がやや早くなった側面もある。
 より受講生の主体的な取り組みを引き出せるように、今後も授業改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名 近代教育文化史演習
 評価実施日 平成27年9月17日
 担当教員名 梶井 一暁 回答者数 5 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4		1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1					4.8



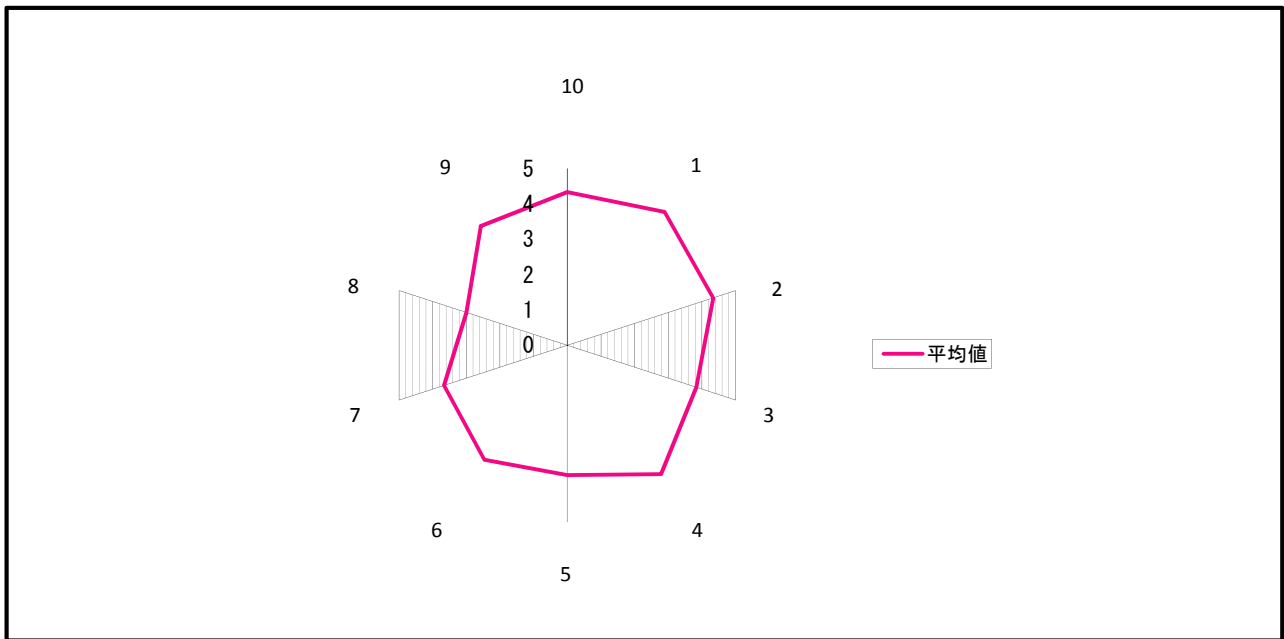
教員のコメント

受講生から積極的な評価を得られたと思う。
 集中講義でフィールド・ワークと史料演習を行い、受講生は2度の発表を行った。受講生はよく作業を進め、適切な発表につなげてくれたと思う。
 「教師の実践力の育成」は本授業における従来からの課題である。教育の歴史研究の意義について、授業のガイダンスで話すものであるが、その受けとめ方は受講生において異なるであろう。今後も授業改善に努め、教育史研究授業の進展を図りたい。

結果報告書

授業科目名 教育哲学研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 木内 陽一 回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		2	1			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3					4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	3	1	1			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	2				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	2	1			3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	2	1	1		3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	1				4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	4					4.3



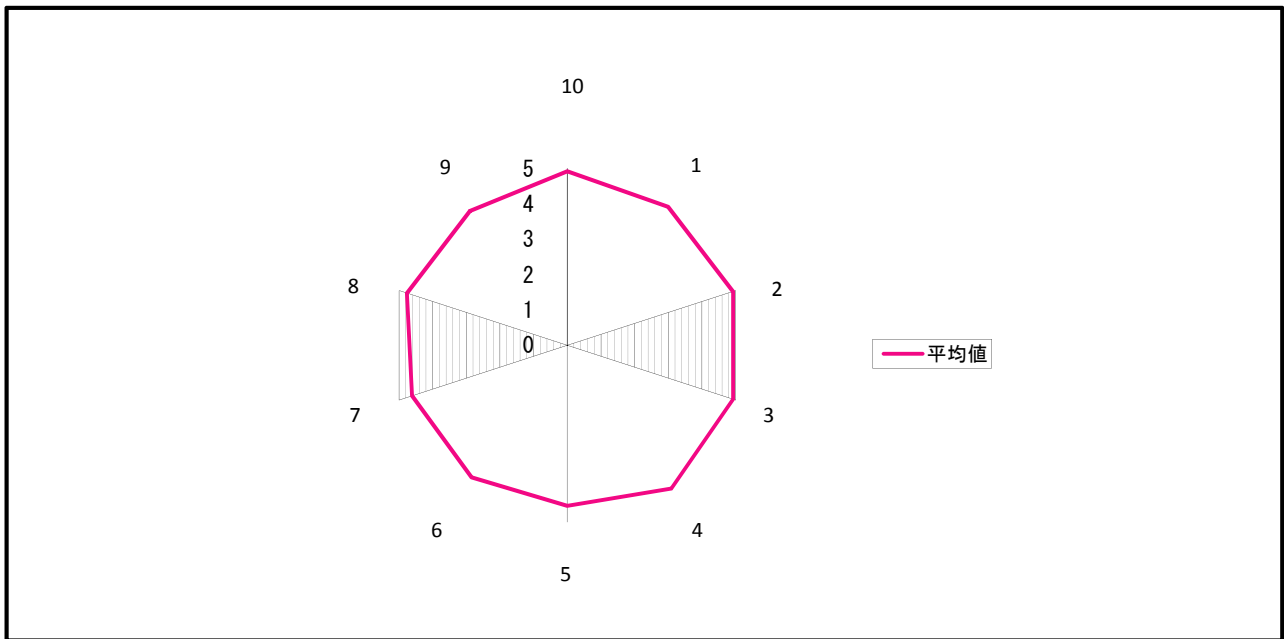
教員のコメント

人生とは早いもので、若手のはずが、気づいてみると職業生活も五年を残すのみとなった。残る五年間を受講生にとっても、私にとっても、意義あるものになりたい、という祈りにも似た気持ちがあふつとわいてくる。このような心境で、本年度から新たな教科書を使うことにした。小笠原道雄著『日本教育学の系譜』である。大学で学ぶ教育学の基礎知識の中でも、日本における教育学の展開に関する基礎的素養は、学校教育学部大学院修了生にとって、重要な教職教養の一部をなしていると考えられる。私にしても、ドイツ教育学の研究に軸足を置きながらも、日本における教育学の展開には、多大の関心を払ってきた。受講生との議論の中で、自分自身の混沌とした理解を、より明晰な論述へと練り上げることが出来ないか、という思いがそこにはある。具体的な指導としては、レジュメ作成の際に、(1)当該箇所の概要をまとめること、(2)自分でまとめた部分の論述について、自分自身の視点からは、どのように考えられるか、の二点に留意してまとめるように指導した。受講生は徐々に私の要求に近づいていくのがわかった。彼らの努力を多としたい。ただ、これが最大の問題であるが、受講生の読書量が少なすぎて、これほどの良書を自己の血肉とすることができないのだ。読書好きな院生に出会いたい！ いや、これ自体が矛盾に満ちた表現で、読書嫌いな院生とは考えられないのだ。授業で繰り返し述べたように、キムチの嫌いな韓国人、カレーを食べないインド人、ビールを飲まないドイツ人(ただし、最近はドイツでもノンアルコールビールが普及しているそうだが)、のような不可思議な存在といえる。アンケートで評価の低い板書や視聴覚機器の使用については、適切になるように努力したい。

結果報告書

授業科目名 発達健康心理学研究
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 山崎 勝之 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	4	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	3	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	1	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	1				4.9



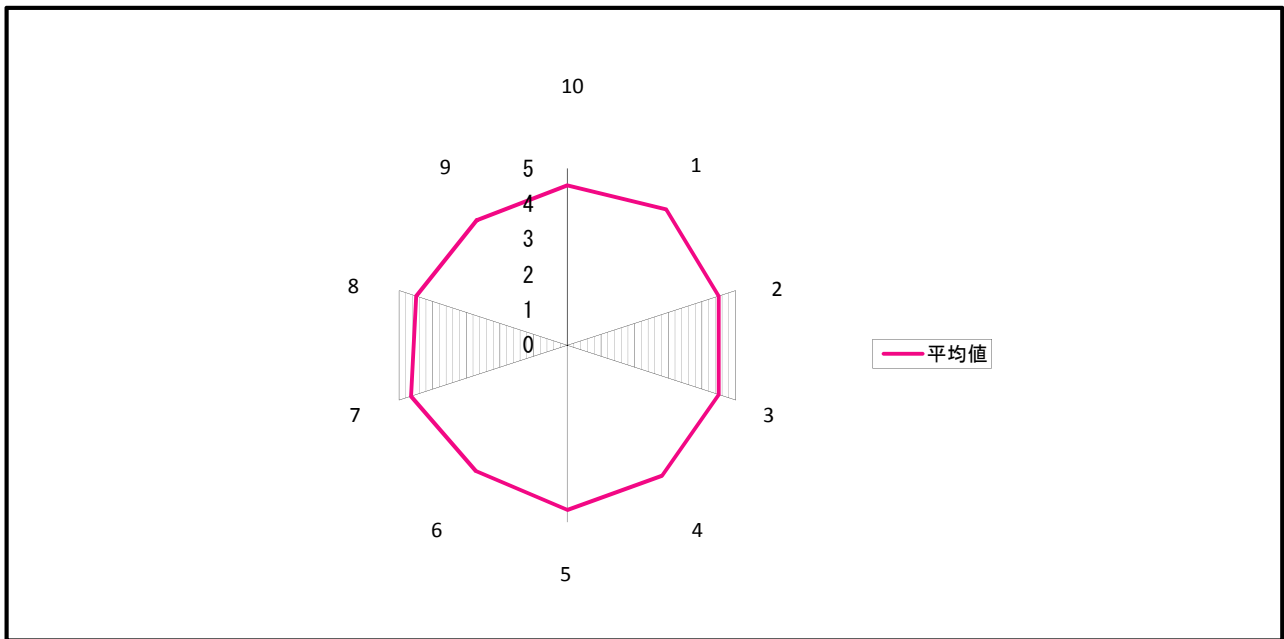
教員のコメント

総合評価平均が4.9となった。かつて5.0になったこともあり、順調に高評価を得ていると言えるのだろうか。
 この授業の目標は、独創的な考えに至り、それを主張できることにある。その目標が達成できたかどうかを省みると、道半ばという感がある。この目標は単なる知識や技能の獲得と比較して、はるかに困難で時間がかかる。そのことを考慮すると、この授業はそのスタートラインに立たせるほどの目標達成とすることが現実的で、残りは後期の授業などに引き継ぎ、長期的な指導視点が必要かもしれない。
 いずれにしても、受講生は真摯に参加し、よく考え、よく発言した。すばらしい受講姿勢であった。この姿勢がある限り、本授業の目標が達成される日も近いことであろう。

結果報告書

授業科目名 教育認知心理学研究
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 皆川 直凡 回答者数 20 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	15	5					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	8	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	8	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	7	1				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	7					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	8	2				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	7					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	8	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	8	2			1	4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	7	1			1	4.5



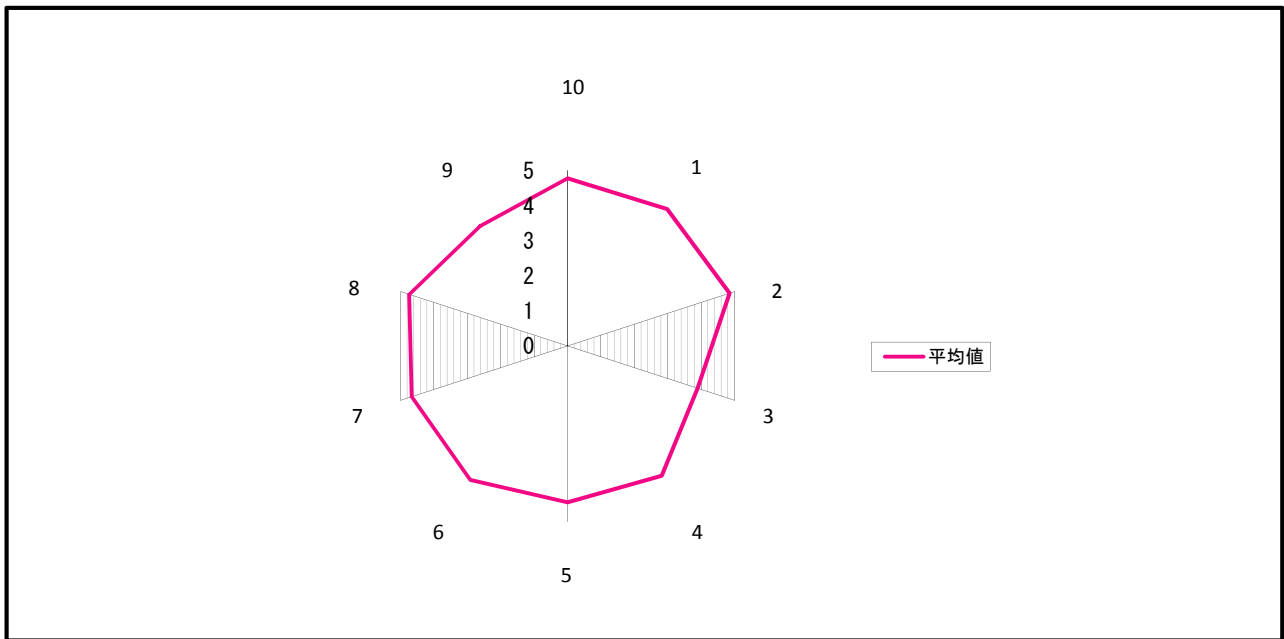
教員のコメント

総合評価5と4への集中度と平均値の高さ、および評価2以下が付けられた項目が皆無であったことから判断して、全体として高評価を得たと考えられる。自由記述も、大半が好意的であった。総合評価3は、無回答の1名を除いて1名にとどまり、その1名は項目(4)と(9)の2項目において3の評価をしていたが、評価5が6項目を占め、評価が4が1項目であった。評価3が複数あるのは、もう3名おり、それぞれ項目(3)と(6)、項目(6)と(8)、項目(2)と(9)で評価を3としていた。この3名の総合評価はいずれも4であり、ニーズの個人差を反映している。言い換えれば、これら4名以外は、個別項目のすべてと総合評価において4もしくは5の回答をしており、オール5の回答者も5名いた。これらの結果は、本授業科目の前年度における授業評価を受けて授業改善をおこなったことの結果であると言える。自由記述には、さらなる授業改善の方向性を具体的に示す記述も得られたので、自己反省も含めて、次年度以降の授業の構成と展開に反映させたいと考える。

結果報告書

授業科目名 精神医学研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 今田 雄三, 古川 洋和 回答者数 27 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	22	5				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	4				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	6	8		2	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	10	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	16	9		2		4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	6	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	20	5	2			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	21	5	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	14	2	1		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	21	6				4.8



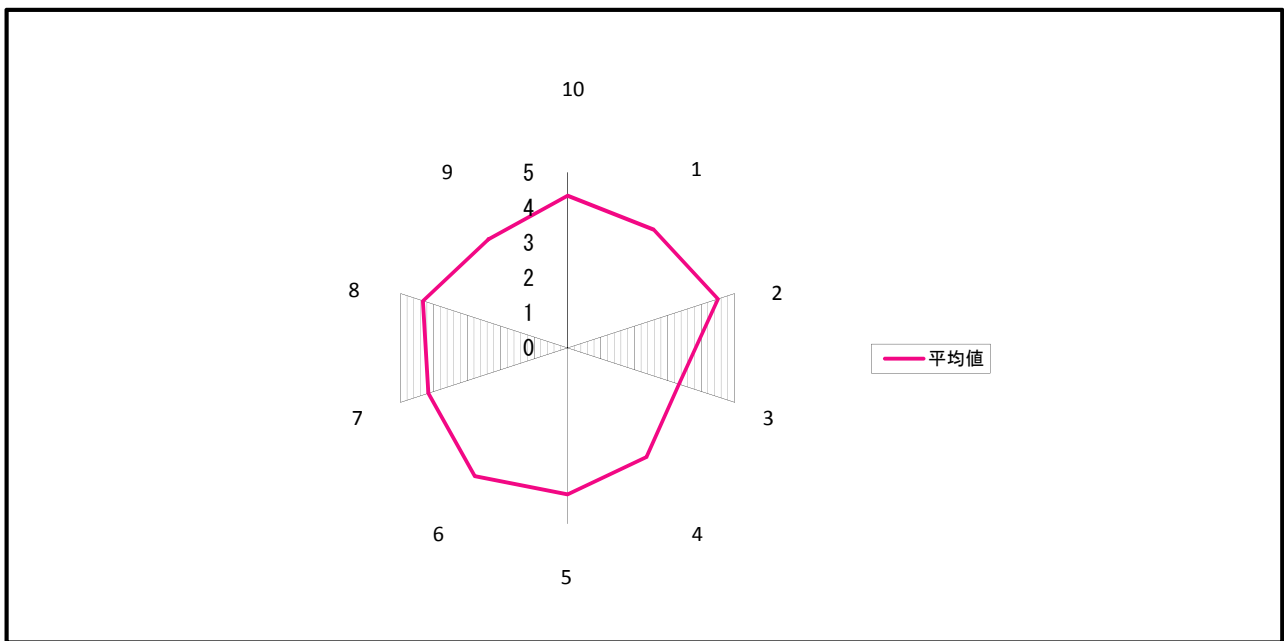
教員のコメント

質問10項目中9項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(10)「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」では4.8点と評価されており、受講生からは高い評価を得られたものと考えられる。なお「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」に関する評価は3.9点とわずかに4点に達していなかったが、受講者の自由記述にはこの項目の評価が低くなった理由の記述は含まれていなかった。[2]の本授業のよかった点では「精神医学について詳しく学ぶことが出来た」と評価する者が多かったものの、精神医学の知識が教育現場においてどのように生かされるのかを十分に感じ取れなかったのかもしれない。今後は精神医学の実践知が、教員の実践力向上にとっても重要であることが十分に伝わるよう、より丁寧な導入、解説や具体例の紹介などを一層工夫したい。また自由記述では、[3]の授業の改善点として、「進行が早かった」という意見が見られた。精神医学の学問としての特質上、必然的に多くの情報を提示することが必要になるのだが、今後は限られた授業の枠の中での進行について今一度吟味し直したい。「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に関する自由記述では、「しっかり授業を聞いた」「関連する本や文献に当たった」といった肯定的な記述がある一方、「難しくついていけないことがあった」「復習ができていなかった」といった受講者自身の姿勢について反省する記述も見られた。今回のアンケート結果を参考にして、次年度以降は授業で提示する情報量や進度を吟味し、また受講生がより主体的・積極的に授業に取り組める工夫をしていきたい。

結果報告書

授業科目名 精神医学文献演習
 評価実施日 平成27年7月22日
 担当教員名 今田 雄三, 小倉 正義 回答者数 6 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	3	1				4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3					4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	4				3.3
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3	2				3.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	3	1				4.2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	3					4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	3	1				4.2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3			1		3.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2	1				4.3



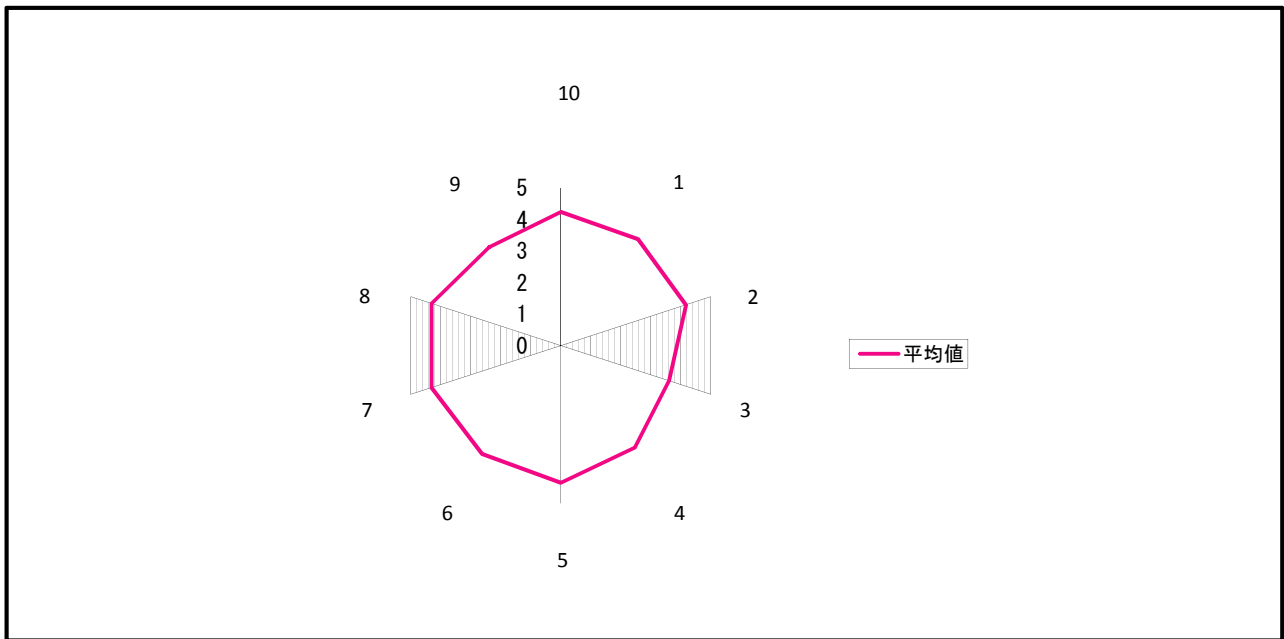
教員のコメント

質問10項目中7項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(10)「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の評価では4.3点と評価されており、受講生からは高い評価を得られたものと考えられる。評価の平均点が4点に達していなかった3項目のうち、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった」については、自由記述ではこの項目に関連した記述はなされていなかったが、引き続き専門領域についての知見を深めるため、必要に応じて外国語の文献に当たることは、教育者として学問の本質に触れる貴重な機会であることを受講生に喚起していきたい。また、質問項目(4)の「成績評価の方法の説明は、適切であった」に関しては、自由記述に直接この項目に関わる内容は述べられていなかったもの、今後は明確な成績評価の基準を明示するように考えたい。また、質問項目(9)の「授業に主体的・積極的に取り組んだ」に関しては「長文の英語だったが頑張って訳した」「積極的に取り組んだ」という肯定的な記述と「予習が間に合わなかった」という率直な反省の記述が見られた。なお自由記述では「英語の文献に慣れた」「英語アレルギーが縮小に向かいました」「文献の内容を丁寧に教えて貰えた」ことを評価する記述がある一方、「長文の翻訳は難しい」「もう少し一文一文の訳の解説をして欲しかった」という感想があり、また「受講生のレベルにばらつきがある。もう少しレベルを下げると全員が主体的に参加できるのではないか」という意見も寄せられていた。アンケート結果を反映させ、授業の設定や構成について引き続き検討したい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究 I
 評価実施日 平成27年7月23日
 担当教員名 吉井 健治 回答者数 29 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	11	5	1		4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	9	4	1	1	4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	11	7	2	2	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	7	11			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	15	10	3	1		4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14	9	5	1		4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	15	10	3		1	4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	11	3	1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	10	7	3		3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	11	4	1		4.2



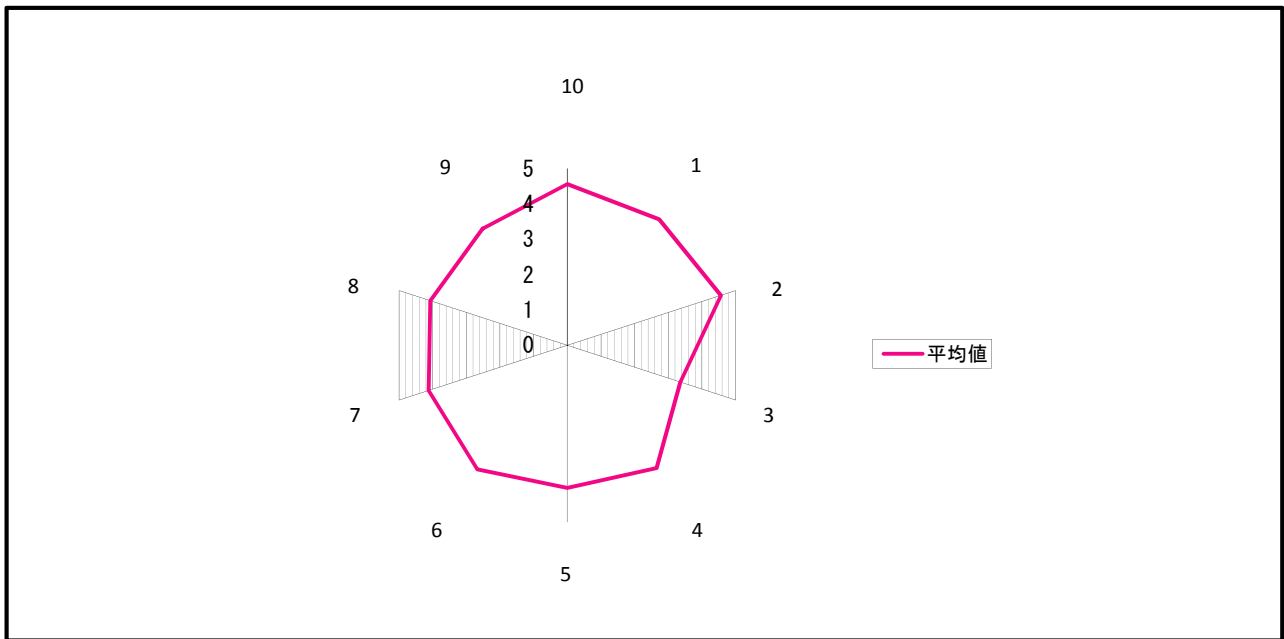
教員のコメント

ほとんどの項目について、評価の平均値が4.2または4.3だったので、おおむね高い評価を受けたと考えられる。ただし、「教師の実践力の育成につながる内容であった」は3.6で低かったが、本授業は臨床心理士養成のための内容であるので仕方ない。自由記述をみると、この授業で良かった点については、「様々な心理療法について分かりやすく説明してもらって理解しやすかった」、「内観療法や自己心理学の話は興味深かった」、「先生が実際に経験された話をしてもらえたので分かりやすかった」など肯定的な感想だった。また、この授業の改善点については、「マイクを回しているいろいろな人の意見を聞きたい」、「指名して当てられるともっと集中できたかもしれない」、「グループ活動があれば良かった」などがあった。こうした改善点については、一方的な講義にならないように、学生に当てて意見を発表してもらったり、グループで話し合ったりする方法を工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究Ⅱ
 評価実施日 平成27年7月24日
 担当教員名 葛西 真記子 回答者数 39 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	11	4		1		4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	11	1		1		4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	8	14	4	4		3.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	18	16	4		1		4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	16	9		1		4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	21	13	3	1	1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	17	14	5	2	1		4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	17	5	3			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	14	6	2	1		4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	26	11	1		1		4.6



教員のコメント

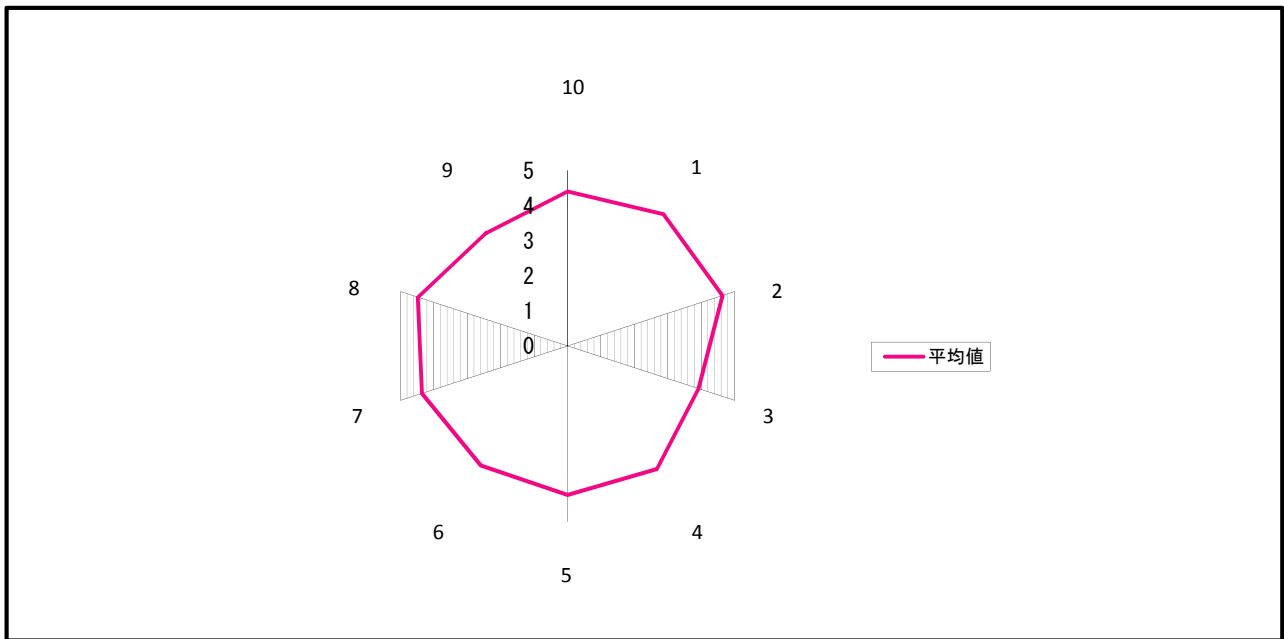
本講義の総合評価は、4.6であり、高得点であると思われる。しかし昨年度の4.8に比べると若干低くなっている。その要因について考えてみたい。もっとも大きな違いは、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であったか」という設問が、3.9から3.4に下がっていたことである。しかしこの設問は、現職である場合、教師を目指している者にとっては意味のある項目であるが、本臨床心理士養成コースは教員を目指していない者も多く在籍しているので、「3 どちらともいえない」に回答したものが多かったように思われる。本項目の改定を希望する。

次に自由記述から本授業の改善点について考えると、「良かった点」としては、「実際の事例を通して学べた」というものも多かった。また、「理論についての説明がわかりやすかった」、「参考文献の紹介がはじめにあって勉強しやすかった」というものもあり、この点については来年度も引き続き実践していきたいと思う。改善点については、「進むスピードが速い」「もう少し細かく学びたかった」「予定通りにすすまなかった」という内容に関するものと、「エアコンがうるさかった」という環境に関するものがあった。内容に関するものについては、毎年、進度が速いという意見があるので、少しずつ改善しているつもりであるが、さらに遅くすることも今後考える必要があるだろう。予定通りに進まない点については、内容にかかわってくるので、できるだけ予定通りに進めるように気を付けたいと思う。全体的に学生は積極的に参加し、自分自身の担当ケースについて内省する機会があったようで、本授業の目的と合致していた。

結果報告書

授業科目名 学校精神保健学研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 今田 雄三 回答者数 25 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	17	7	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	9				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	8	6	1	1	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	11	3			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	13		2		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	9	4	1		4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	15	5	4	1		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	16	6	2	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	11	6	1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	11	2			4.4



教員のコメント

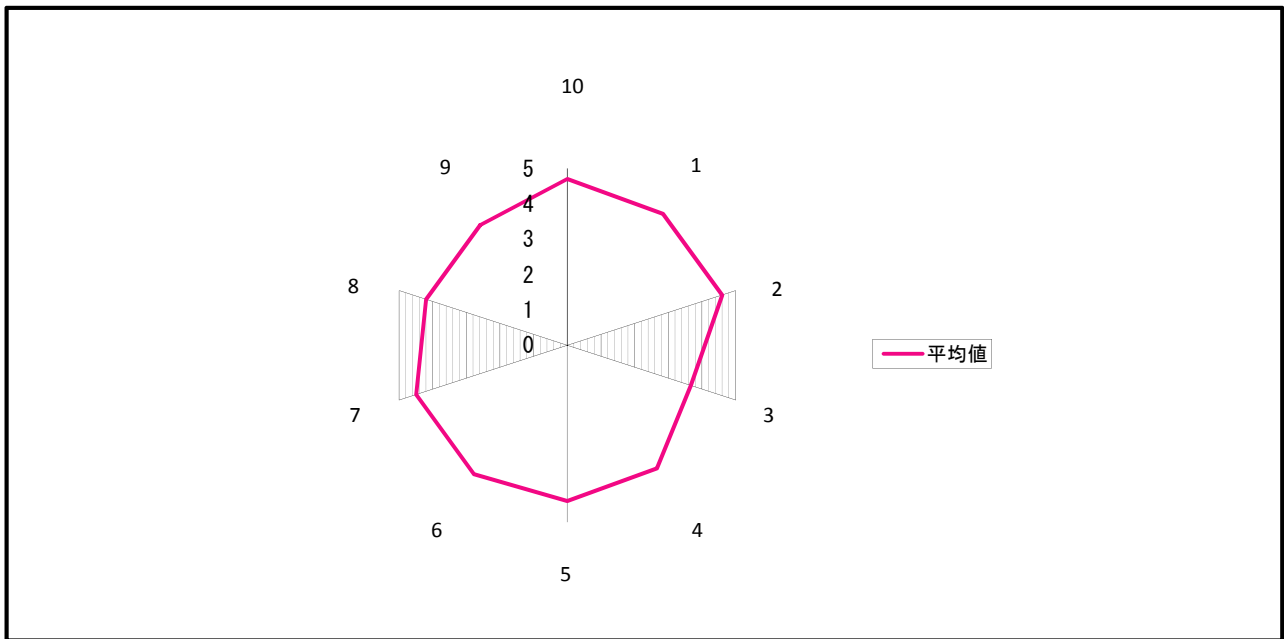
(1)～(10)の各項目ごとの評価では10項目9項目で4点台をを獲得し、(10)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」では4.4点の評価を得ており、本授業は受講生から高い評価を得たものと考えます。唯一(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった」については、3.9点とわずかに4点台に届かなかったが、今後はより一層学校現場における子ども理解や心の健康に関わる支援に直結した授業の構成や提示を心がける等、改善を心みたい。自由記述では「子どもの心の面について教わることができた」「PowerPointの視覚的な工夫がよい」といった肯定的な評価が見られた一方、「PowerPointの文字量が多いのもう少し減らしてもらえるとわかりやすい」「大事なことを教えてもらっているのだが、途中で退屈になってしまうことがある」といった指摘もあった。また講義形式主体の授業のため、どうしても受講者が受身的になってしまう傾向があり、今年度は授業内でグループワークや短い演習、事例の紹介などを行ったが、次年度以降も授業の形式をさらに工夫し、受講生がより主体的・積極的に授業に取り組めるように授業で提示する情報の量や、授業の構成、配分などに工夫を重ねていきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習 I
 評価実施日 平成27年8月7日
 担当教員名 久米 禎子, 今田 雄三, 粟飯原 良造, 中 津 郁子, 吉井 健治, 小倉 正義

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	1	1	1	1	3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	2				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	6					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	5					4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	5					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	6	1				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	6	1				4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	3					4.7



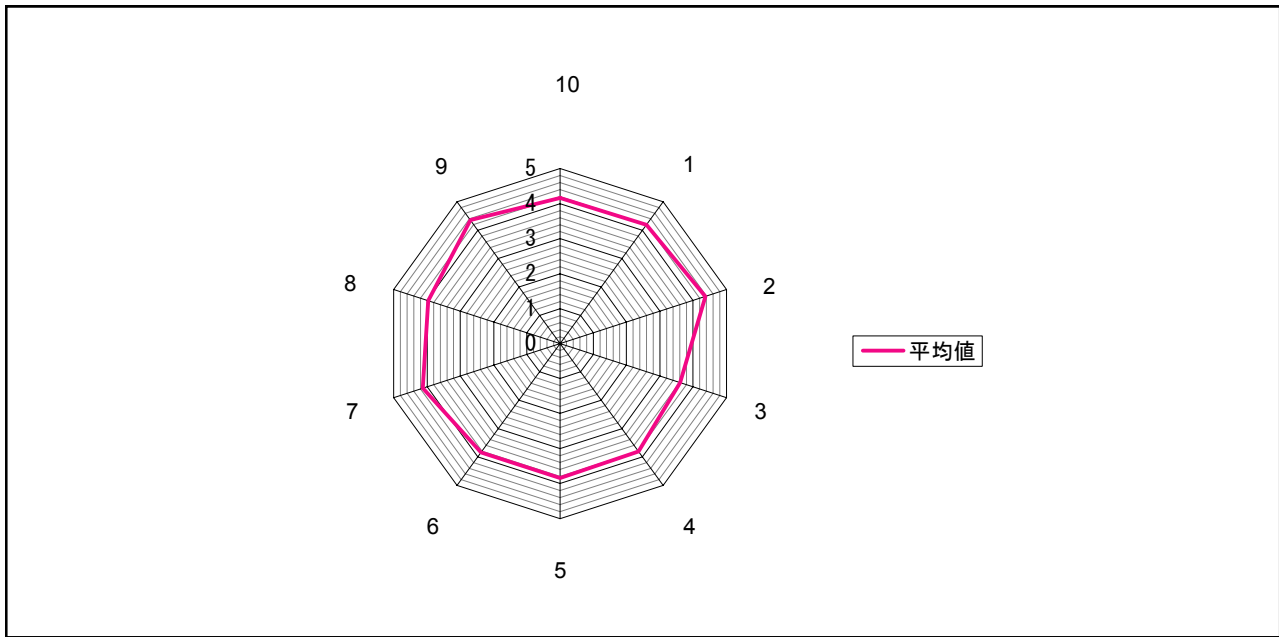
教員のコメント

本授業は臨床心理士を目指す大学院生のための専門的な内容の授業であり、(3)の評価が低くなっているのは、そもそも授業の目的が異なっているためであると思われる。(9)の授業への取り組みに関しては、授業で出された課題に積極的に取り組んだことが、この項目への評価につながっていたようである。課題への取り組みも大切だが、今後は、課題の有無にかかわらず、自発的な取り組みの姿勢も育成していく必要があると思われる。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究法特論
 評価実施日 平成27年9月11日
 担当教員名 葛西 真記子, 吉井 健治, 松嶋 秀明 回答者数 25 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	12	4			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	12	2			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	12	2		3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	8	8	2		3.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	8	9	1		3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	6	10	1		3.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	6	8			4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	6	7	2		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	14	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	10	4	1		4.2



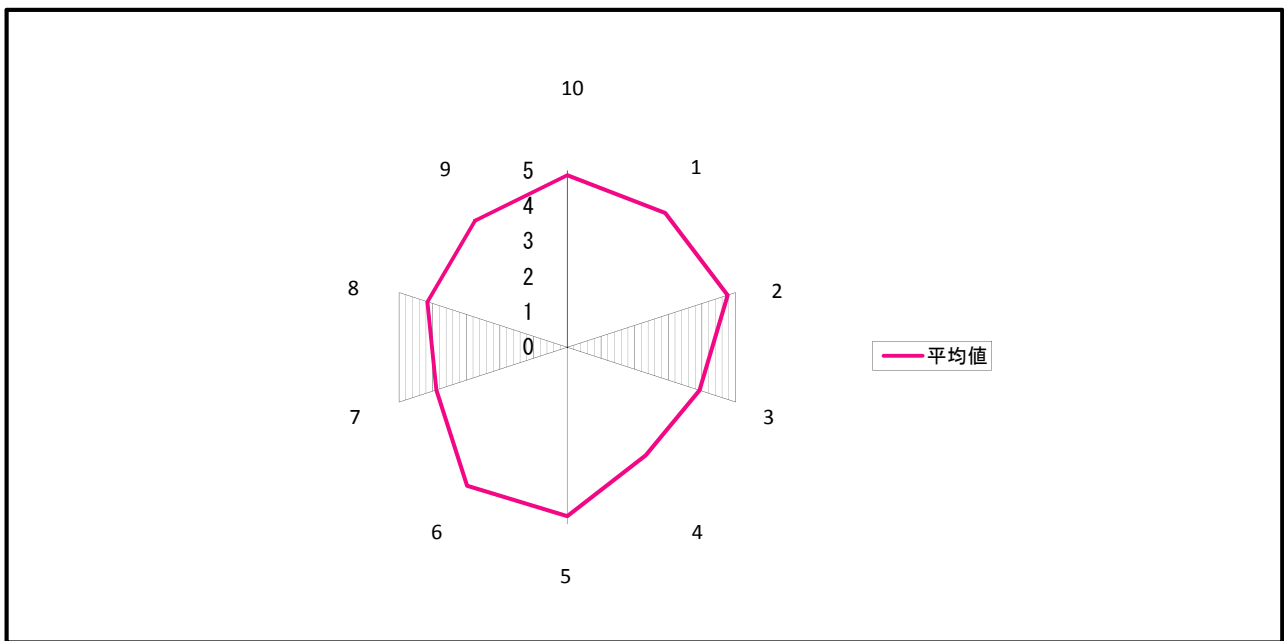
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接演習
 評価実施日 平成27年7月23日
 担当教員名 中津 郁子, 粟飯原 良造, 今田 雄三, 葛西 真記子, 吉井 健治, 小倉 正義

回答者数 30 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	22	7	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	7					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	9	9	1		2	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	8	11	1	1		3.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	25	3	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	5					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	6	9		2	1	3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	16	7	5		2		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	9	4				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	26	4					4.9



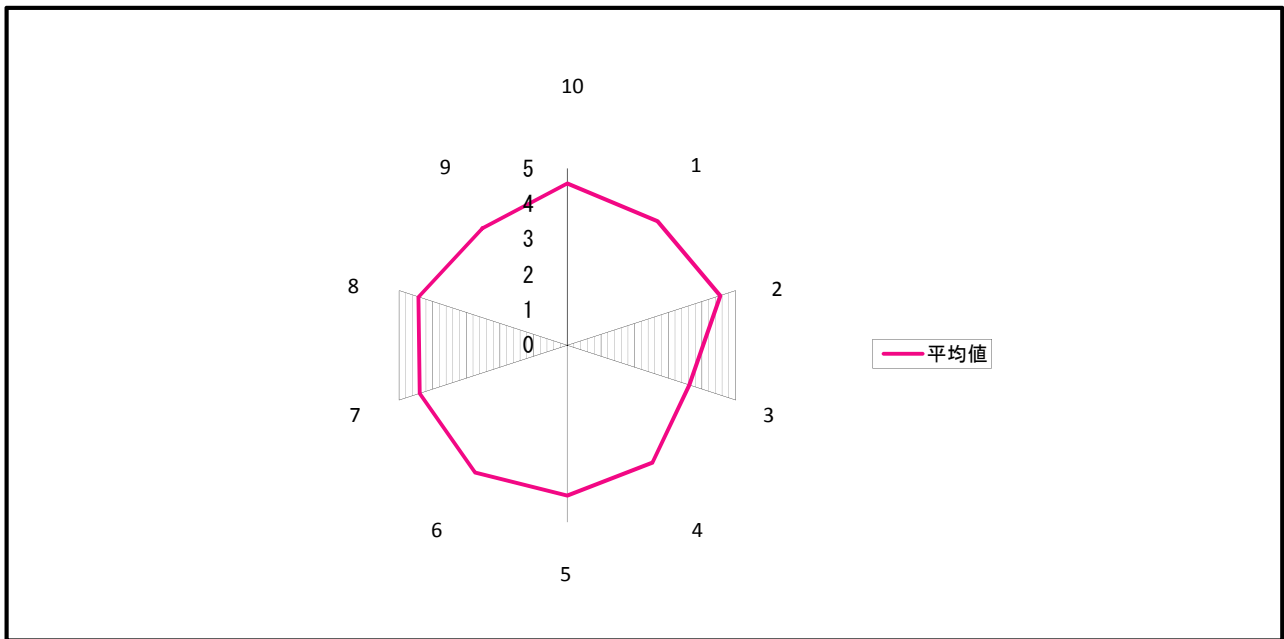
教員のコメント

この授業は院生が6つのグループ(1グループが5人の院生と教員1人)に分かれて、ロールプレイを行いグループ討議をするという授業である。面接場面での傾聴技法の習得など、相談室での面接を担当する上では重要な授業である。前年と同様、総合評価が4.9ととても高い評価になっている。院生にとって満足のいく授業であったと考えられる。しかし、「(3)教師の実践力」に関する項目がやや低くなっている。これは、毎年のものであるが、教師を目指していない学生がほとんどなのでイメージがしにくい項目である。また、「(4)成績評価」に関する項目と「(7)配布資料」に関する項目がやや低くなっている。グループによる異なりも考えられるが、全体オリエンテーションを充実させていきたい。院生のコメントを見ると、ロールプレイを行うことで、「少人数で話が聞きやすく」「実践的な」授業であったことや、「意見や助言をもらえること」で「自分の癖や課題が明確に」なり「面接の技術が向上」したことなどを「良かった点」として多数の人があげていた。[3]「改善点として」は、各グループの担当先生によって特色があることに関することや「手本となるカウンセリング場面を視覚的にイメージしたい」というようなことだった。これもオリエンテーションの時の説明を工夫していきたい。[4]「授業に主体的・積極的に取り組んだ」理由では、「臨床現場での実践につながる授業」であることや「実力を伸ばすために必要」と思ったことで、「問題意識を持って取り組む」ことが出来ており、臨床家として大事な授業の一つであることが自覚されていた。[5]「その他、感想等」には、「貴重な授業であった」などや感謝を述べられているのが多かった。全体として、これまで授業評価を参考に、授業の改善を継続して行ってきたことが学生の満足につながっていると考えられる。今後も事前の説明や全体での授業内容を充実させていきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究Ⅱ
 評価実施日 平成27年7月23日
 担当教員名 粟飯原 良造 回答者数 33 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	17	12	2	2		4.3	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	7	1	2		4.5	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	7	9	5	1	1	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	16	4	2		4.1	
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	17	1	2		4.2	
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	19	10	1	2		1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	20	9	2	1	1		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	18	13	1		1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	15	4	1	1		4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	25	5		3			4.6



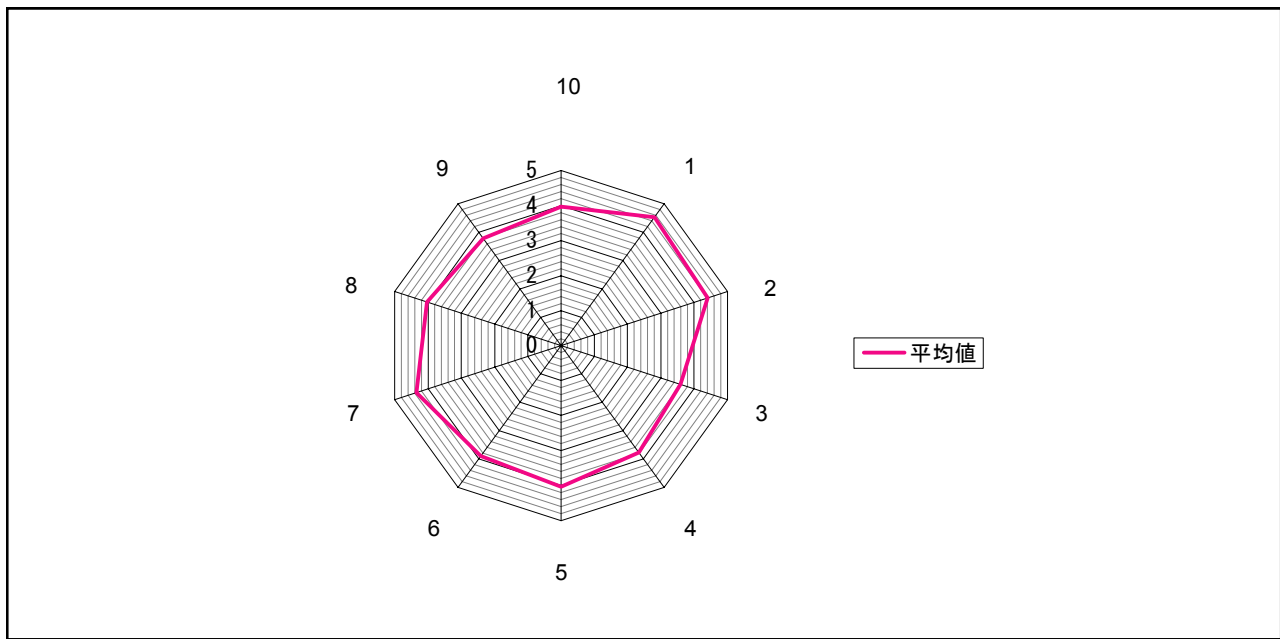
教員のコメント

質問項目(3)「教員の実践力につながる」が3.6と最も低かった。臨床心理士を目指す受講生であるので、臨床心理学と教育学あるいは心理士と教員は違う技術を用いているとの思い込みがあり、講師がそれを覆せなかったためとも割れる。その他の質問項目(1)(2)(4)～(9)は4.1～4.5であり、総合評価である項目(10)では4.6が一番高くなっている。これは受講生が講師や授業内容を批判的に見る目を持ち、かつ第三者的視点で総合評価をしたと思われる。もし、そうであれば心理士としての在り方に近づいたと思われる。自由記述では、テキスト(冊子)があり自分なりの書き込みをして自分だけのテキストが作れたこと、実際の面接と連動して理解が深まったこと、実技試験で受講生自身の面接での持ち味がわかったこと、ワークがあり理解が深まったことが書かれていた。テキストに誤字・脱字が多い、質問される受講生が限られていた、講師から質問されたときに答えられるまで質問されて辛かったとそれぞれ1名ずつが記載していた。以上の点から、受講生のニーズと本講義が提供した物は大きはずれはなかったと思われる。

結果報告書

授業科目名 社会心理学研究
 評価実施日 平成27年9月30日
 担当教員名 佐藤 健二 回答者数 32 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	18	13	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18	10	3	1		4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	8	16		1	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	10	11	2	1	3.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	15	2	4		4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	11	7	2	1	3.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	15	14	2	1		4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	17	2	2	1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	14	6	3	1	3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	12	4	3	1	4.0



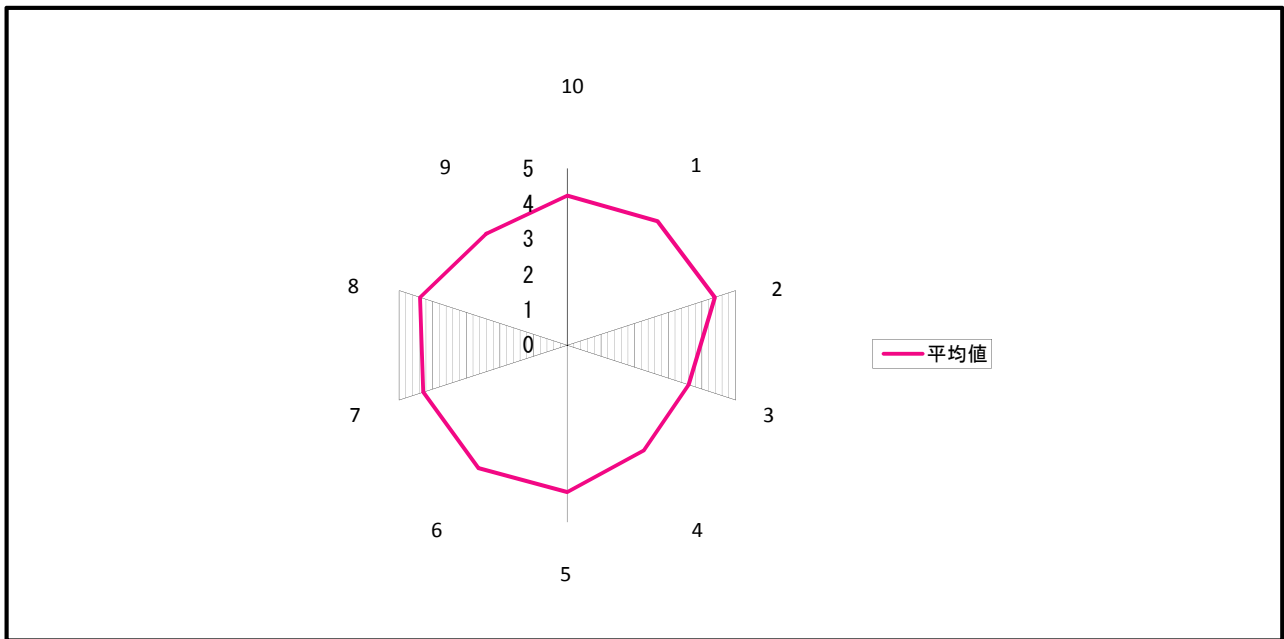
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 心理臨床特別研究
 評価実施日 平成27年9月27日
 担当教員名 高村 茂

回答者数 21 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	8	3				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	7	3				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5	8	1	1	1	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	6	9			3	3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	5	2	3			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	7	1	2			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	6	3	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	9	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	11	4		1		3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	9	2	1			4.2



教員のコメント

授業内容としては今までに公表された研究知見が中心であったが、エビデンスを重視したので、多少、専門性が高いと思われた。しかし、犯罪(捜査)心理学という特殊な分野でもあり、受講生は熱心に聞いてくれたと思う。授業の前半は、ポリグラフ検査やプロファイリング(犯人像推定)など、実際の犯罪捜査で応用されているテーマを中心に構成し、後半は、さまざまな捜査面接(容疑者や目撃者等の他、子どもを対象とする司法面接)、犯罪被害者支援、災害時などにおける被災者支援、支援者のメンタルヘルスなど、ラポールの構築や傾聴手法が核となる臨床心理学と関連の深いテーマを中心に構成した。結果的には、どちらかという前半のテーマで質問が多かったのが意外であった。

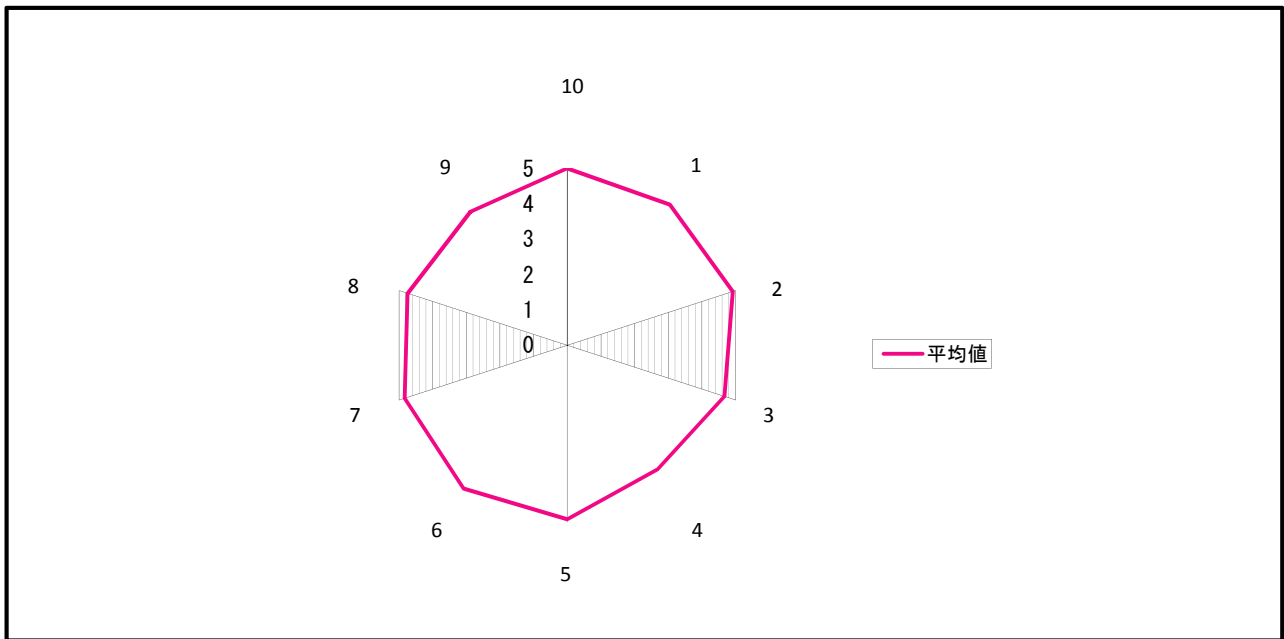
また、直接的に教員養成とは関連性は低いテーマが多いためか「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」での評価平均値が低かった。さらに、広範囲なテーマを網羅しているのも、自由度の高いレポート試験を実施したが、「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。」でも評価平均値が低い値となった。もう少し、レポート課題を具体化した方が、受講生には取り組みやすかったかもしれない。

自由意見では、犯罪心理学という特殊な分野に接することが興味深かったという意見が多かったが、もっと受講生参加型の授業形態を希望する声もあった。今後もこのような授業機会があれば、ロールプレイングやグループ討議等を含めたアクティブな授業を盛り込み、受講生の意見を反映したいと思った。

結果報告書

授業科目名 幼年期福祉研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 木村 直子 回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2	3			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12					5.0



教員のコメント

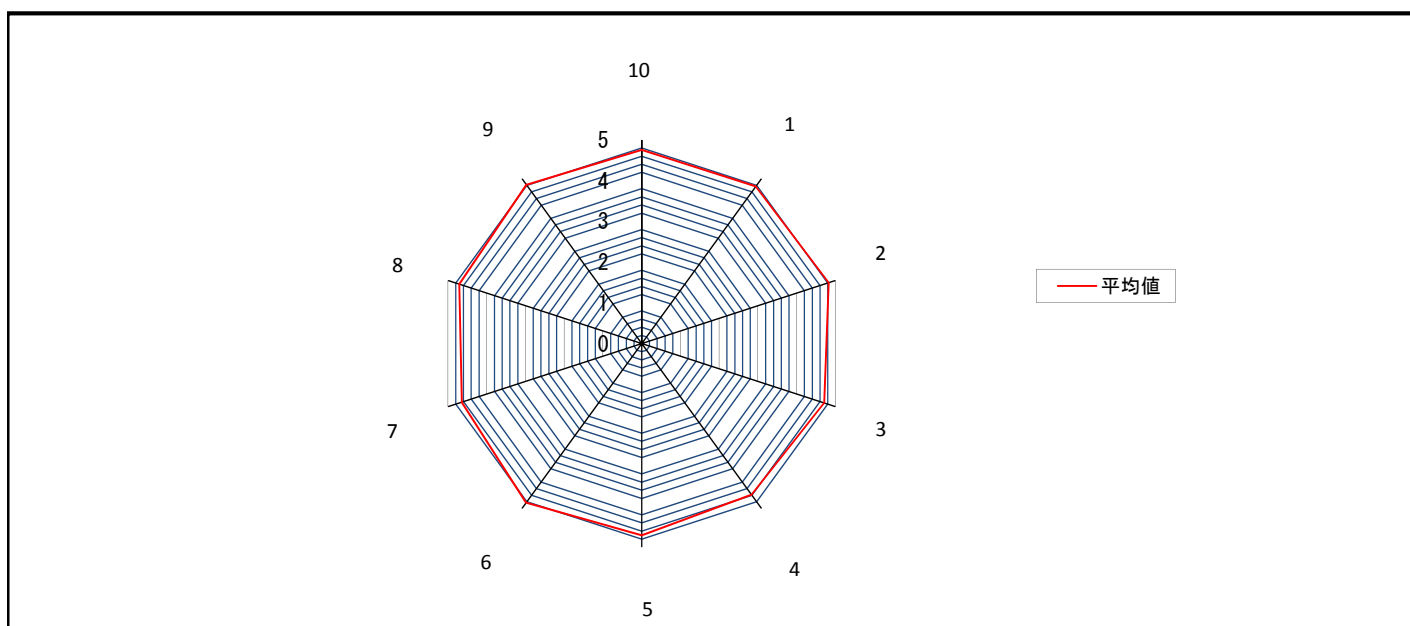
今年度も様々なコースの方が履修してくださった。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。また、講義科目ではあるが、対話型の授業を行っており、そのことが「授業内で毎回ディスカッションがあり、他の人の意見や考えを聞く機会があり勉強になった」「毎回全員で意見を共有することができてよかった」「皆でディスカッションすることにより、より考えを深めたり、新しい考えを取り入れることができた」といったコメントに繋がったと考える。さらに、ここ数年の課題であった「授業に主体的・積極的に取り組んだ」という点も改善されている。コメントの中でも「毎回主題について授業時間外に真剣に考えた」「授業内で気になった部分を自分なりに深め、授業に活かそうとした」といった記述があった。一方、授業の進め方等詳細に見ていくと、改善の余地が残る部分もある。とりわけ、成績評価の方法については、やや低い評価となっている。成績評価については、学部及び大学院の授業において力を入れており、いずれも初回オリエンテーション時に受講する学生全員で話あってもらい、決めていく。自分たちで決めることで、授業へのモチベーションをあげてもらおうという試みなのだが、課題があるといえる。

結果報告書

授業科目名 幼年発達心理研究
 評価実施日 平成 27年 7月 30日
 担当教員名 田村 隆宏

回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	2	1			4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	3				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	5				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	5	1			4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	12	5				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	14	3				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11	6				4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	3	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	3				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	4				4.8



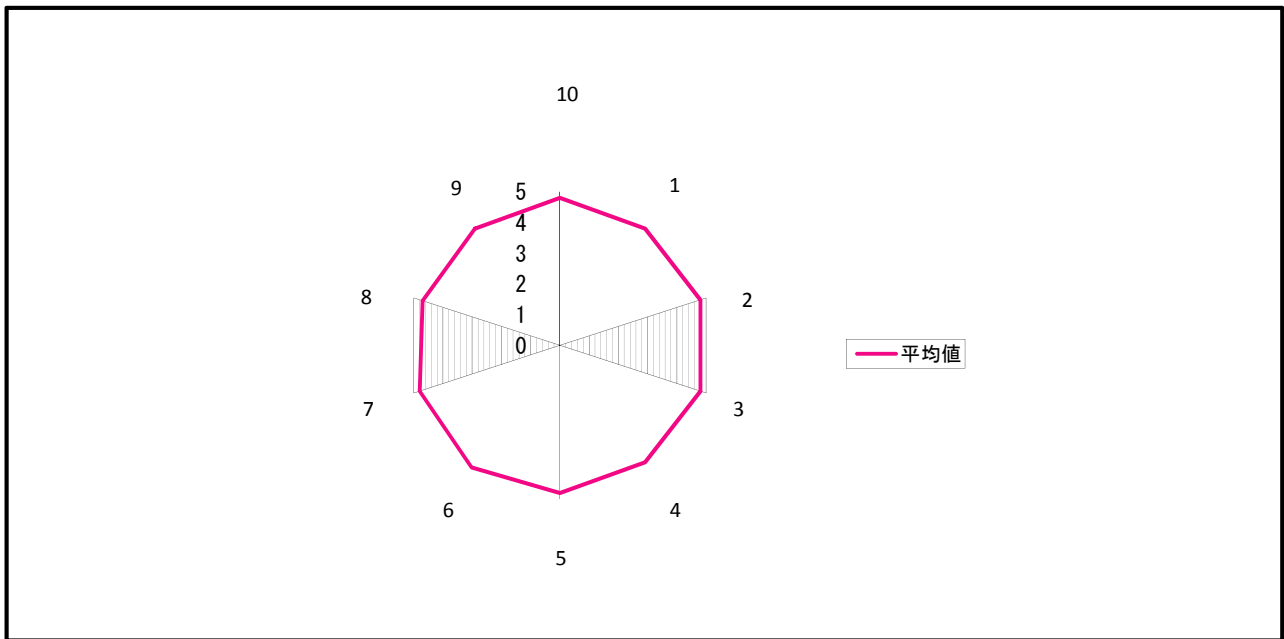
教員のコメント

すべての項目で、平均評定値4.6以上であり、受講者のほとんどが5の評定をしていることから、本講義においては概ね高い評価を得ていると考えられる。受講生の自由記述の内容では、よかった点として、「グループでのディスカッションの時間があり、自分にはない考え方に触れることができた。」「教育実践とのかかわりを常に考えながら内容を理解できた。」「ノートをとる時間、説明の時間、討論の時間がきちんと分けられていて、とても理解しやすかった。」とのコメントがあり、グループ討論や教育実践との関わりを論じること、授業の形態については今後も持続しつつ、さらに洗練させる必要がある。ただし、質問項目に対する回答で項目(1)、項目(4)、項目(8)に「どちらともいえない」の3に評定した受講者が1名いたことから、これらについてはさらに質を高めていく必要があると考えられる。

結果報告書

授業科目名 こころの発達支援研究
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 浜崎 隆司 回答者数 10 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9		1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2				4.8



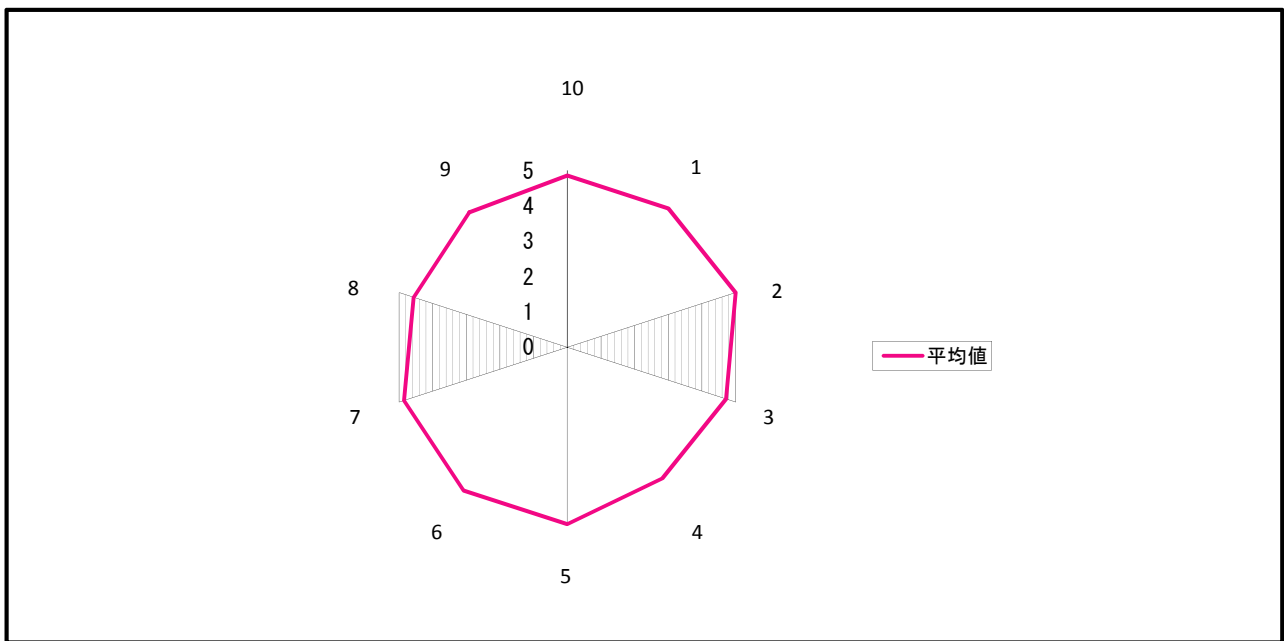
教員のコメント

総合的な評価は4.8とおおむね高い評価を得られた。本年度は、特に対人関係を重視する選択理論心理学の理論と実践を授業に取り入れ、教師と児童、親と子、自分と友達といった様々な対人関係の中での良好な関係について、授業を展開した。教師の実践力につながったという評価が昨年よりも高くなったのは、その点が評価されたものではないかと考えられる。反省点としては、配布した資料がわかりにくいとのコメントもあったので、次年度改善していきたい。院生の授業への主体的な取り組みも4.7と評価が高く、授業だけでなく課題や討論も演習的に取り入れたことも高い評価につながったと考えられる。

結果報告書

授業科目名 幼年期教育学研究
 評価実施日 平成27年7月6日
 担当教員名 湯地 宏樹 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6		1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

本授業の受講者数は8人(昨年度16人)、その中の7人授業評価の結果である。昨年度は「(3)実践力育成」「(9)主体性・積極性」は「5」<「4」「3」であった。今年度は質問項目のすべての項目で「5」>「4」「3」であった。「(3)実践力育成」「(4)成績評価」「(8)板書・視聴覚機器」それぞれに「3」の評価が1名いた。学生の授業への取り組みに関する「(9)主体性・積極性」は平均が4.7と、昨年度の4.3よりもよかった。

自由記述[2]のよかった点には、「遊びに対して学術的な面で捉えるきっかけとなった」「遊びなど興味のあるテーマ」という内容面、「わかりやすい説明」「ていねいな説明(2件)」という授業者の指導面、「能動的な授業」「クイズがおもしろかった」「楽しく学ぶことができた」という授業方法面について書かれていた。

[3]の改善点については、「パソコン・AV機器などのトラブル」とあった。学期途中のパソコンの買い替えに伴う技術的なトラブルだったが、すでに改善している。

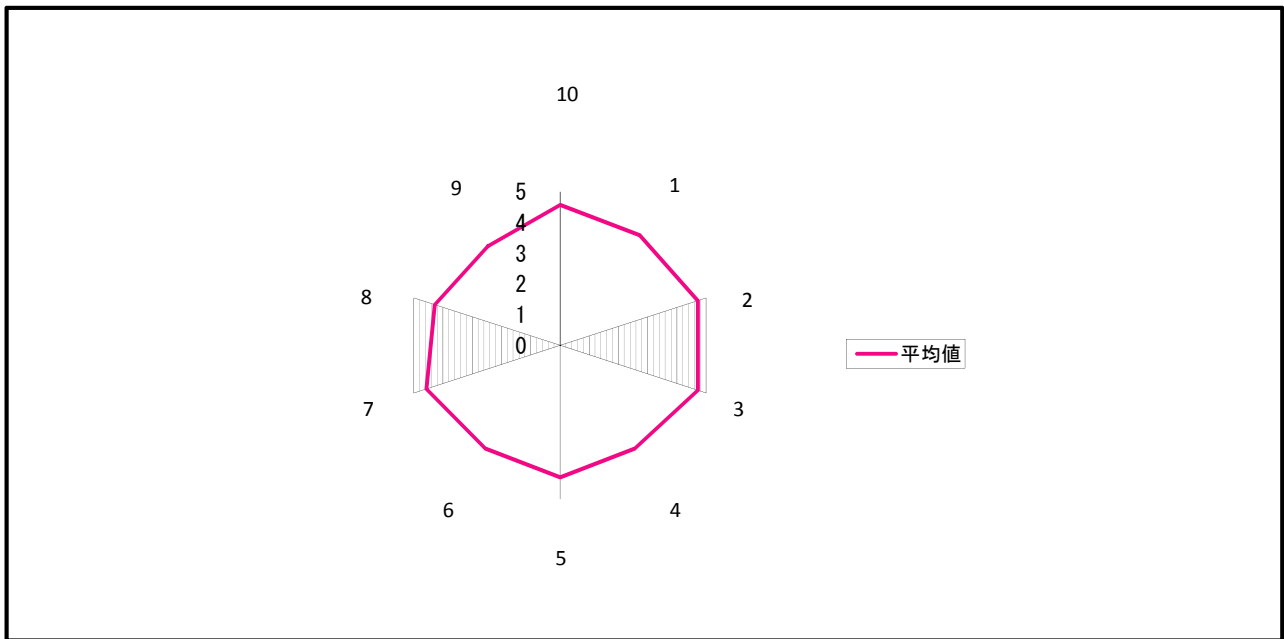
[4]授業の参加度については、「自分の意見を積極的に述べた」「興味のある内容」「一回も休まなかった」「集中して取り組んだ」とあった。

今年度は、昨年よりも意識してディスカッションの時間を多く設けたところが改善したところだと考える。来年度もさらにアクティブラーニングを取り入れるよう工夫したい。

結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論
 評価実施日 平成27年7月13日
 担当教員名 塩路 晶子 回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2	2				4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	4	1				4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	3				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	3					4.6



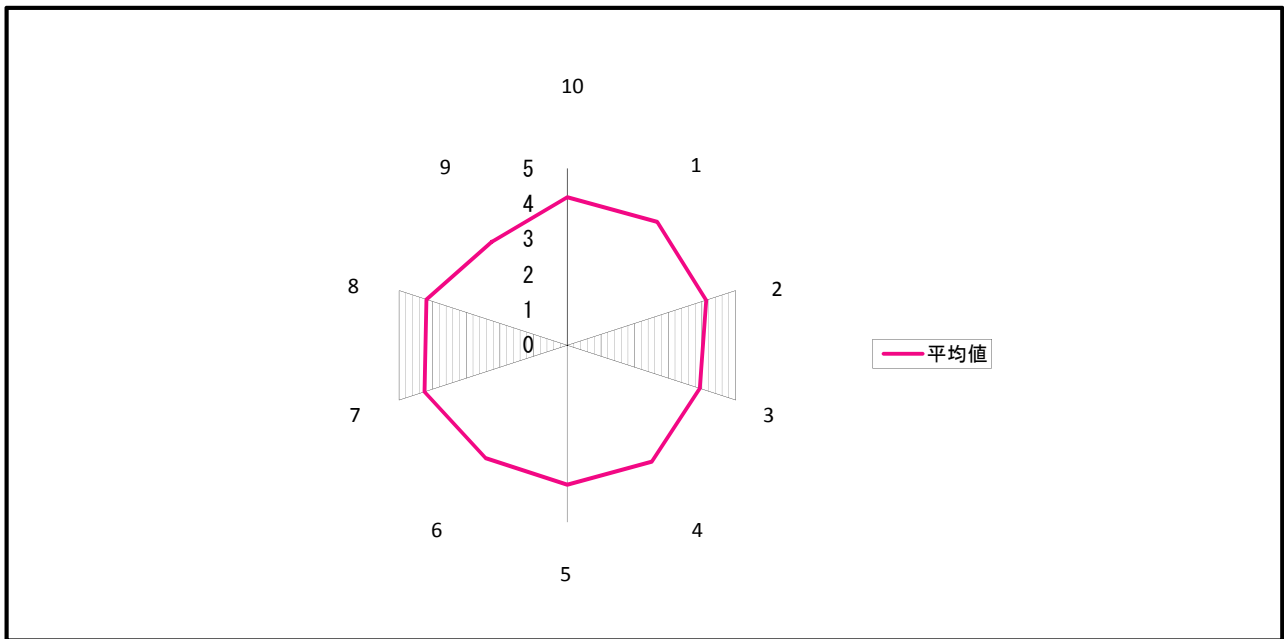
教員のコメント

本講義は、乳幼児を取り巻く現状や、世界の幼児教育の中での日本の幼児教育の位置付けについて理解し、どのような保育内容が子どもたちにとって相応しいのか、ということについて理解することを目的としていた。その際には、日本の幼児教育の歴史や小学校との連携も視野に入れて講義を展開した。受講生からの評価を見ると、専門的知識を深めることには概ね寄与できたようであり、高い評価をしていただいた。資料の提示に関しても、肯定的な意見が多かった。授業の進め方については、時間配分や、受講生がより主体的・積極的に取り組むことが出来るような工夫も含めて、さらなる手立てを考えたい。

結果報告書

授業科目名 文化とコミュニケーション
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 小西 正雄, 太田 直也, 金野 誠志 回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	6	1	1		4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	6	1	2		4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	4	2		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	6	1	1	1	4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	3	4	2		3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	4	5	1		3.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	5	2	1		4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	5	1	2		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	7	3	3		3.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	4	3	1		4.2



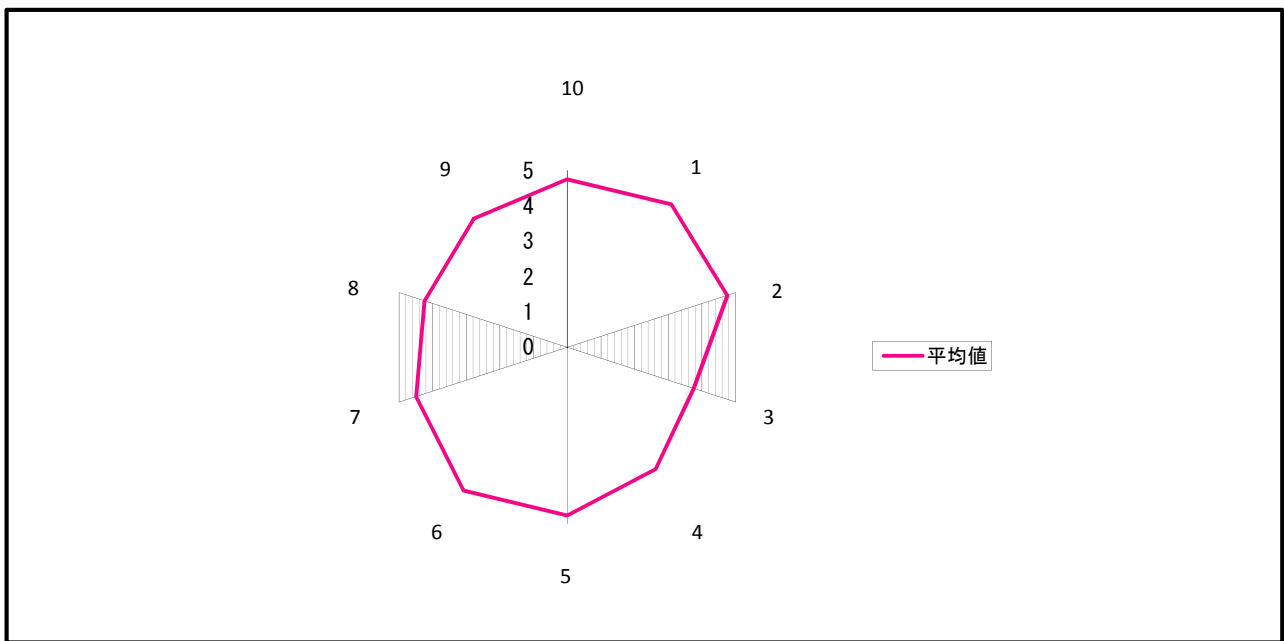
教員のコメント

総合で4.2のまあまあの評価を得たが、受講生の自己自身の取り組みが3.6と低い値になっている。この点を鑑み、今後は、アクティブラーニングの考え方をとり入れ、受講生の積極的な参加を促すことを課題としたい。その他、内容的に専門的な領域に踏みこむことも少なくなかったことから、理解不十分のきらいもあった。次年度以降は、受講生の理解度の把握に努力したい。

結果報告書

授業科目名 人間と文化 I (基礎研究)
 評価実施日 平成27年8月4日
 担当教員名 太田 直也, 小西 正雄 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3	1			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



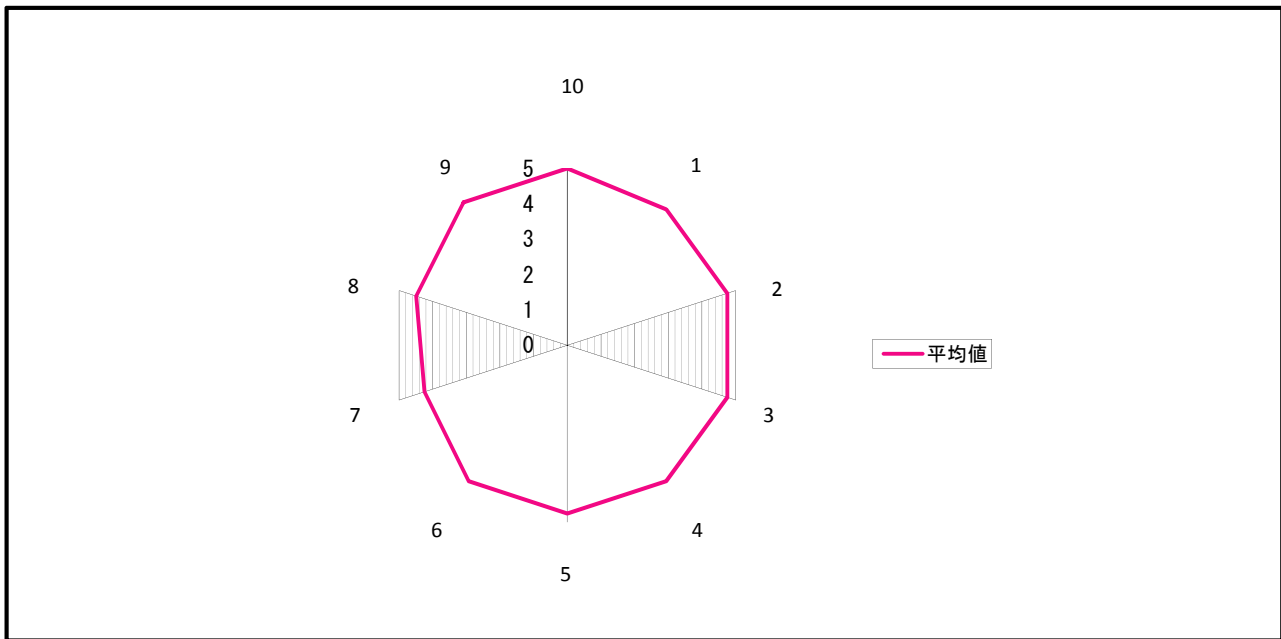
教員のコメント

やや難解なテーマも含んでいたにもかかわらず、高い評価を得られたことを有難く思う。本授業は現代の文化論、学校現場における「文化教育」と実践を扱った。その事実を考慮すると、質問項目(3)でやや評価が低かったことはやや残念であるが、次年度の課題とした。

結果報告書

授業科目名 人間と文化Ⅱ(地域研究A)
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 太田 直也 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



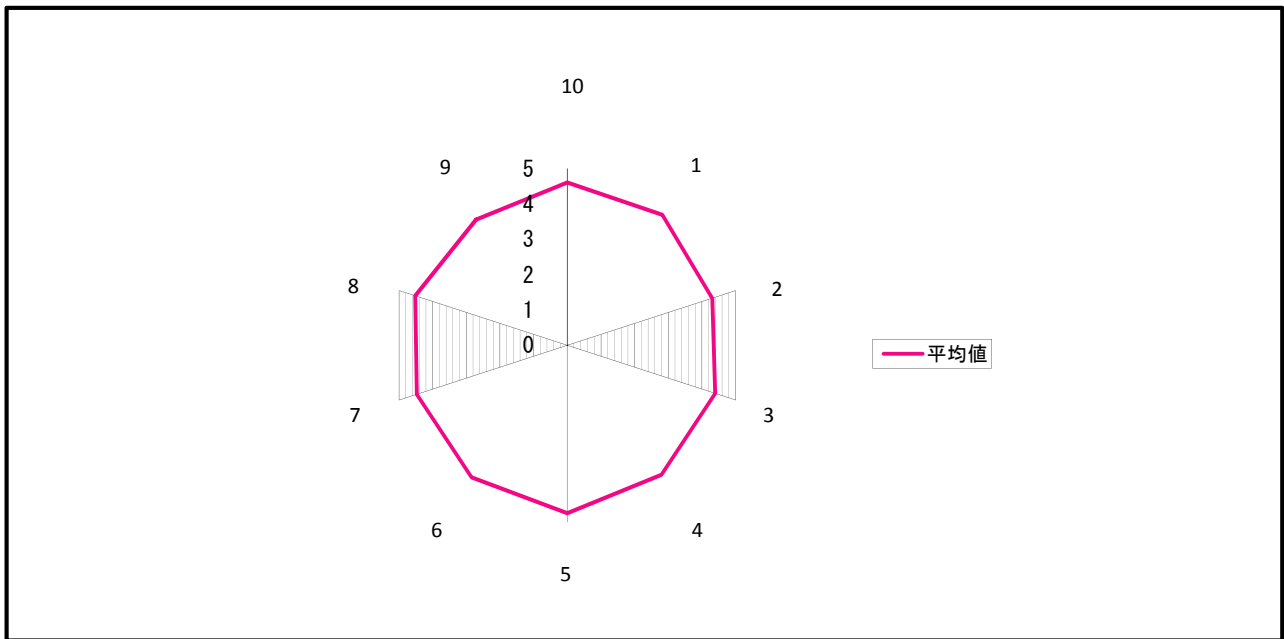
教員のコメント

ひじょうに高い評価を得て、有難いことと思う。発表形式の授業であり、授業前の下調べが大きな比重を占める授業であったが、受講者たちは丁寧な予習をしていた。やや解説不足なままになってしまった事柄もあるが、それらを授業内でいかに扱うかは次年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 コミュニケーションと環境
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 金野 誠志, 谷村 千絵, 小西 正雄 回答者数 23 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	8	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	10		2		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	6	2		1	4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	14	7	2			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	17	6				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	16	5	2			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	16	5		1	1	4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	15	7			1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	8	3			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	16	5	2			4.6



教員のコメント

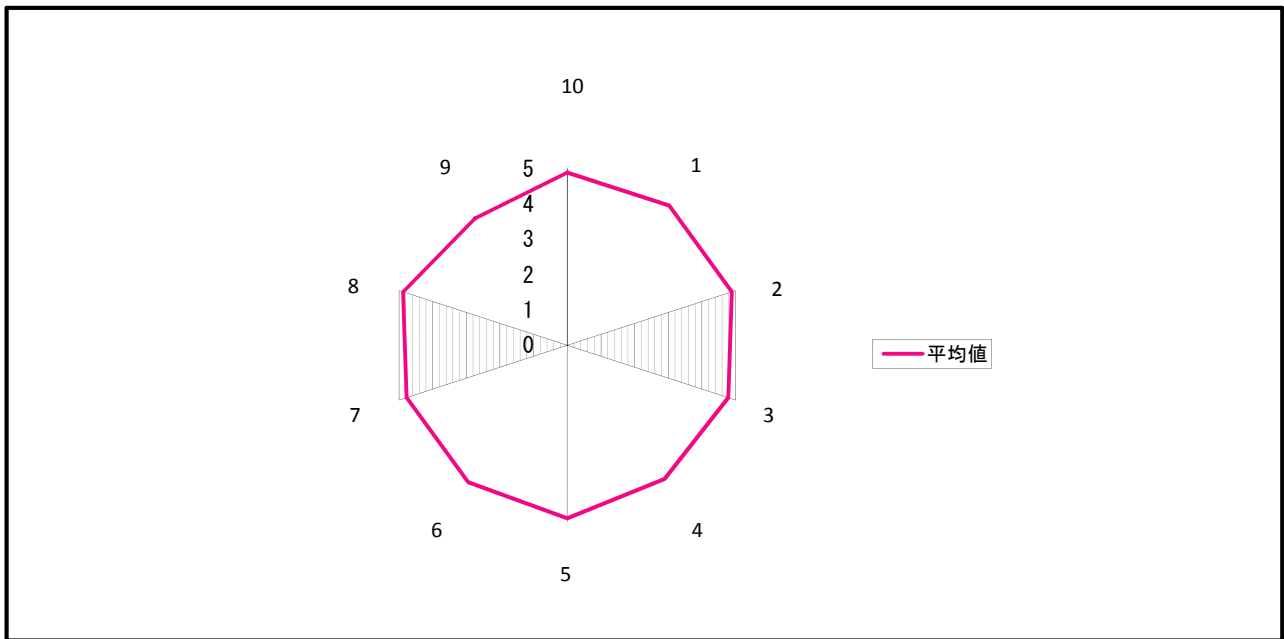
受講者が多い割には全体的には、一定のよい評価を得ていると考える。この授業は、現代教育課題総合コース以外の院生や現職教員も多数受講していたため、事前の内容説明等を丁寧に行った。専門知識や教師の実践力として授業上の“How to”をイメージしていた長期履修の院生が若干おり、その院生に対する説明をもう少し丁寧にして、履修決定をするよう次年度は考えていきたい。受講する院生の学力や意欲のレディネスに差があり、授業概要についての資料配付を毎回作成したり、授業をワークショップ型にしたりと工夫し可能な対応はしたが、今後も継続していきたい。

結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーションⅢ(実践研究B)
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 金野 誠志, 谷村 千絵

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1					4.9



教員のコメント

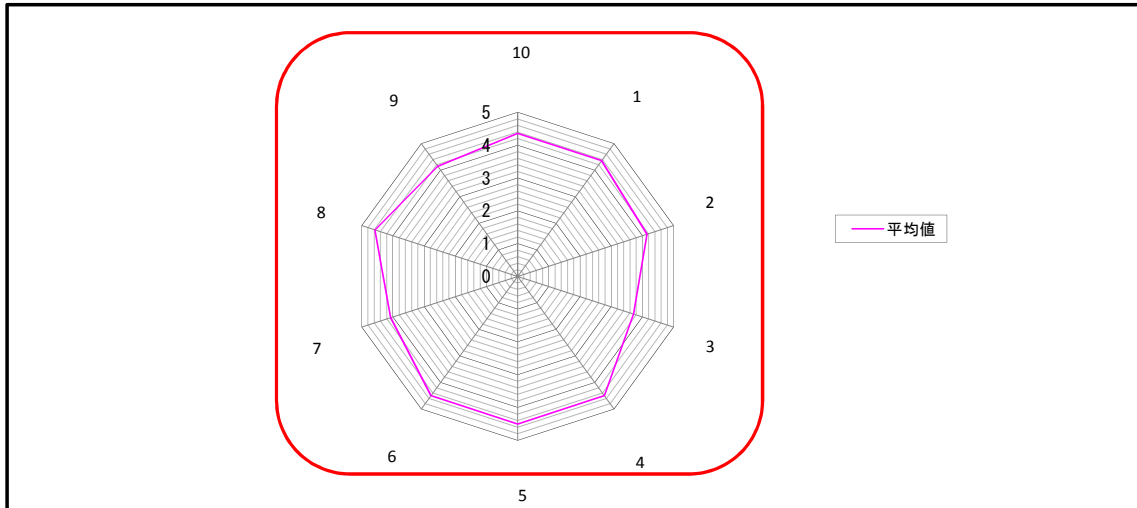
おおむねよい評価を得ていると考える。今後も、この方向性を維持して授業を進めていきたい。授業への積極的取り組みに関しては、評価がやや低いのが、討論形式を多用したため、それへの参加が他の積極的な受講生に比して自覚できた受講生がおり、それはそれで自らの学ぶ姿勢をみつめなおしたことになりよかったと考える。

結果報告書

授業科目名 環境と文化
 評価実施日 平成 27年 7月 下旬
 担当教員名 田村 和之

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	9				4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4	4			4.1
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	7	4	1		3.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	4		1		4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	9	3	2			4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	9	4		1		4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7	3	2	2		4.1
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	4	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6	3			4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	7	1			4.4



教員のコメント

まず、質問事項3についてはそもそも教師の実践力よりは、環境に関する教師の知識を増やすことを目的としている授業なので、例年通りの評価と思われる。

また、評価7に関しては教科書が洋書(英語)ということもあり、英語が苦手な学生にとってはあまり好ましい教科書とは言えないことも分かっている。ただし、使用している教科書と同様の内容が一冊にまとめられた和書(日本語)が不在(過去にはあったらしいが絶版)のため、この評価が低下することも予想の範囲内である。

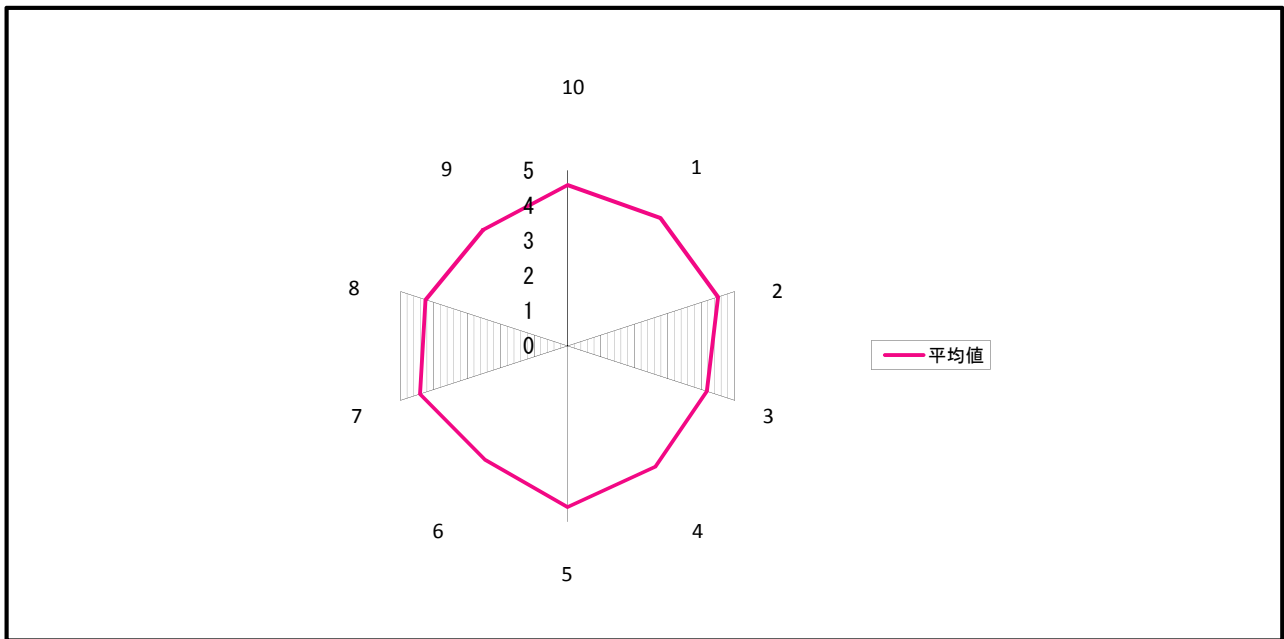
その他の評価に着いては概ね5と4に評価が集中しており、学生からもある程度は好まれる授業であったと思われる。ただ、文系専攻の中において自然科学系の授業であるため、どうしても学生の中には得手不得手があるようで、一部の学生には理解しづらい部分もあったようである。

来年度はそのような自然科学系の教科が苦手な学生にどのように上手く説明するかを改めて工夫して行きたい。

結果報告書

授業科目名 人間と環境Ⅱ(実践研究A)
 評価実施日 平成27年7月21日
 担当教員名 田村 和之, 近森 憲助 回答者数 12 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	6					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	6					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4	3				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3	3				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	3	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3	3	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	5	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	4	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5	3				4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3	1				4.6



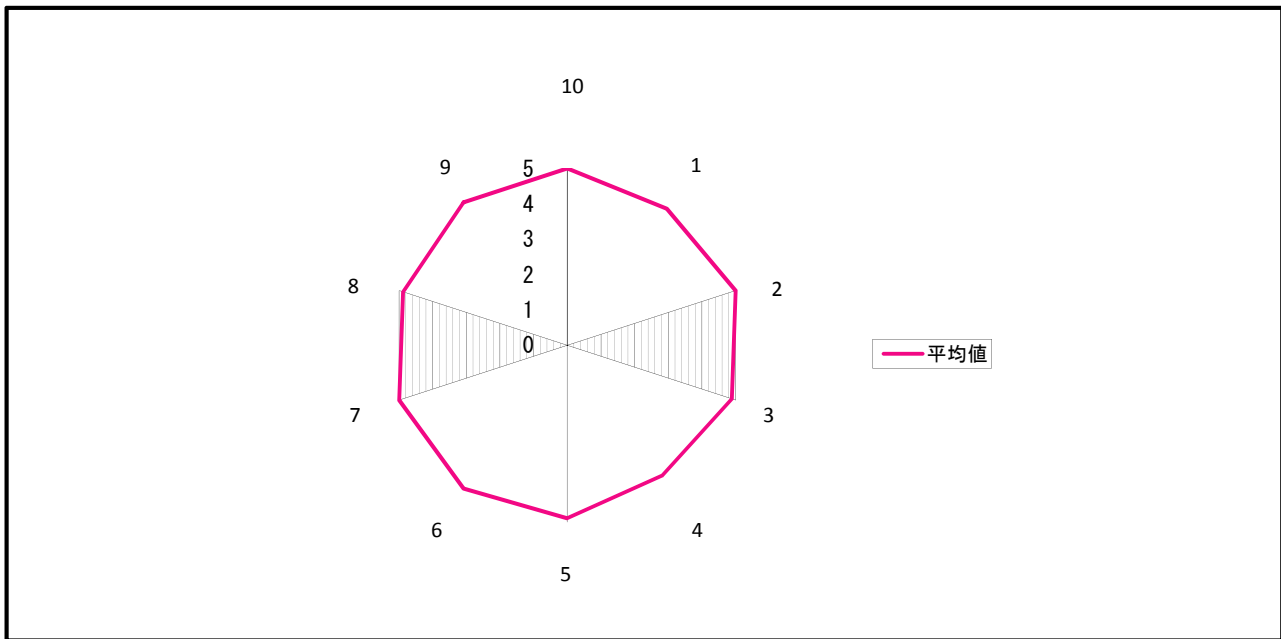
教員のコメント

学生からはほぼ好意的な評価を得ることができた授業であったと思われる。
 内容についてもESDを扱い、学生の考え方や経験が深まったようであり、なかなか面白い授業であった様子がうかがえる。
 ただ、反省点としては時々課題が曖昧であったり、提出期限などが教員側の出張や授業の展開具合などにより時々変更になったりしてしまっ
 た。
 今後はもう少し、はっきりとした課題を出したり、提出期日の明確化を計る必要があるので、その点を改善して行きたい。
 また、学生同士の議論などももっと積極的に活用して授業展開を行いたい。

結果報告書

授業科目名 現代教育課題特論
 評価実施日 平成27年7月29日
 担当教員名 小西 正雄 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



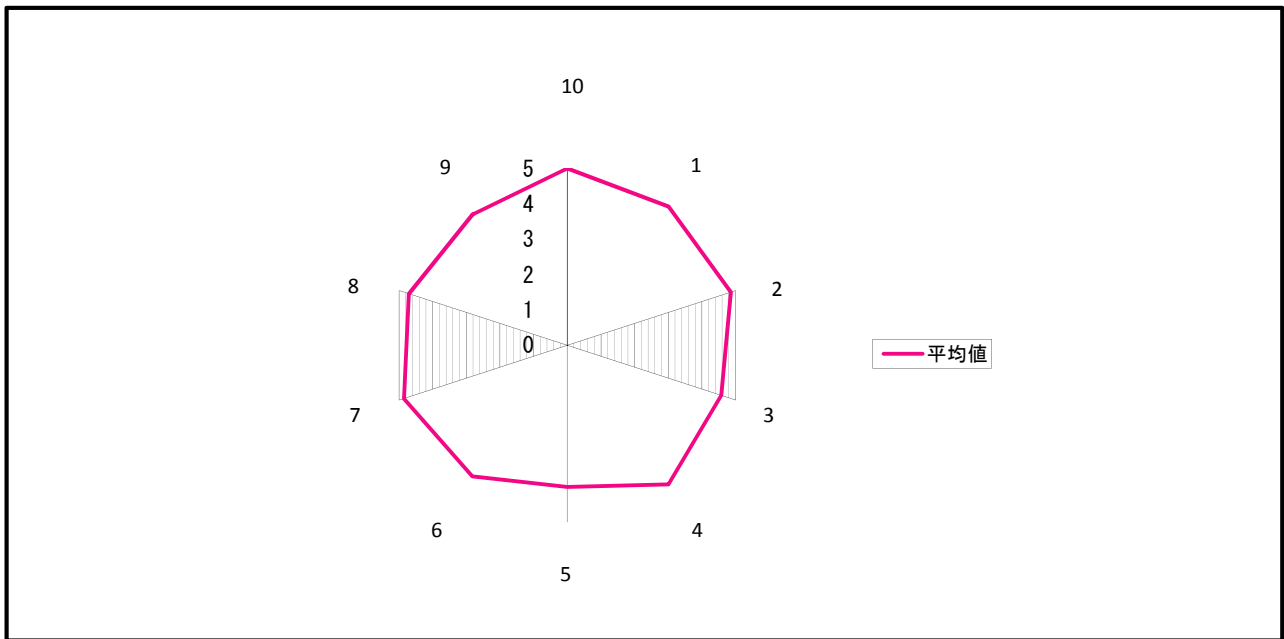
教員のコメント

昨年度の「現代の諸課題と学校教育Ⅰ」について総合評価5の好成績となった。遠隔教育プログラムの夏季スクーリングの一環ということで、そもそも受講生のモチベーションが高かったことが一因と思われるが、ありがたいことである。この経験を後期通学制の授業「現代の諸課題と学校教育Ⅱ」に活かしたい。

結果報告書

授業科目名 異文化理解と人間形成
 評価実施日 平成27年8月1日
 担当教員名 金野 誠志 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3	2			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6		1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



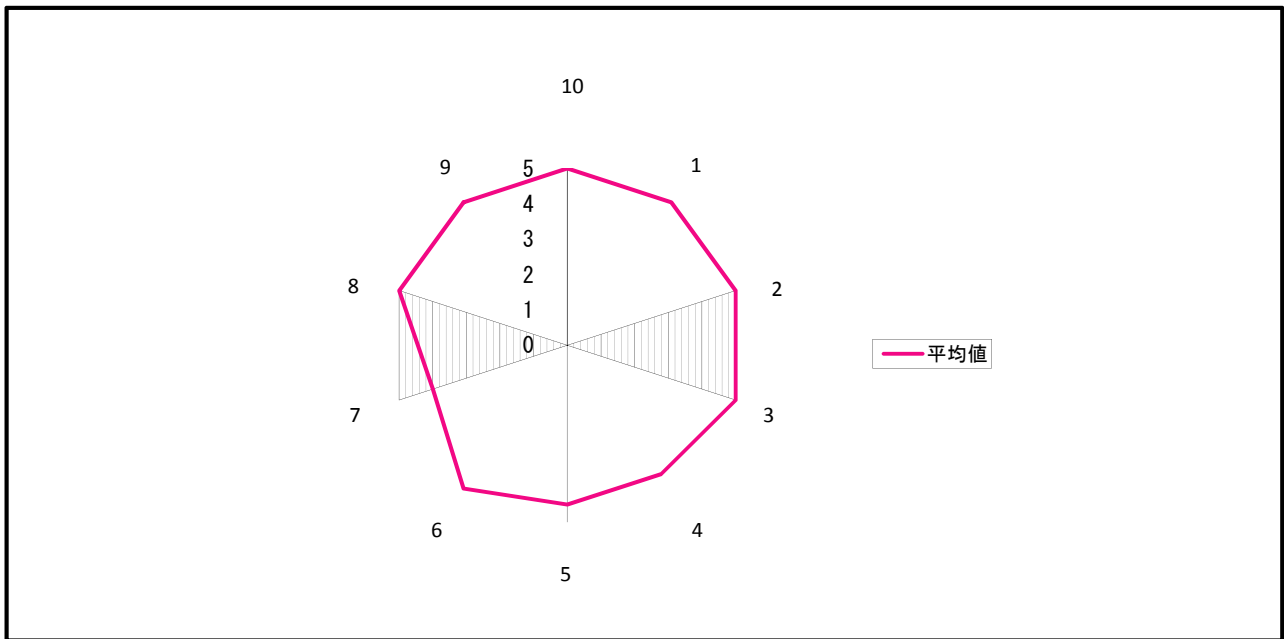
教員のコメント

全体的によい評価を得ていると考える。ワークショップ型や討論形式を適宜入れつつ進めたことはよかった。他項目に比して「授業の進む速さ」が若干低い。集中講義という性格上、前時の授業を後時に反映させる際、通常の授業の同程度にはいかないという点がある。そういう面では、ある程度やむをえないのであるが、こういった点についても、事前に説明をしておくことと共に、受講生のニーズに応えつつ同時にスムーズな展開を図れるよう考えていきたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター概論
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 井上 とも子 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1		1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



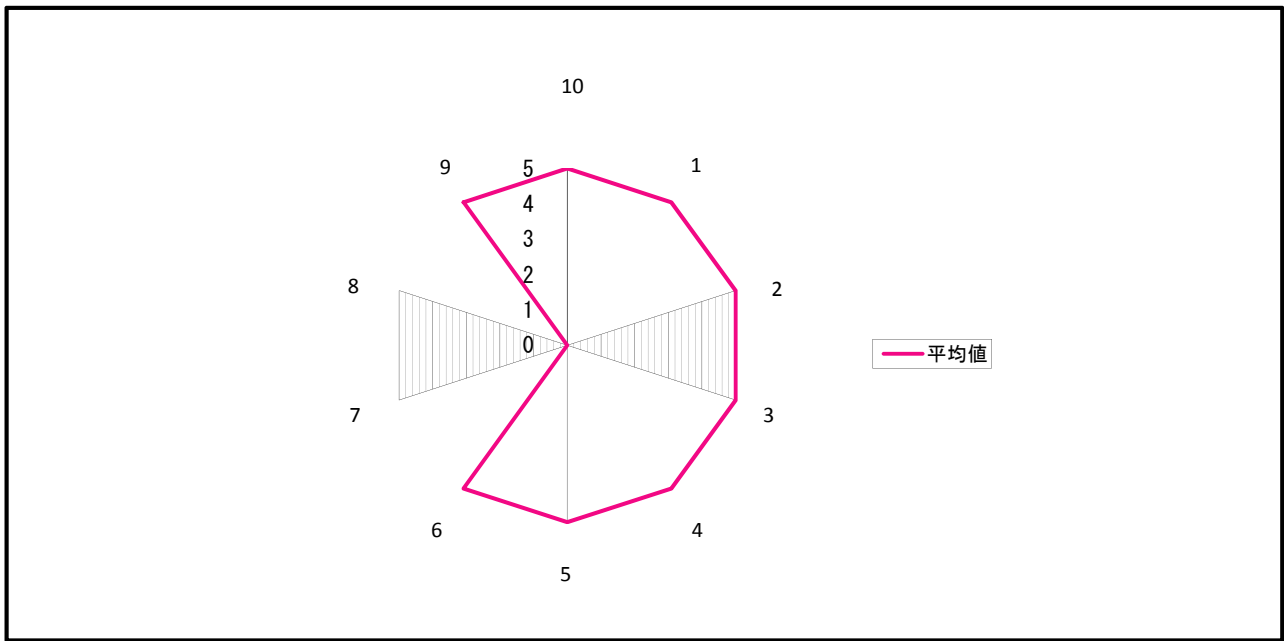
教員のコメント

この授業は、パワーポイントで講義内容を提示しながら進めているが、資料としては配付していない。最近では、iPad、スマホ等々のカメラ機能を活用することは許可しており、写す作業より、自分の考えや経験と照らし合わせて、考えながら話を聞いてほしいと考えている。また、全てを書き写すより、自身の考えに必要な箇所、プレゼンテーションにはない必要と思われる内容箇所を書き、その後、学校の現状等と照らし合わせた考える復習をしてほしいと考えている。また、講義は全集出した課題の発表に始まって、数人であっても協議から入る形をとっており、自身の意見を述べることに重きを置いている。特別支援教育コーディネーターは、広く、世の中の様々な現象から教育を考えたり、様々な角度から支援の在り方を模索したりし、コーディネーションの在り方を自身で考え、自分なりのコーディネーションの在り方をつかみ取ってほしいと考えているため、単に講義を聴き取る授業の形をとっていない。今年度も引き続き、総合評価が5であることから、この形で、今後も進めていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実地教育
 評価実施日 平成27年7月24日
 担当教員名 井上 とも子 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



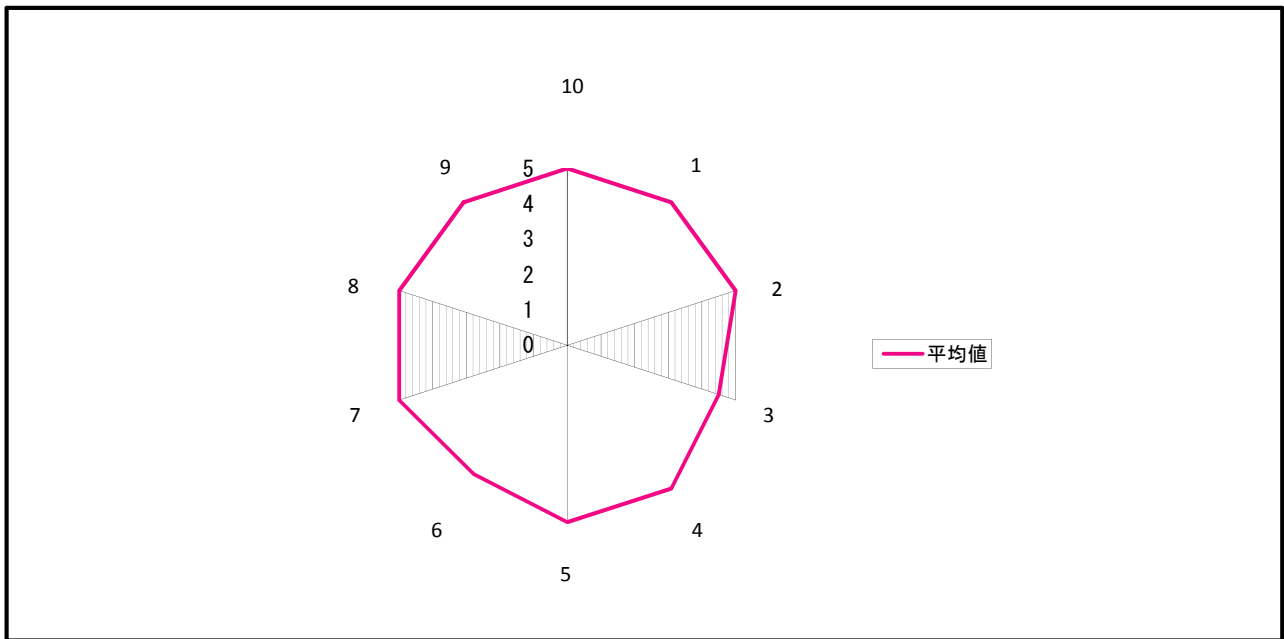
教員のコメント

この授業は、週1回の教育実践と、その後のカンファレンスで成り立っているため、項目7, 8, は該当しない。3名という少数の授業ではあるが、教育実践の時間の数倍の話し合い、打ち合わせ、プログラムを立てていくための時間を要し、1時間半の授業時間の他に費やす時間が多く、学生にとって負担の高い授業である。にも関わらず、総合評価が5であるということは、指導についての評価というより、得るものが多い授業としての評価と考えている。ここでの体験、経験を学校現場に戻り、子ども達の指導に活かされることを願っている。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論 I
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 高橋 眞琴 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



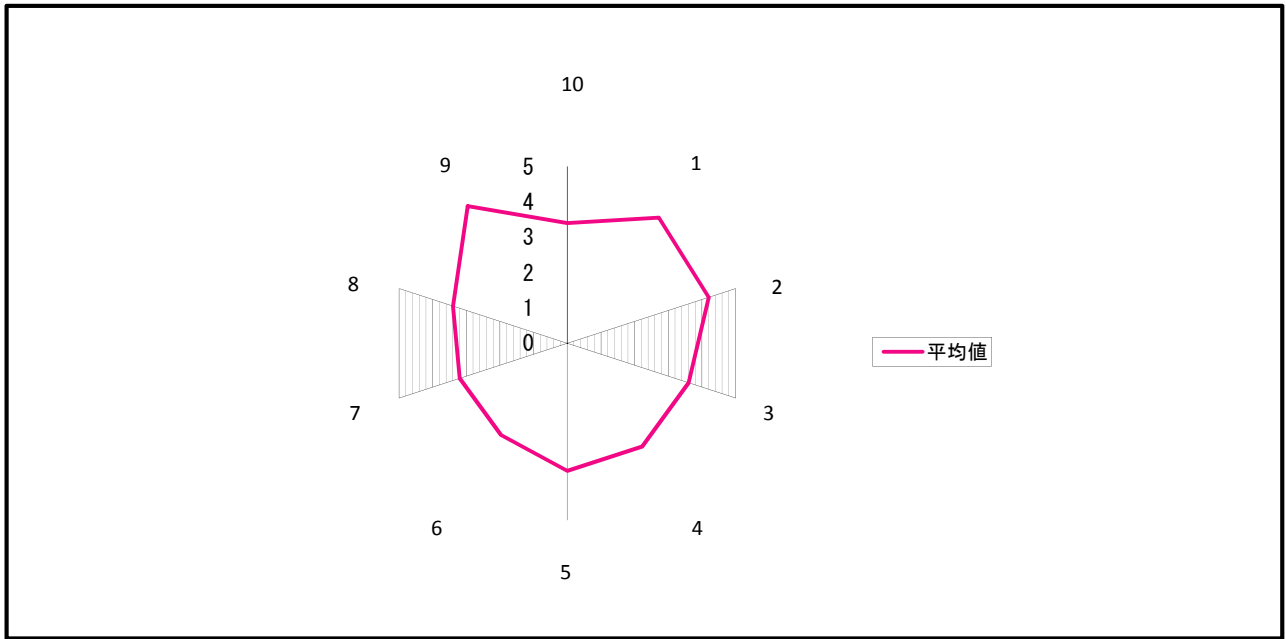
教員のコメント

本授業の受講生は、既に、特別支援教育について、学部または大学院で学習を十分深めている受講生で、研究的視点をもって、自らの研究関心にも言及しながら熱心に取り組んでいた。英語の文献購読についても、しっかり予習も行い、ディスカッションも参加していた。「海外の論文から気づきが多かった」「特別支援教育について、今までと違う視点から多角的に学ぶことができた」という感想が得られた。受講生全員から「少人数の授業で学べてよかった」という感想があり、少人数制授業の意義が感じられた。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論Ⅱ
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 大谷 博俊 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		2	1		3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2	1	1		3.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2	1	1		3.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	2		1	3.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1		3	1		3.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	2	1		3.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		3	1	1		3.4



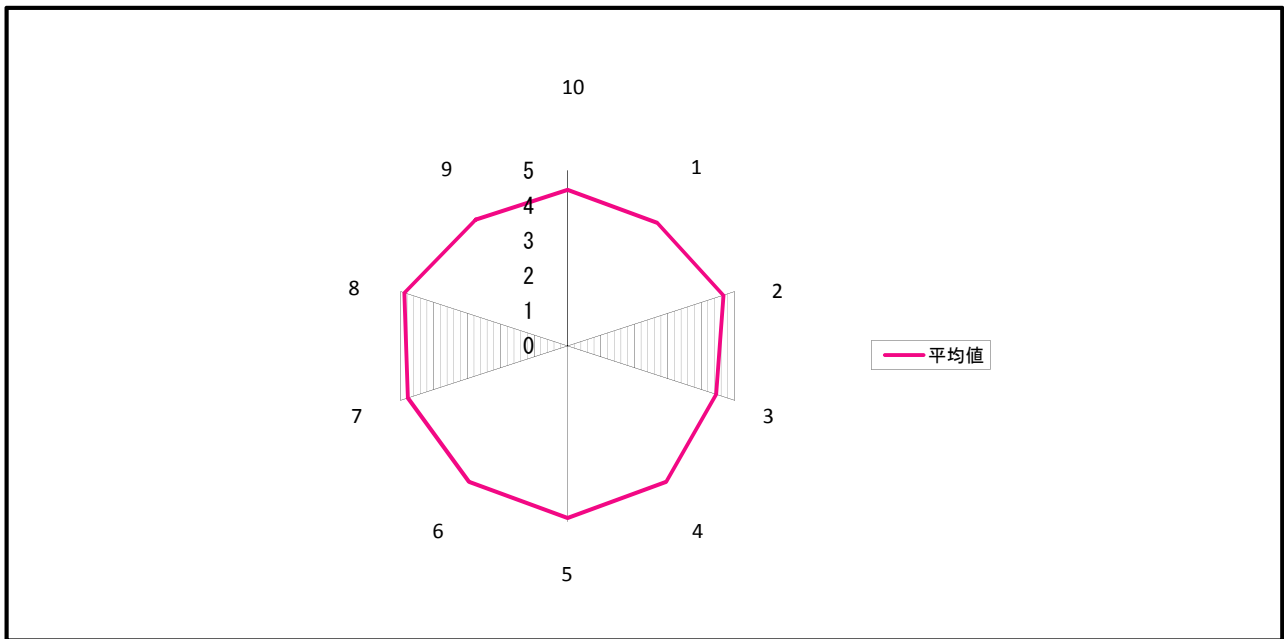
教員のコメント

授業内容に関しての評価は比較的高いが、授業の進め方についての評価は中程度であり、総合評価も同様である。受講生にとって、内容の専門性は認識されているものの、進度についていくこと、そして理解することが困難であったのかもしれない。修士課程の学びであることを考える時、授業のレベルを確保しながら、この結果をどのように反映させればよいのか、今後検討したい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床心理学研究論
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 高原 光恵 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	6				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	5				4.4



教員のコメント

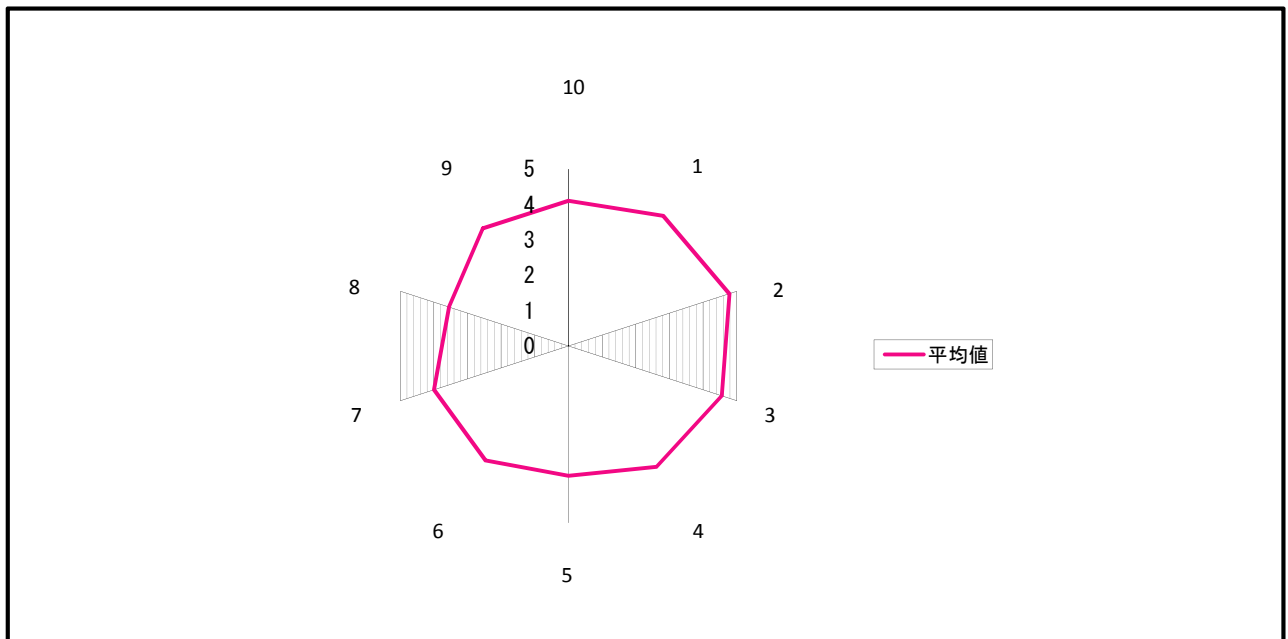
自由記述欄の回答から、本授業は、具体的な資料の提示や問題提起、それについての他の受講生との話し合いなど、体験的な授業の進め方のときがより印象深かったようである。受講生には、大学卒後の院生、現職経験のある院生、特別支援以外の専門分野で学ぶ院生など、さまざまな背景の院生がおり、講義からだけでなく、他の受講生の意見や観点を知ることから学ぶことも多かったようである。「授業概要」の記載については今後、より実態が伝わるような表記へ改善すべきと思う。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習心理学研究論
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	4				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1		1		4.6
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	3	2			4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	3	1	1	1	3.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	5	2			4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3	3			4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	4	3	1		3.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1	1		4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	5		1		4.1



教員のコメント

項目(1)(2)で、9名の受講生全員が5又は4の高い評価を行ったことから、「授業概要は、この授業を適切に表現していた」こと、「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」ことが分かった。とりわけ、項目(2)では9名中7名が5の評価で、評定平均値が4.8という極めて高い値になったため、受講生のニーズに適合した専門的知識を涵養できたと言える。WISC-IVやKABC-IIなどの新しい検査に関する説明を詳細に行ったことに加えて、比率IQや偏差IQなどの検査結果の数値がどのように算出されるのかについて、実際に計算を行いながら体験学習したことが功を奏したと思われる。

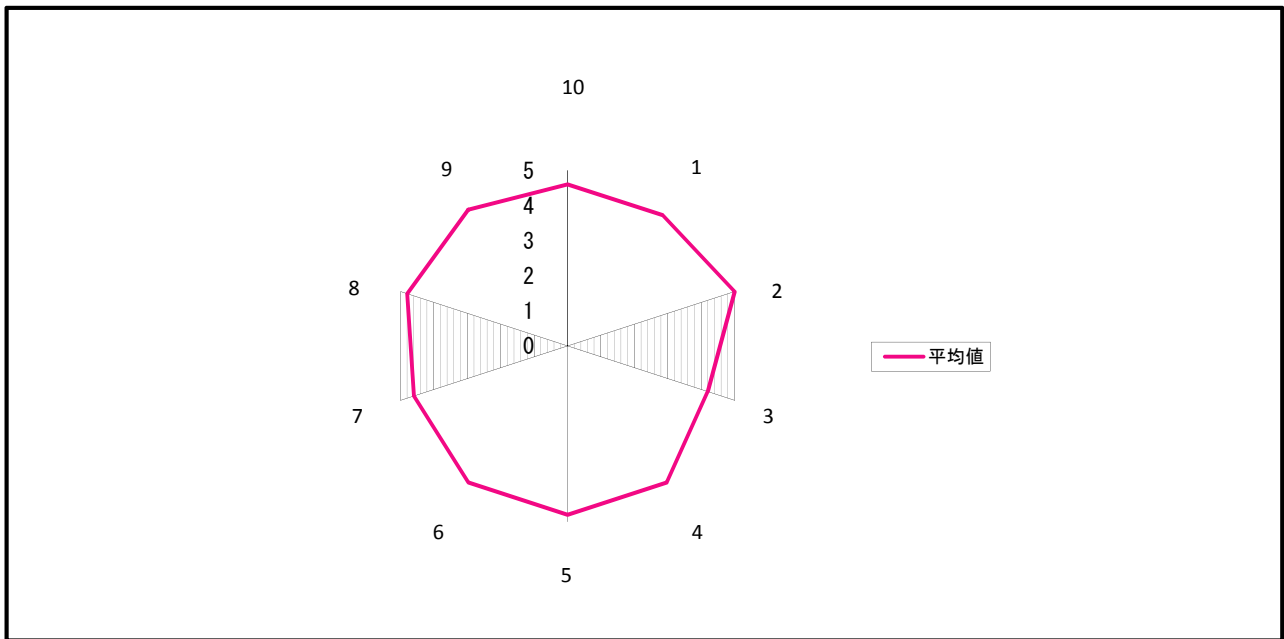
また、項目(3)でも、9名中8名が5又は4の高い評価を行い、その内7名が5の評価、評定平均値が4.6という高い値になったことから、「教師の実践力の育成につながる内容であった」ことが分かった。事例に即してアセスメントの過程をシュミレートした上で、グループに分かれて、事例の個別指導計画の立案と教材作成についての実習を行ったことが功を奏したと思われる。これらのことより、項目(10)でも、9名中8名が5又は4の高い評価を行う結果になり、大半の受講生が「総合的に評価して、この授業はよかった」と感じたことが確かめられた。

しかしながら、項目(5)では2と1の評価をした受講生も認められ、項目(3)と(10)では全体の評価が高かった反面、2の評価をした受講生も認められたことから、授業の進度が速すぎると感じた者や、授業についてゆくのが難しいと感じた者もいたことが分かった。受講生によって特別支援教育に関する予備知識の量が異なっているためと考えられた。従って、今後は特別支援教育になじみの薄い受講生にも分かりやすく説明を行うための工夫を行いたい。

結果報告書

授業科目名 発達障害児病理・病態生理学研究
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 田中 淳一 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	1			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



教員のコメント

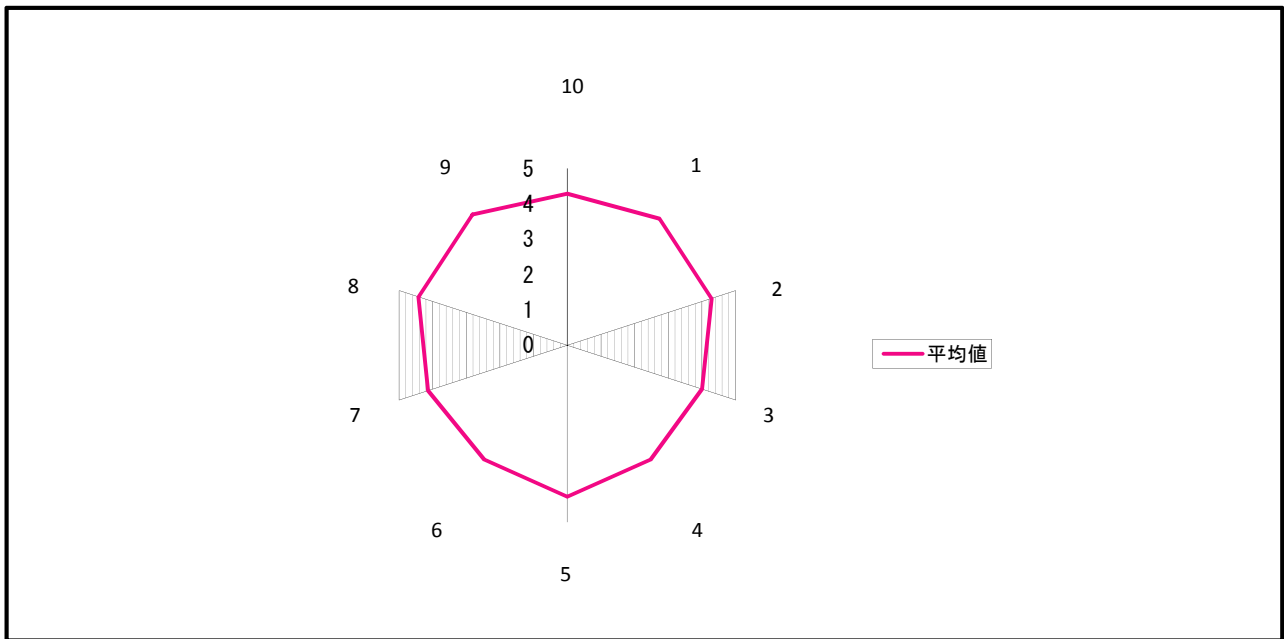
総合評価は4.6であり、比較的高い評価が得られた授業ができたものと考えられる。ただ、項目(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった」の点数が4.2と低いことから、「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった(評価5)」に加えて、実践力の育成を考慮したものにつなげていく必要が指摘された。授業中において、専門的知識の講義の後で質問等を多くする、あるいは学生間での問題解決の検討を促進することで改善をはかりたいと考えている。授業内容については専門性が高いだけに、丁寧な説明を行い内容の理解に努めたせいか、多くの学生が授業内容を理解してくれたことを伺うことができる。学生からのアンケートのほとんどは受講してよかったとの内容であり、「改善すべき点」についての記載は見られなかった。今後、上記の改善点等について検討し、より良い授業を行うようにしたいと努力する予定である。

結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論 I
 評価実施日 平成27年8月6日
 担当教員名 原 卓志 回答者数 7 人

「

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	3				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	5	1				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	5	1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	6					4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	4					4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	5					4.3



教員のコメント

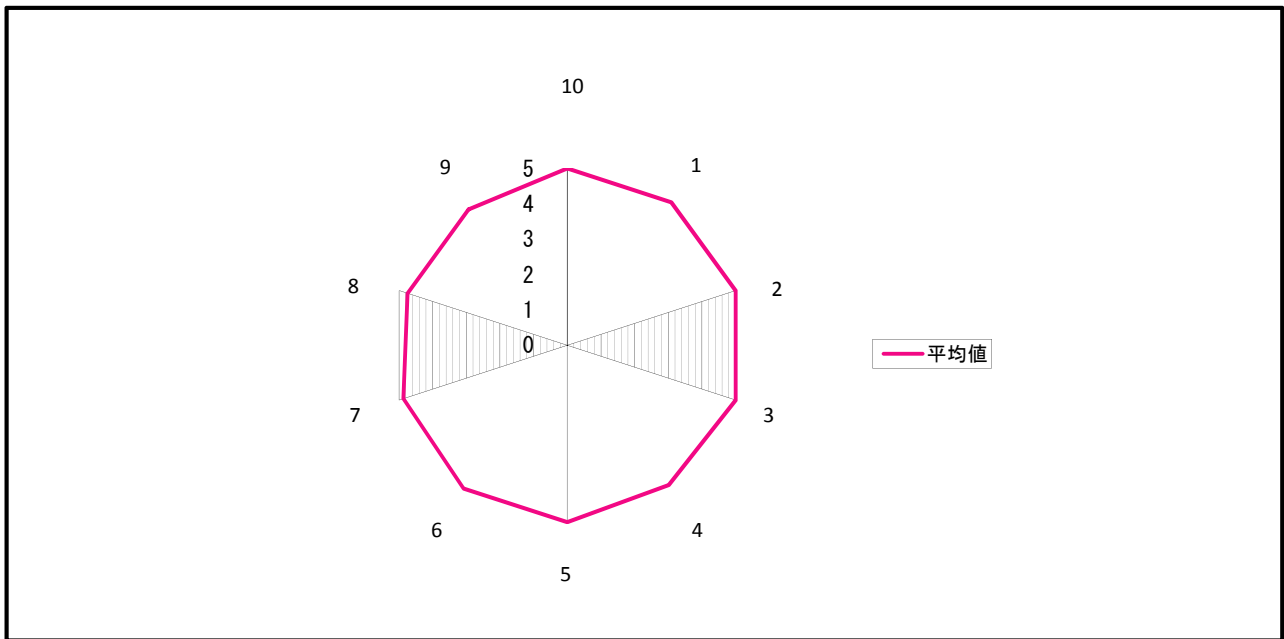
「言語教育基礎論Ⅱ」担当の英語コース担当教員との合同授業で、日本語・英語を取り上げて、言葉に関する問題を様々な面から考究した。授業担当者による話題提供では、他の授業担当者も加わったグループでの話し合いや作業を取り入れて授業を進めた。また、受講生による研究プレゼンテーションを行い、全員が、言葉について主体的に研究する場を作った。

受講生からは、良かった点として「それぞれの先生方の研究分野のことを学ぶことができた」「言語の研究をしている先生方の奥深さがすごいと思った」「言語について考えるいい機会となった」など、合同授業形式の良さを指摘したコメントとともに、「他の受講生のプレゼンテーションを聞いて、多くの知識を得た」「プレゼンの機会が与えられたことで、主体的に言語について学ぶことができた」「自分がこれまで研究してきたことを、他に人に広めることができた」など、プレゼンテーションの場を設けたことを好意的に受け止めたコメントが寄せられた。

結果報告書

授業科目名 日本語 I
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7		1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



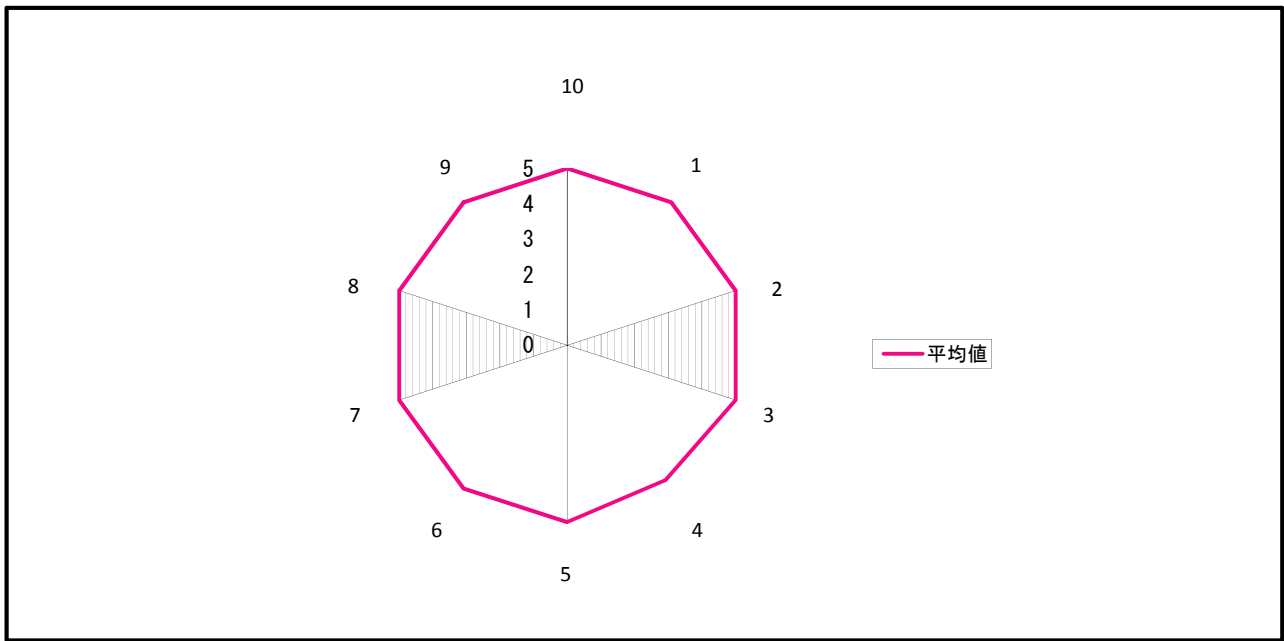
教員のコメント

本授業では、大学で学ぶ留学生にとっての基礎的な能力である、スピーチ力、作文力、情報収集力などを養うことを目的とした。参加者は8名(大学院留学生の聴講2名、学部留学生(特別聴講学生)の聴講4名、日本人学生の聴講2名)であり、「授業中に、授業内容に関連する本などもたくさん紹介するのが良かったです。毎回の授業で扱った内容も留学生活に役に立ったものでした」、「留学生に向けて行われる授業であったので、毎回田中先生が工夫されてできるだけわかりやすく説明をされている姿が印象的であった」など、留学生の理解を助けるための担当教員の工夫を高く評価する声が多く見られた。一方で、参加者は8名全員が聴講であり、履修登録をして単位を取ろうとする大学院生が一人もいなかったのはたいへん残念であった。本授業を受講しなかった留学生に聞いてみたところ、時間が合わなかったからと答えた者が多かったため、来年度は開講時限にも気をつけたい。

結果報告書

授業科目名 日本古典語研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 原 卓志 回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7						5.0



教員のコメント

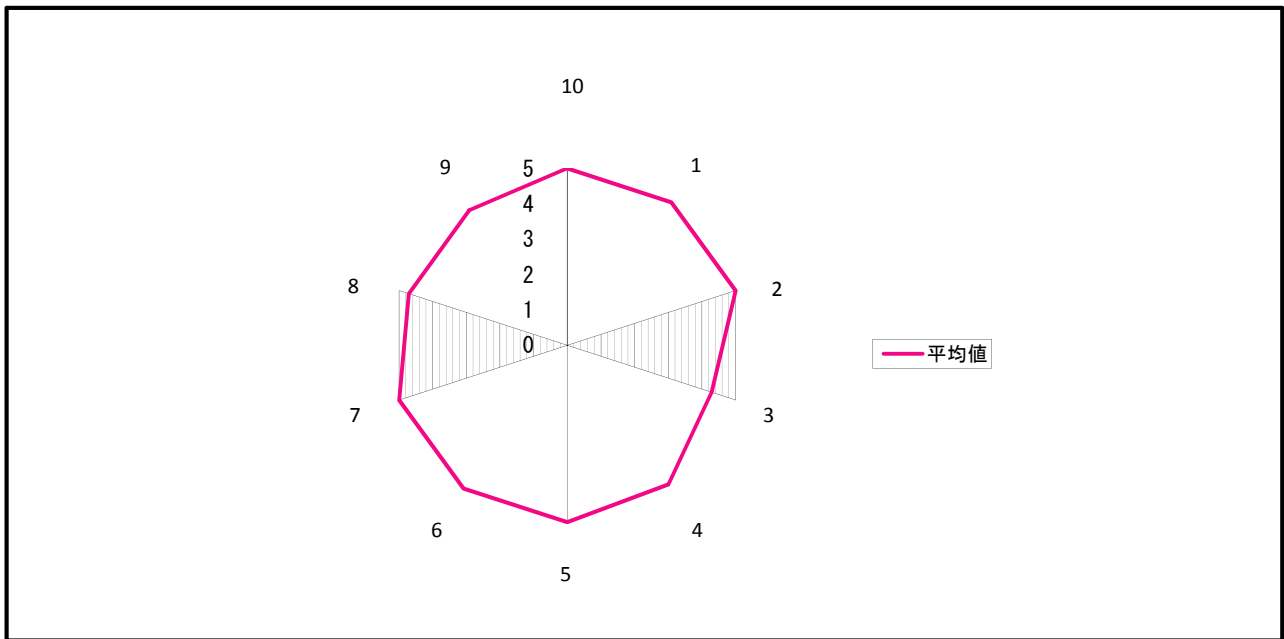
正式な受講者数は3名であったが、昨年度から続いて聴講する4名が加わって、和気藹々と楽しみながら学習を進めることができた。本年度は、小松島の国伝山地蔵寺に所蔵される「異船一條井大小名等諸事傳聞噂而已之記」を読解していった。江戸幕府末期の混乱期における事件や、それまつわる噂話を記録した、興味深い内容であるため、極めて癖のあるくずし字を、熱心に読み解いていくことができた。また、昨年度から参加している院生諸君の活躍と、新たな受講生の意欲がかみ合って、互いに予習の時間を設けたり、授業時間中にも教え合う姿が見られ、活気のある教室となった。

良かった点として、「少人数で、受講生が主体的に参加したところ」「難読文字ばかりでしたが、段々と読めるようになってきたところ。読めない字は、お互いにヒントを出し合うという形式が楽しかった」「文字が読めないという経験は、小さい時以来だったので、新鮮であった」というコメントがあり、受講生の取り組みとしては、「少人数で、必ず当たるので予習した」「辞書などで調べながら取り組んだ」など、主体的に読解に取り組んだというコメントとともに「成長(少しずつ読めるようになった)を実感した」というコメントもあった。

結果報告書

授業科目名 現代日本語研究
 評価実施日 平成27年9月13日
 担当教員名 茂木 俊伸 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

本科目では、現代日本語の諸問題を題材としながら、国語科の教材分析やことばの研究において必要となる視点や技術に対する理解を深め、これらを獲得することを目標として、集中講義を行った。受講者数は7名であった。

授業の総合評価(項目10)の平均値は5.0(昨年度5.0)、全項目の平均値は4.86(昨年度4.88)であり、ほぼ昨年度と同様の満足度だったと判断できる。項目3がやや低い評価となっており、授業の基礎となる力について講義したつもりだが、「授業作り」に直結しない内容だと判断された可能性がある。

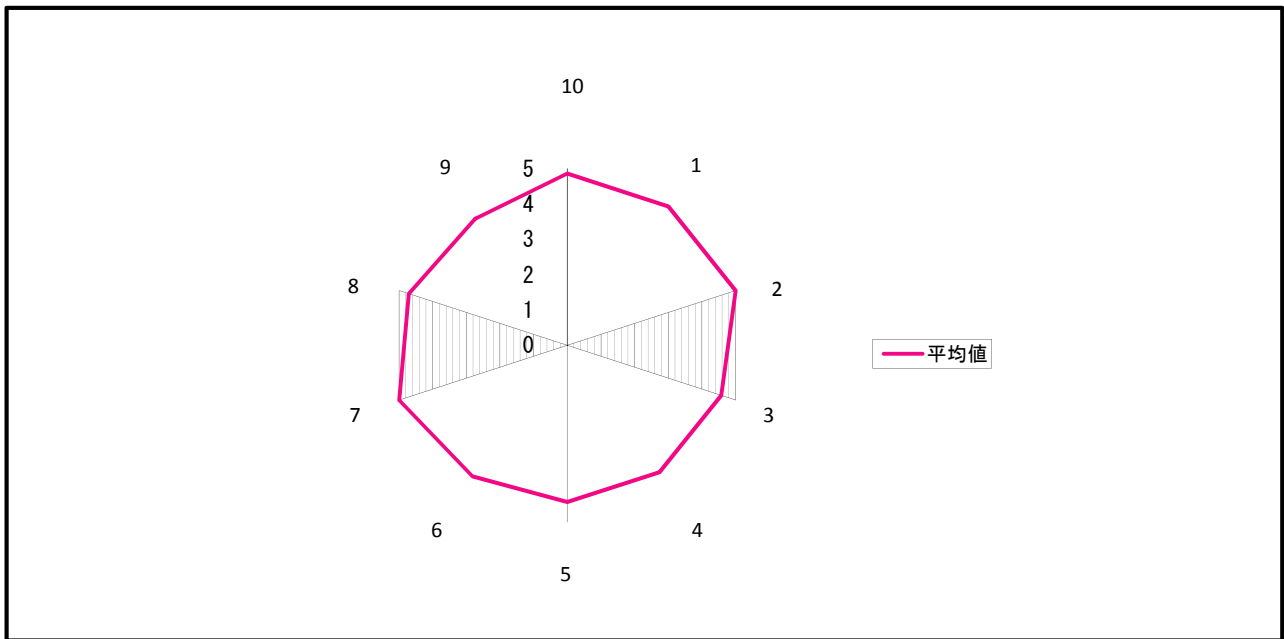
記述式の項目については、改善点(項目[3])として1件、「ふだんの講義の中であればよかった」という指摘があった。カリキュラムに関わる指摘であるため講義の中で改善することは難しいが、前期の講義やゼミの中で指導を受けてきた内容をより想起させられるような工夫ができれば、「ふだんの講義」との相乗効果を上げることができるかもしれない。

授業への取り組みの理由(項目[4])の「今後の自分の研究に期待が持てるような内容だった」は、授業者としてうれしいコメントであった。受講者の皆さんの研究生活が充実したものになることを願っている。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究 I
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 黒田 俊太郎 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5		2			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



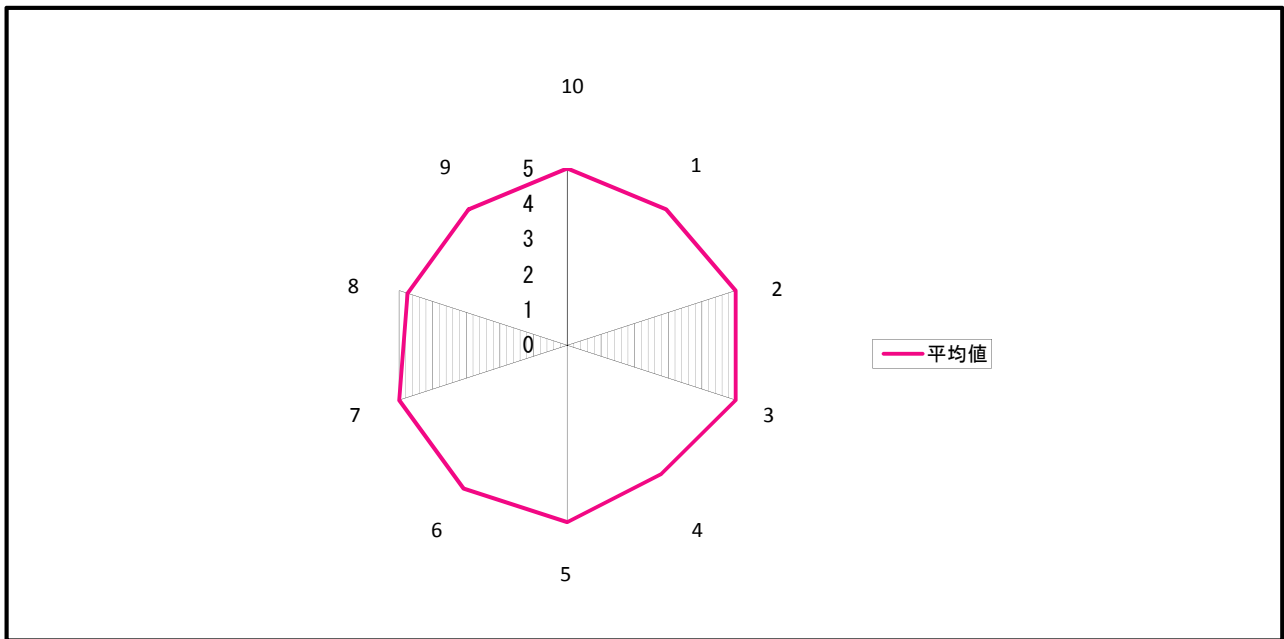
教員のコメント

総合評価4.9ということで、学生にとって概ね満足度の高い授業であったと思われる。ただし、成績評価の方法の説明や、授業の進度(速かったと反省している)について改善点も見つかった。今後はそれらを修正していきたい。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究Ⅱ
 評価実施日 平成27年8月6日
 担当教員名 小島 明子 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



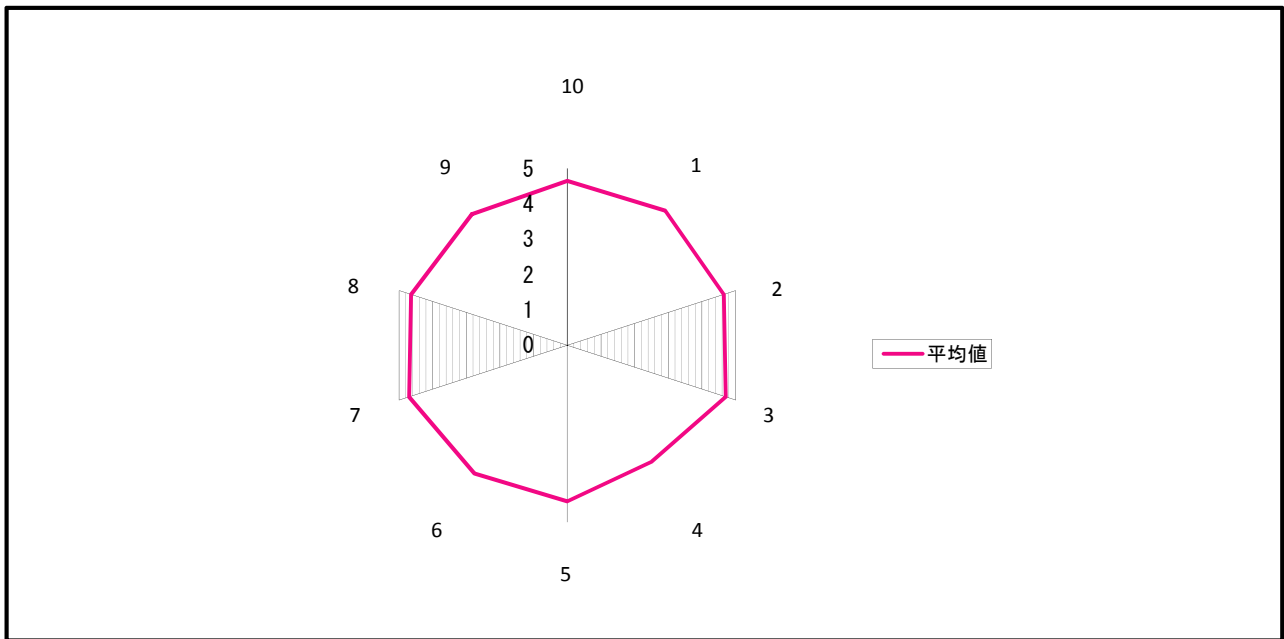
教員のコメント

受講者がきわめて少人数であり、古典文学に強い興味・関心を抱く学生のみであったため、授業はきわめて充実したものとなった。そこで、受講者の満足度が高くなったと思われる。ただし、成績の評価について説明が足りなかった部分、配布資料が完全ではなかった部分もあり、それは今後の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 日本語教育学研究
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 小野 由美子 回答者数 17 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	3	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	6					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	5					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	2	5		1		4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	6	2				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	7	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	3	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	3		1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	7					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	4	1				4.6



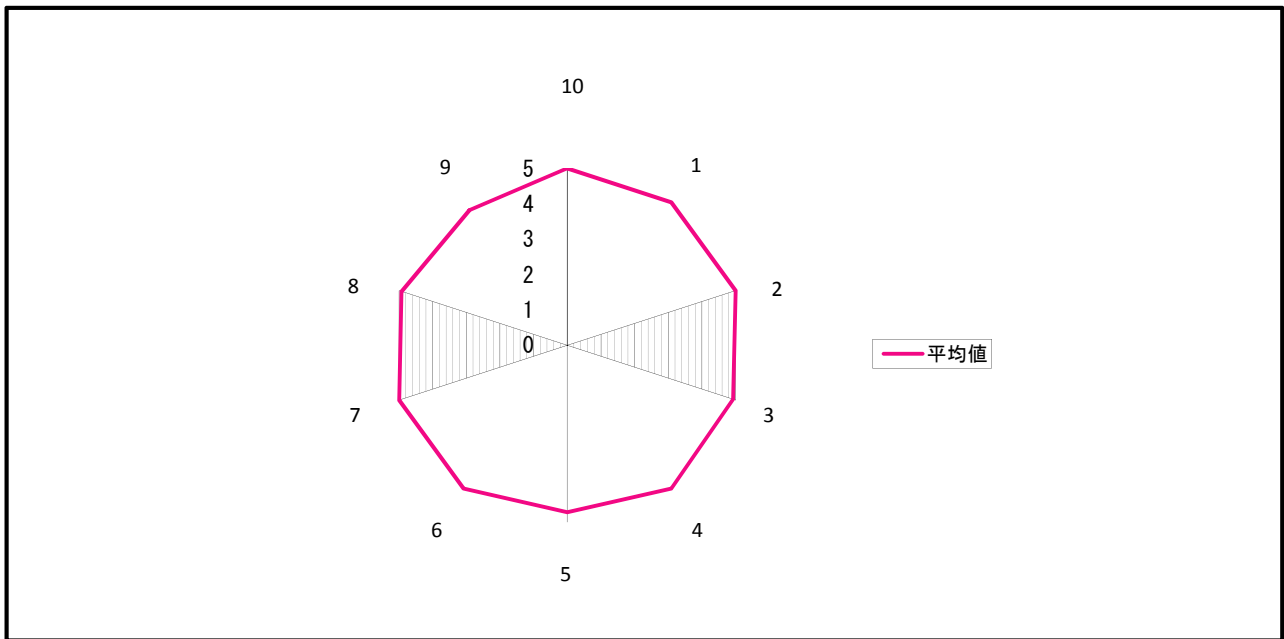
教員のコメント

17名程度の受講生数となるとやや多様な学生が受講する。そこで総合的な評価が4.5を超えればまずまずの授業であったと言える。また、相対的にやや低い評価を下している学生も、(9)「授業への主体的な取組について」は4の自己評価を下しており全体としてはまずまずの授業であったと言える。ただ、「授業進め方」で、(4)「成績評価の説明」と(5)「授業の進む速さ」については要検討で、とりわけ(4)についてはもっと丁寧で納得のいく説明が必要であったと反省させられる。「授業の内容」については全体として高評価で、特に(3)「教師の実践力の育成につながる」の評価は高く、授業者が力を入れたことを受講生も感じとっており達成感がある。反省も踏まえ次の授業に学生の評価アンケートを生かしたい。

結果報告書

授業科目名 日本語文法研究
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	14					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	2	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	14					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	4				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14					5.0



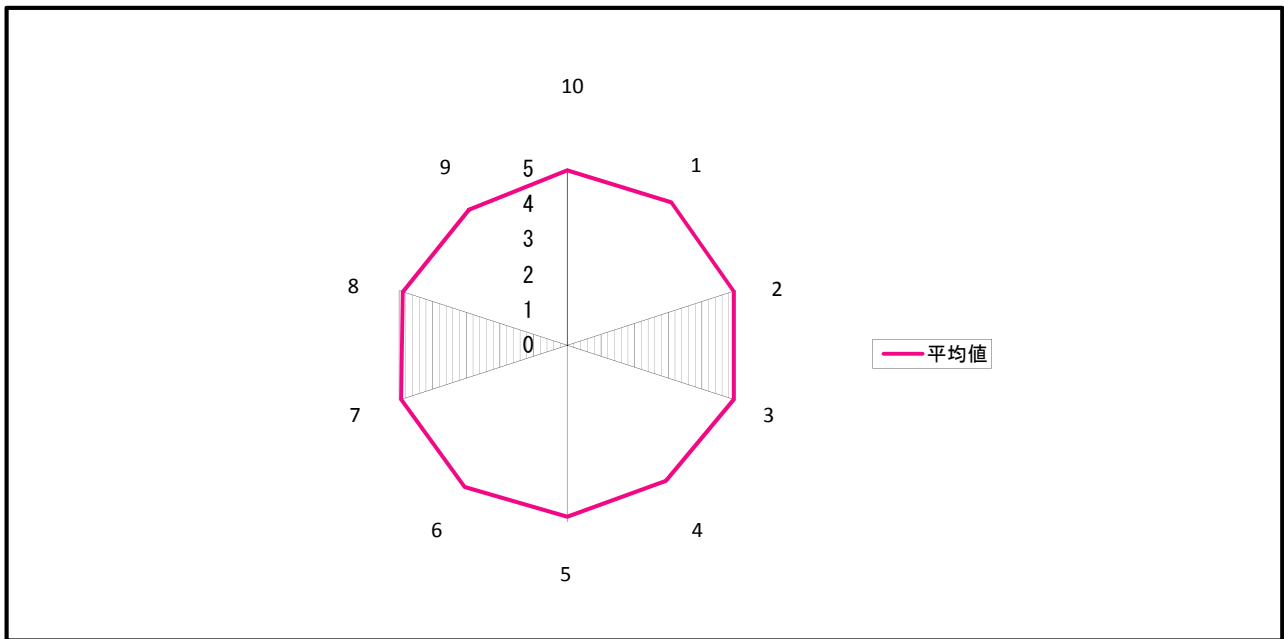
教員のコメント

本授業では、日本語学習者が誤りやすいテンス・アスペクトやウオイス(受動態・使役態・可能態・自発態)など様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な文法指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「日本の方々と留学生の方々が一緒にグループで意見交換や討論をする時間があつたのが非常に良いと思います」、「プレゼンテーションの仕方を明示し、学生に発表させっぱなしではなく、観点と具体例を挙げながら指導講評していただけたので、とても勉強になった」など、受講生同士の交流や受講生に対するフィードバックが充実していた点を高く評価する声が多く見られた。一方で、「後半、スピードが一気に上がったので、その内容についても講義で教えてほしかった」など、授業のペース配分に関して改善(再考)を求める声も出ていたので、今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 社会言語学演習
 評価実施日 平成27年8月11日
 担当教員名 永田 良太 回答者数 19 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	19					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	14	5				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	17	1	1			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	18	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	18	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	18		1			4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	1	2			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	18	1				4.9



教員のコメント

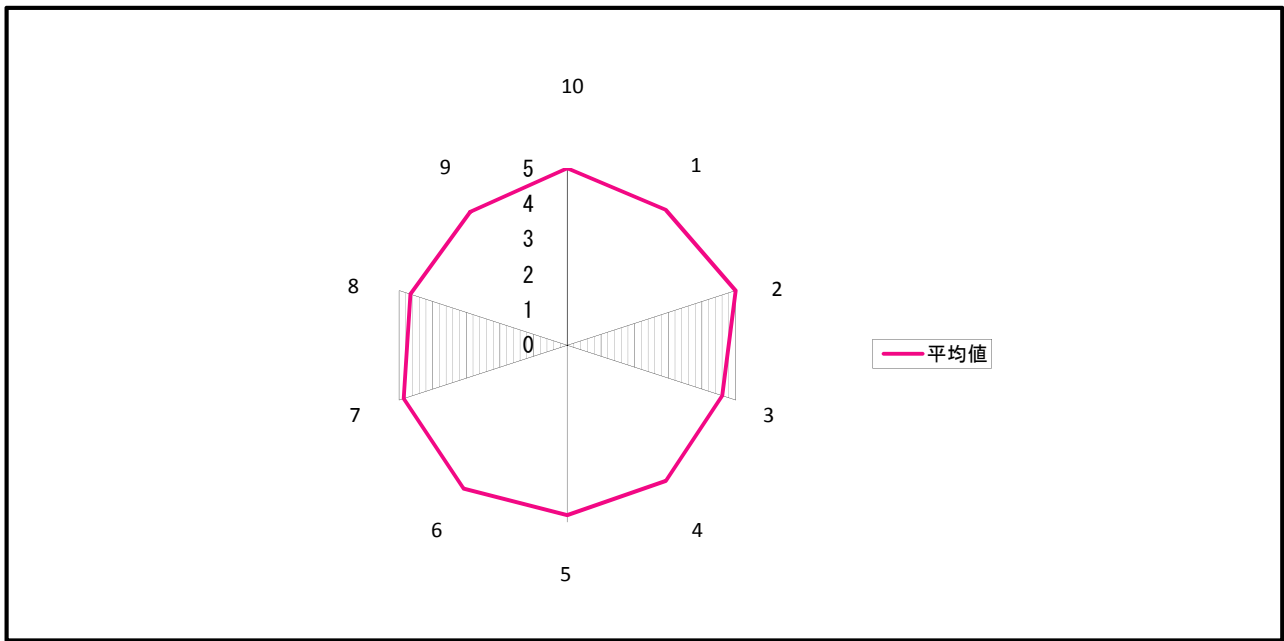
本授業は、「バリエーション」、「会話の仕組み」、「言語意識」、「言語政策」という観点から、普段無意識に使用している日本語の実態と使用規則について意識化するとともに、日本語教師として必要な社会言語学的知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で、日本語教育を専門とする日本語教育分野の学生の積極的な授業参加に加えて、留学生や他コースの学生からも積極的な発言を得たことは有意義であった。多くの留学生の参加が得られたことで、他の言語と比較を通して日本語の社会言語学的特徴が明らかになるとともに、日本語学習者としての視点からの発言により、習得上の問題点を確認することができた。また、他コースの受講生からは、それぞれの専門的観点からの意見が出され、議論を深めることができた。

今回の評価結果を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は、評価の観点をさらに明確にするとともに、授業へのさらなる参加を促すような授業づくりに取り組みたい。

結果報告書

授業科目名 言語習得・発達論
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 15 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	4				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	6				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	2	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12	3				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	2				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	3	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	5				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	15					5.0



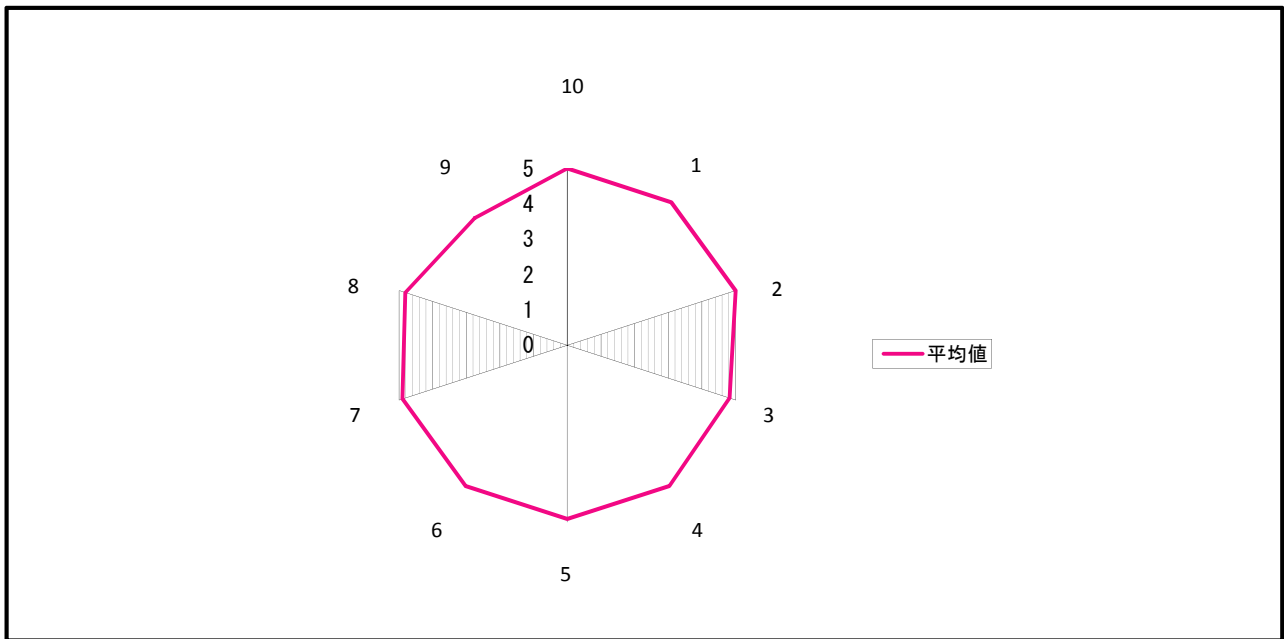
教員のコメント

本授業では、日本語学習者の習得のメカニズムを理解し、実際の教室活動に役立てられるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「先生が毎回みなさんの発表のときに分かりやすく補足をしてくださったり、みなさんがきちんと理解しているかを度々確認して下さったりしたので、授業内容をしっかり理解することができた」、「発表に関して事前指導を丁寧にして下さった」など、担当教員によるサポートを高く評価する声が多く見られた。一方で、「発言を強制されるのは、少しだけプレッシャーを感じました。その人の発表のあら探しをしている気分になりました」、「受講者がたくさん話すため、ちょっと進度が遅れる」など、発言することそのものが目的化してしまっていることによる弊害を指摘する声も出ていたため、今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 日本語音声表現研究
 評価実施日 平成27年8月7日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1	1	1		4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11					5.0



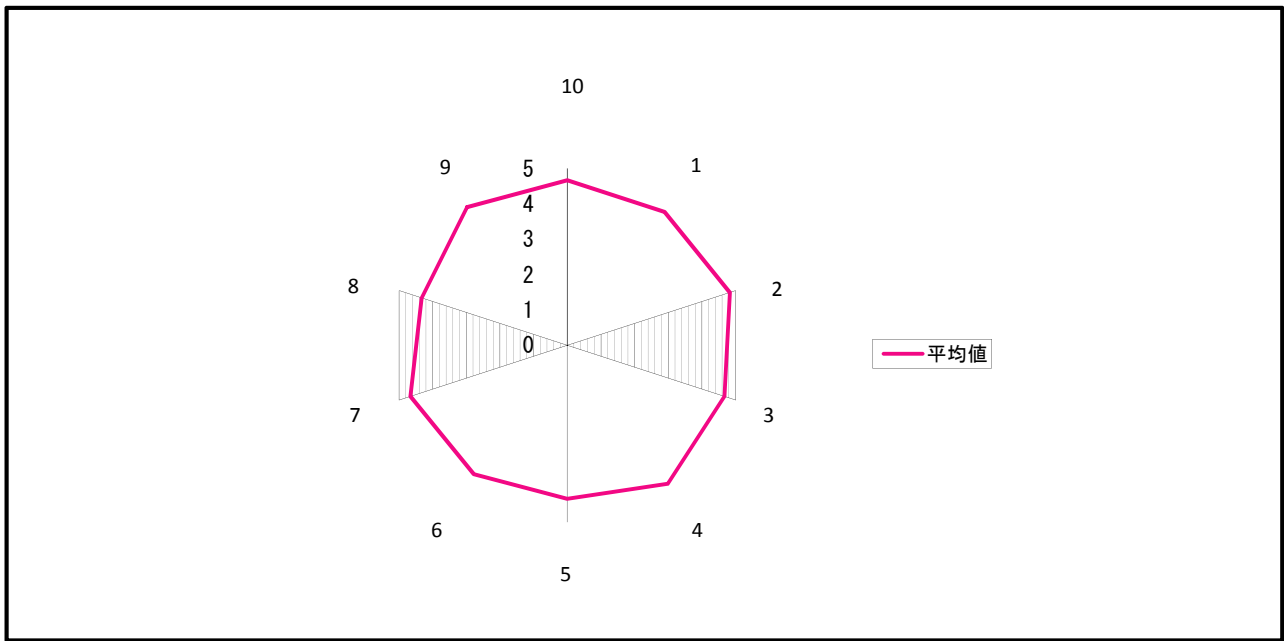
教員のコメント

本授業では、日本語の単音(母音、子音)の特徴、音声と音韻の関係など様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な音声指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「とても丁寧に前回の講義での質問から答えてくださり、その上で新しい内容に進んでいったため、理解が深まりました」、「小テストをこまめに行うことで、脱落者を出さないよう配慮していた」など、受講者の理解を促すための担当教員の工夫を高く評価する声が多く見られた。一方で、「授業に主体的・積極的に取り組んだ」かどうかを問う項目で低い自己評価を下していた受講者もいたので、なるべく全員が主体的・積極的に取り組もうと思えるような授業運営上の工夫がさらに必要かもしれない。今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 国語科教育学研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 村井 万里子 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



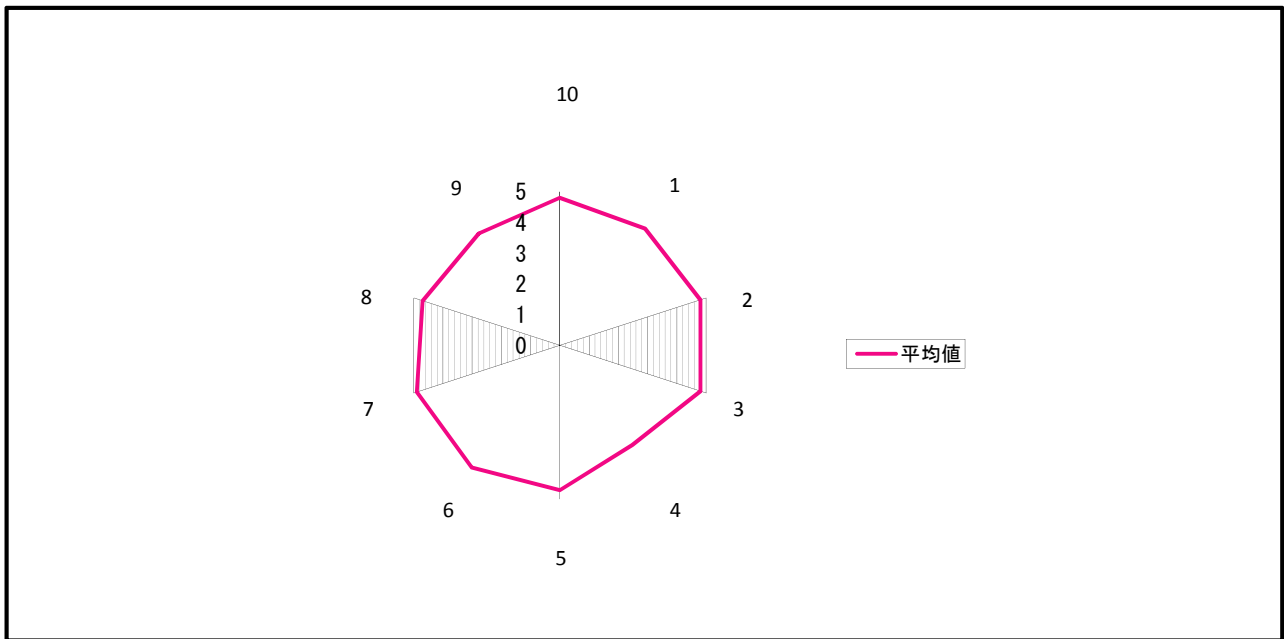
教員のコメント

少人数の授業であるため、受講生の反応をみながら授業を進めることができた。ただし、「3」評定が1名ずつ見られる「5進む速さ」「6分かりやすい説明」「8板書・視聴覚機器」については、このアンケートによって問題の所在を気づかされた。内容については、原論と具体論の往還・一体感を目指していることが一定の評価を得られたものと推察される。もちろん、改善の余地はまだある。質を落とさずに新鮮な内容となるよう、絶えざる更新を行っていくことが、恒常的課題である。

結果報告書

授業科目名 国語科授業研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 幾田 伸司 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9		1			4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	5	2		1	4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	2			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9		1			4.8



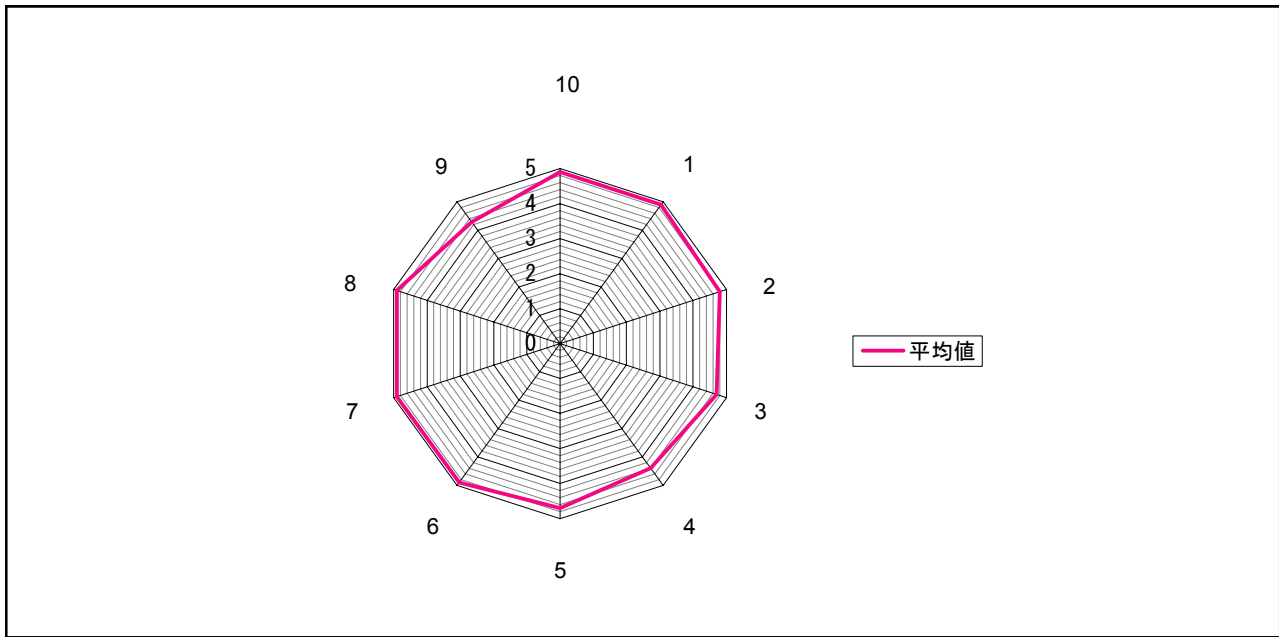
教員のコメント

全体的に高い評点を付けていただきました。教材分析を中心にグループワークを取り入れたため、受講生の方が主体的に考え、発言する機会が多く持てました。それが、評価にも反映されていると思います。実践につながる内容であったというコメントもありましたので、授業目標はある程度達成できたように思います。一方で、様々なコースの方が受講してくださり、国語科教育に関する知識の多寡もある状況でしたから、私の方で全員の理解状況度を把握し切れていなかった面もあったと考えます。また、ワークの課題や時間配分などについても、今年度の反省を来年度に生かしていきたいと考えています。

結果報告書

授業科目名 国語科教材開発研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 余郷 裕次 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1	1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	4	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9

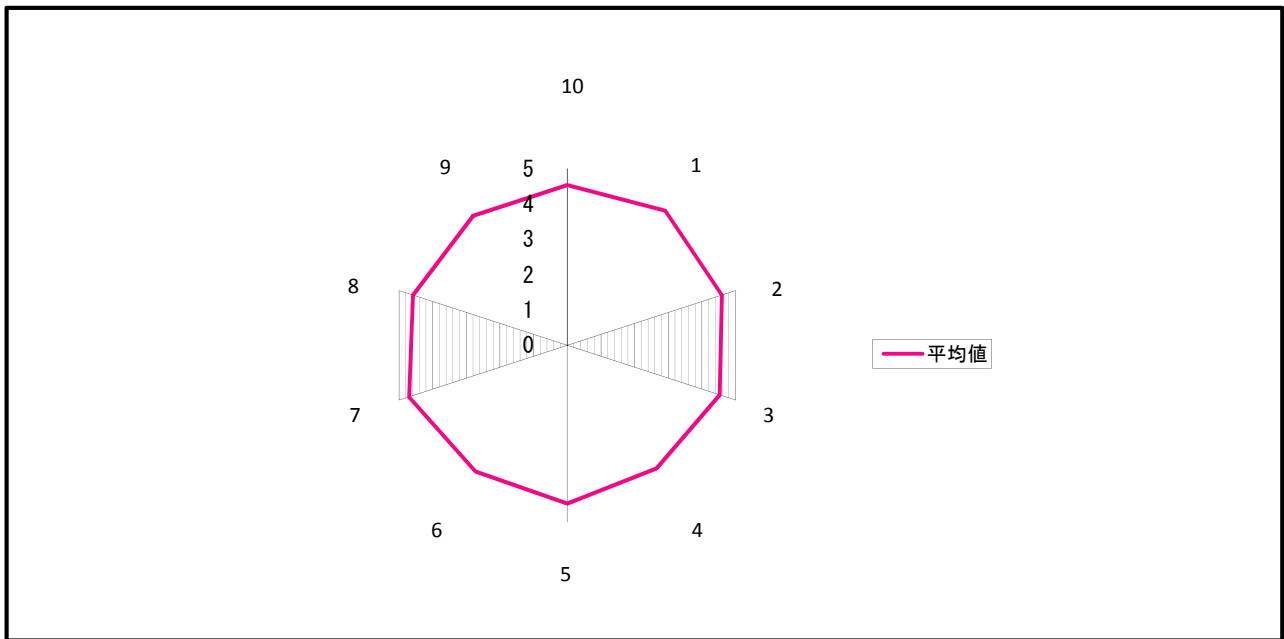


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 日本語教育法研究
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 小野 由美子 回答者数 17 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	5					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	5	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	3	1	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	6	1		1		4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	5	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	6	2				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	3	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	4		1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	6	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	6	1				4.5



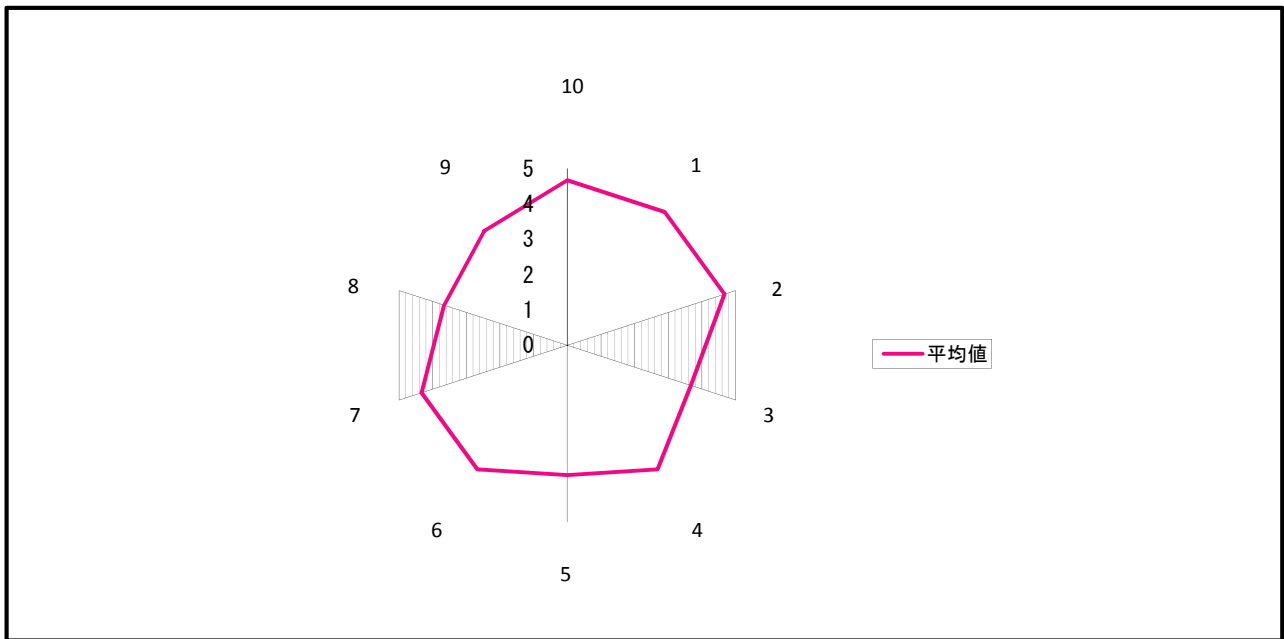
教員のコメント

授業の総合評価が4.5で、この程度の人数だと、授業の狙いは達成できたと評価できよう。ただ、「授業の進め方」で(4)「成績評価の方法の説明」(6)「分かりやすく説明」の項目が4.5をやや切っており、受講生への分かりやすい説明にもう少し配慮する必要があるだろう。学生にとって意味ある楽しい授業づくりを更に心がけたい。

結果報告書

授業科目名 英米文学応用演習Ⅱ
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 太田 直也 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	1			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		2	1			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2		1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		2			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



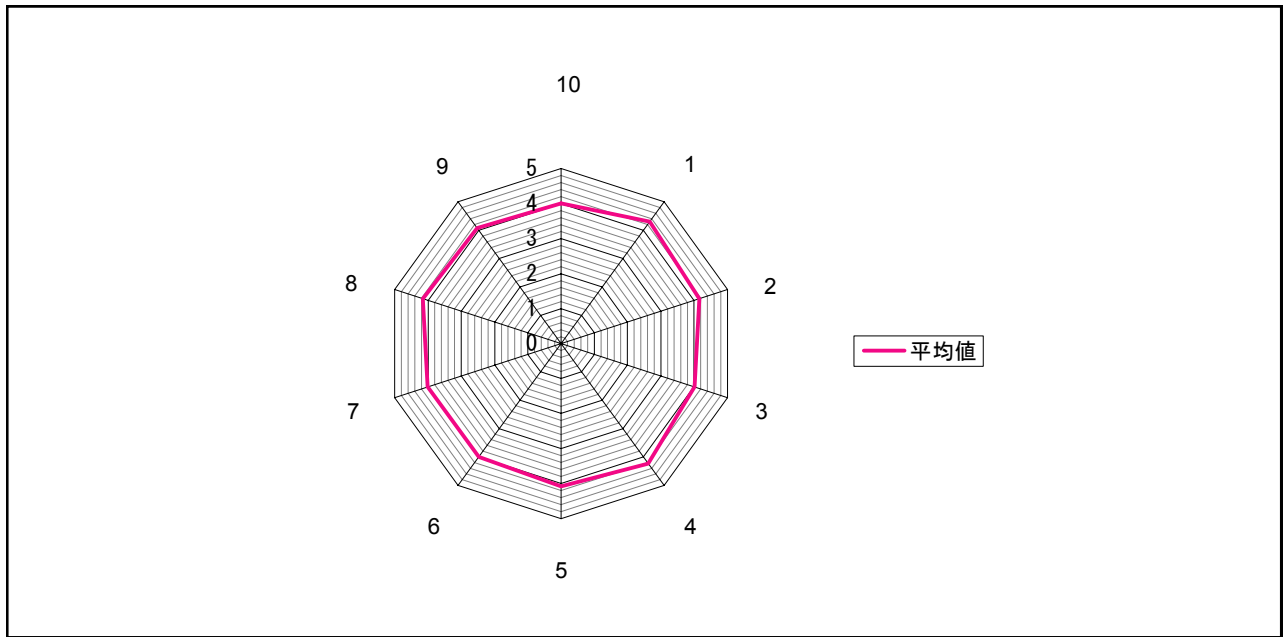
教員のコメント

ここで得られた高い評価は、そのまま受講者たちの授業準備等における努力を表していると思われる。基本的に予習を必要とする授業だからである。授業担当者としては、受講者の発言機会がやや少なかったという反省点もあるが、次年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論Ⅱ
 評価実施日 平成27年8月6日
 担当教員名 藪下 克彦, 眞野 美穂 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	5	2			4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4	2	1		4.2
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5	4			4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	8	1			4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	8	2			4.1
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	6	2	1		4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	9	2			4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	7	2			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	4			4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	5	4			4.0

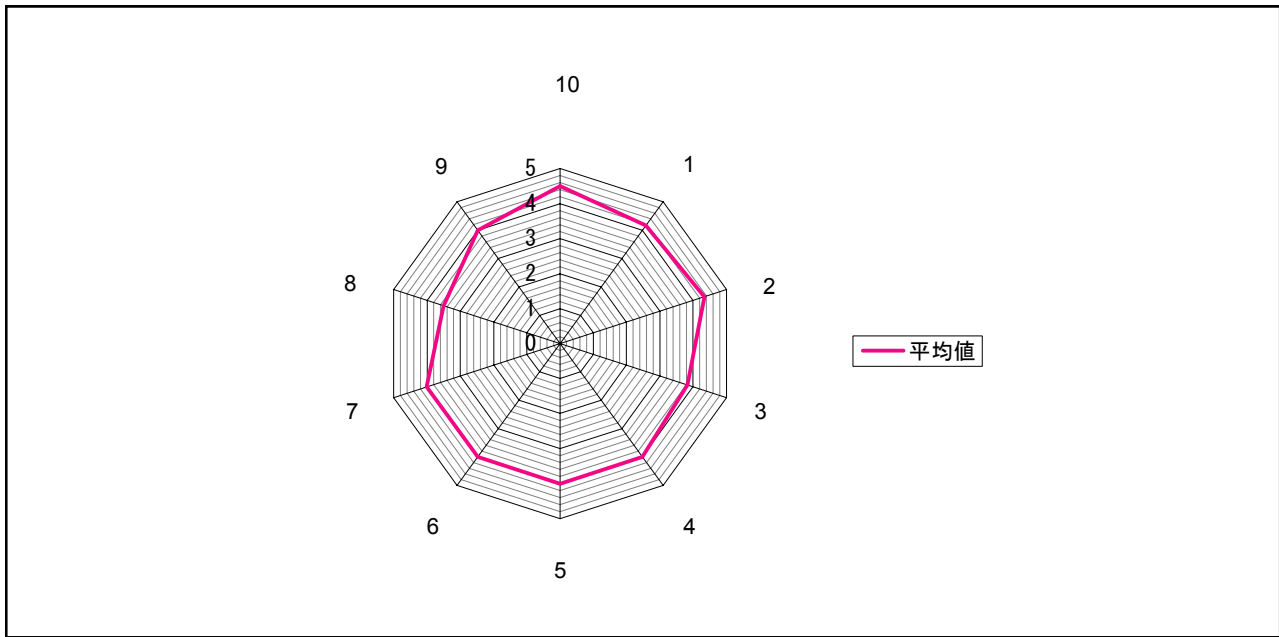


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 英語学研究 I (英文法理論)
 評価実施日 平成27年7月29日
 担当教員名 藪下 克彦 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	3	1			4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	4				4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	2			3.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	4	1			4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	4	1			4.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1	4	1			4.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	4	1			4.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	2	1		3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3		1		4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	3				4.5

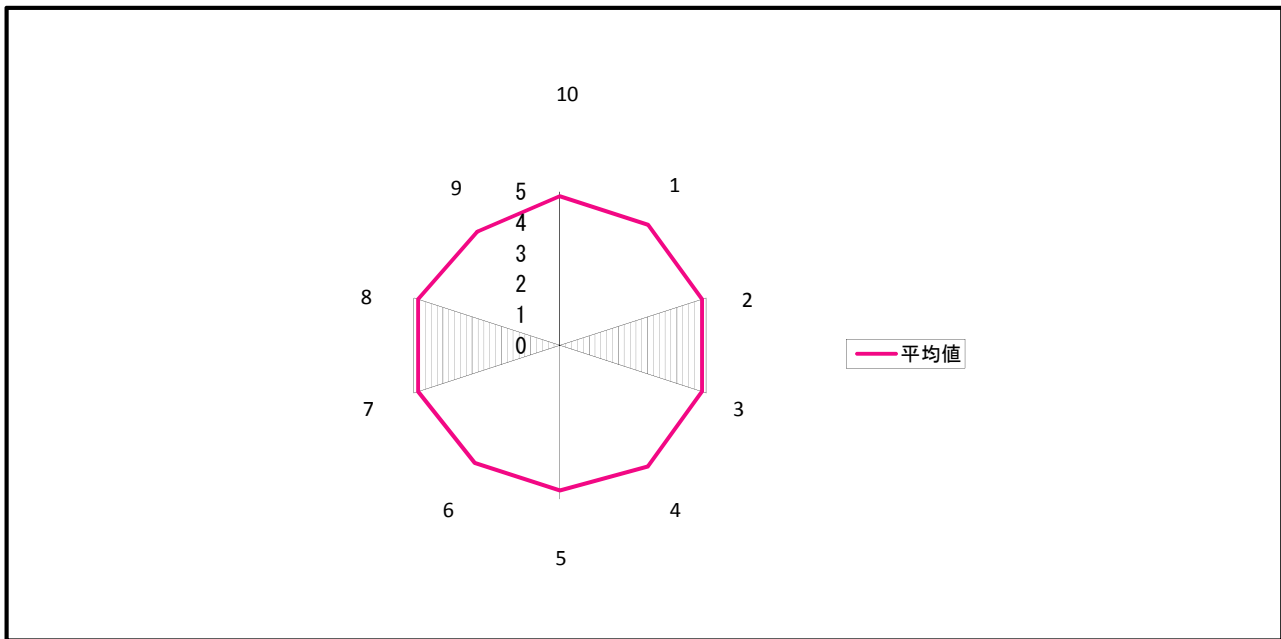


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 英語学研究Ⅱ(言語表現)
 評価実施日 平成27年8月6日
 担当教員名 眞野 美穂 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6		1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

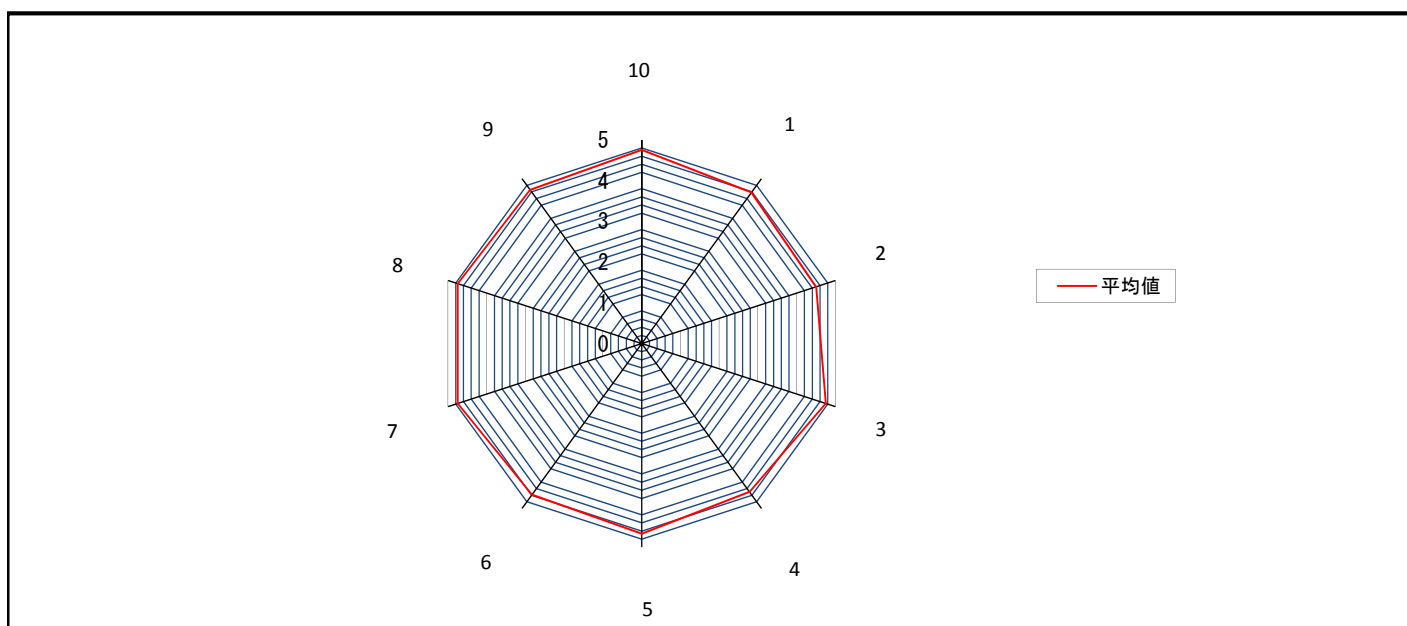
授業評価の結果から、ほぼすべての項目で適切に授業を行えたように感じている。しかし、今回の授業では英語論文を含めた論文を読む内容だったため、早く感じた履修者もいたようである。来年度以降、皆が積極的にかかわれるよう、改善を考えたい。

結果報告書

授業科目名 パブリックスピーキング
 評価実施日 平成 27年 7月 29日
 担当教員名 吉川 エリザベス

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3	1			4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2	2			4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1	1			4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2	2			4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	8	4				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	9	1	2			4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1	1			4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1	1			4.8



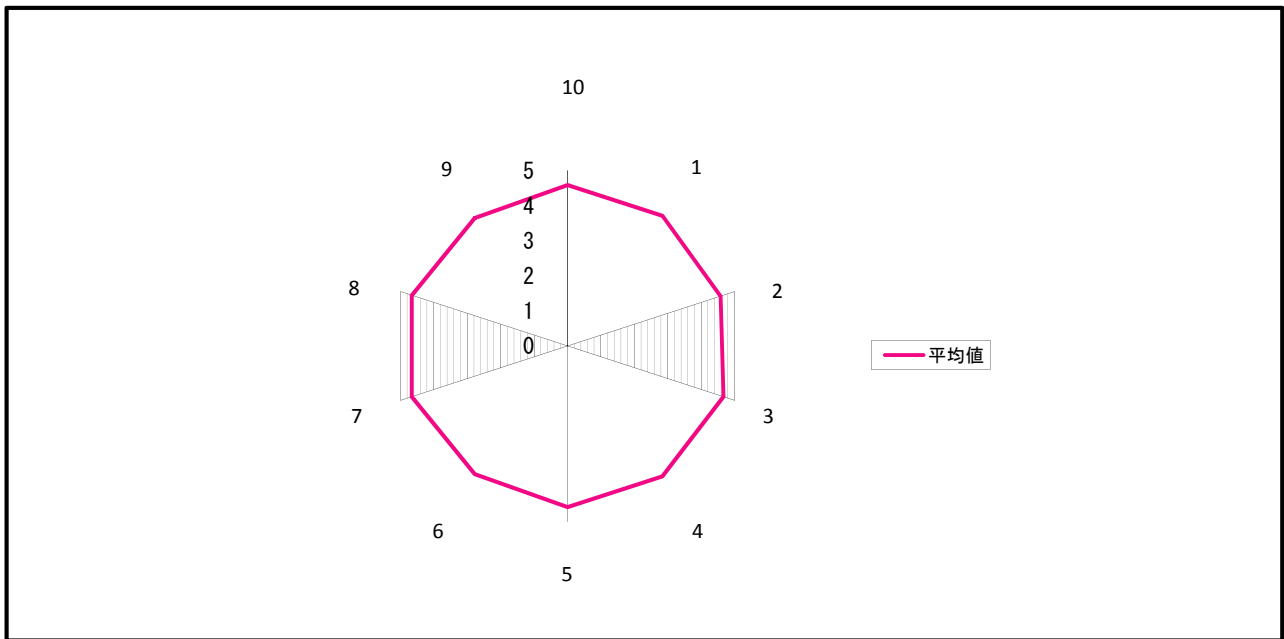
教員のコメント

It seems that most students are satisfied with this class. I could improve on the handouts and the pace of the course according to the students. However these students did not say if they meant the handouts were too many or too complicated nor did they say if the pace of the course was too fast or too slow. I should therefore encourage students to give me suggestions as to how to improve the course during the lecture time.

結果報告書

授業科目名 アカデミック・ライティング II
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 吉川 エリザベス 回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3	1			4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5				4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	3	1			4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	8	3	1			4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	6	6				4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	2	1			4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	4				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	5				4.6



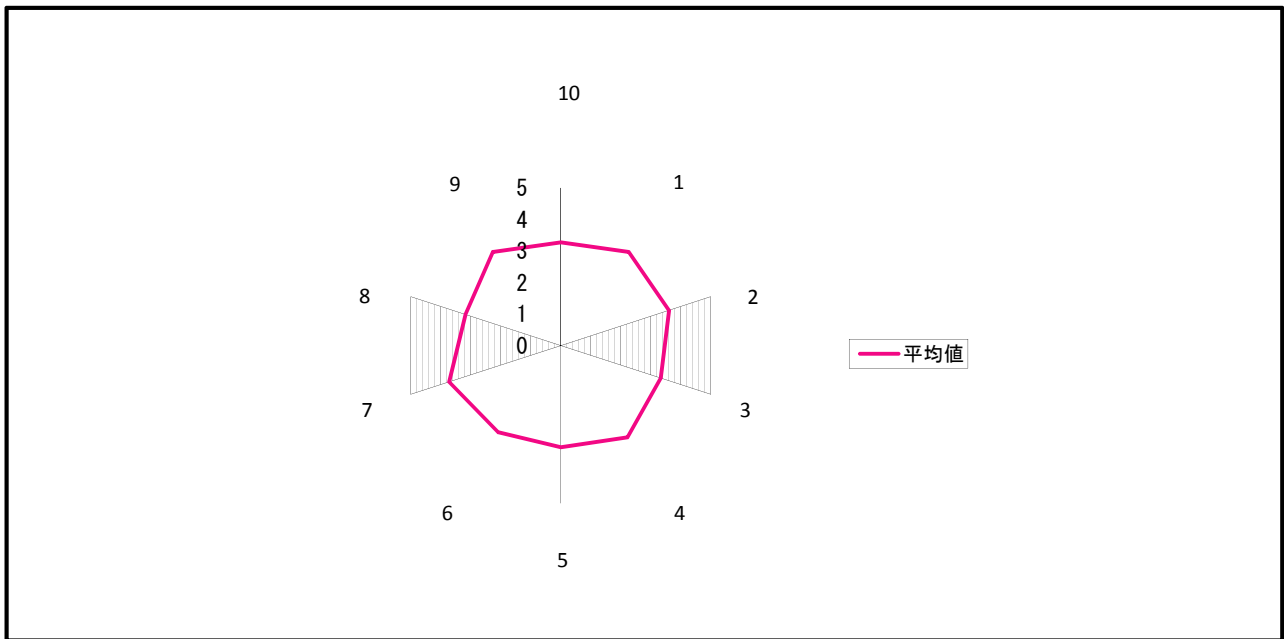
教員のコメント

Students generally seem happy with this class. However this is not to say that I should not strive to further improve the class. It seems that some students feel that the overview of the class was not properly represented in this class. In this case I should ensure that students are aware of the most current syllabus handed to students on the first day of class. I should continue to strive to ensure that I provide the best learning opportunity and learning environment that I can so that students can improve their written skills in English.

結果報告書

授業科目名 英語科教育特論 I
 評価実施日 平成27年7月24日
 担当教員名 石濱 博之 回答者数 18 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	8	5	2		3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	6	3	3	1	3.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4	6	2	2	3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2	8	2	1	3.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	3	6	3	2	3.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	6	4	1	3	3.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	5	4	2	1	3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3	8		3	3.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	6	6	2		3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	7	5	2	2	3.3



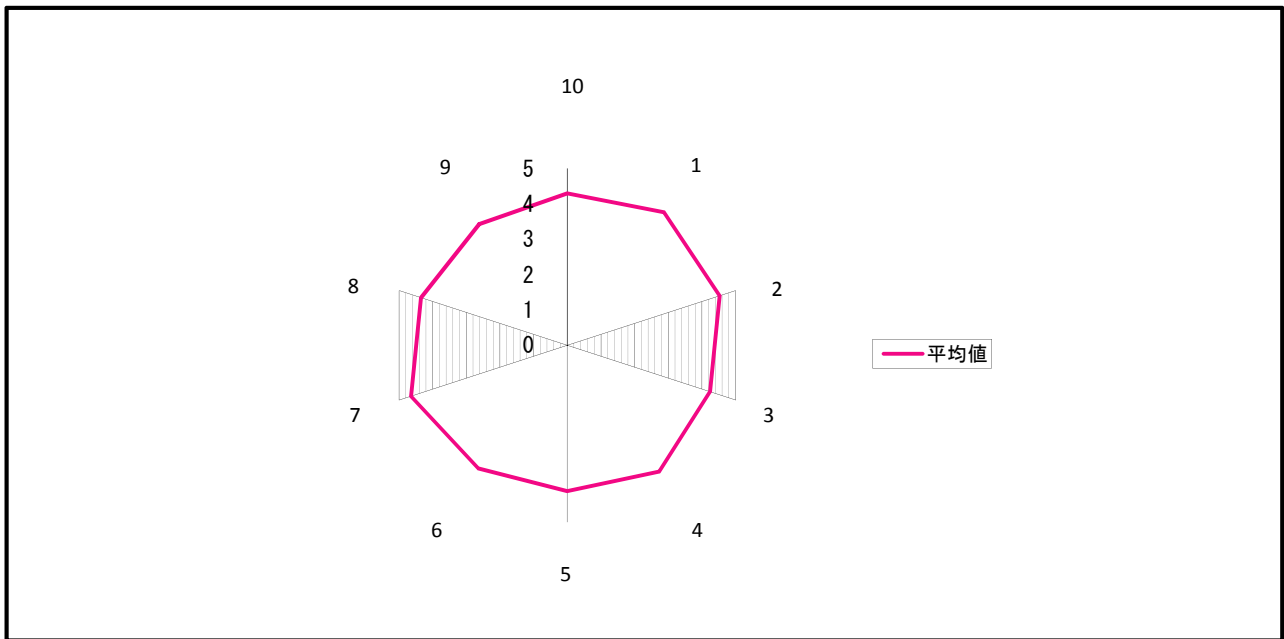
教員のコメント

全般的に3という平均的な評価であったので、高い評価になるように授業の内容、進めたか等を工夫したい。実際に、言語習得・英語教育・授業の進め方に関する文献を読み進めていったが、大学院レベルの知識を有していない受講生も見受けられるので、その受講生にふさわしいテキスト(教科書)を検討すべきであった。ただし、今回読んだテキストは、入門期レベルのテキストであった。将来の修士論文を書くために役立つ文献を読もうとしたのであったが、あまり受講生に伝わらなかった。それが、テキストの内容を読むことが将来の教育実践につながるであろうと考えていたが伝わらなかった。今後は、テキスト選びから授業の進め方等まで検討の余地がある。英文の読みを割り当てた日以外は、その英文を読んでこない受講生がいることは残念であるが、どのような授業にしていけるか検討していきたい。

結果報告書

授業科目名 英語科教育特論Ⅱ
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 山森 直人 回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	2	2			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	6	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	5	1	2		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	8	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	5	2	2		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	3	3	1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	4	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	2	3	1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3	3		1	4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	3	3	1		4.3



教員のコメント

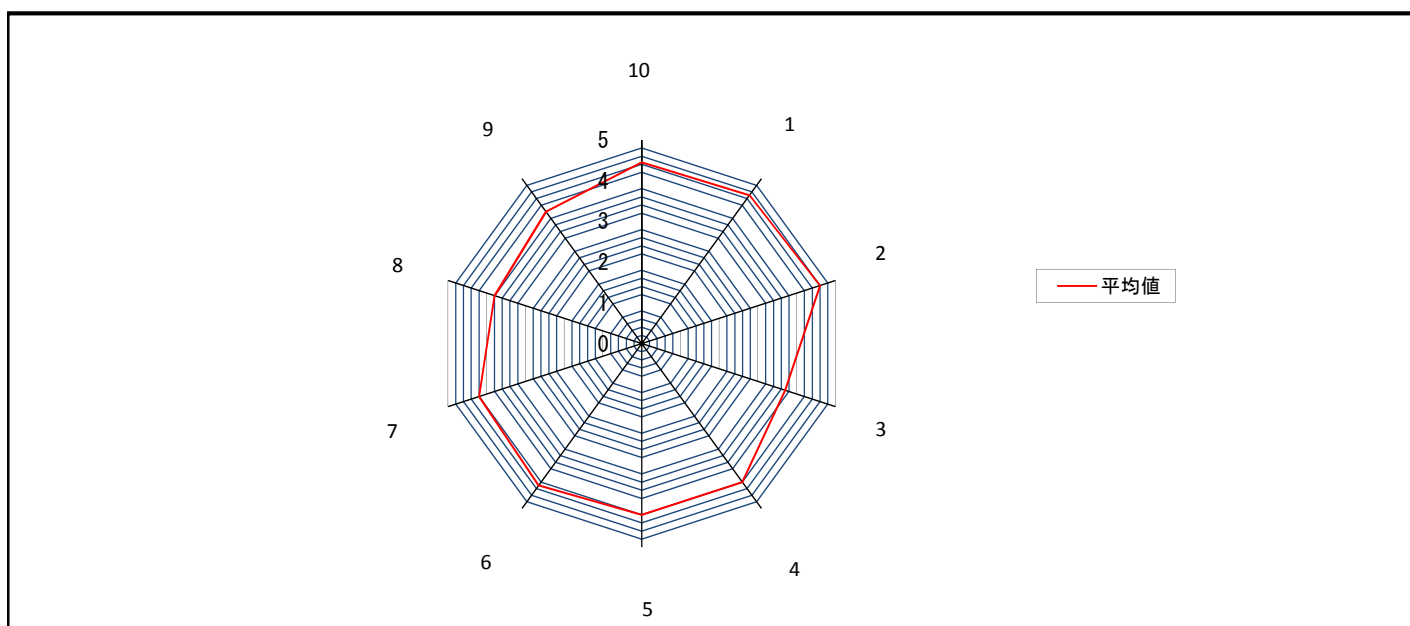
すべての質問項目の平均値が4点以上であったことを考慮すると、本授業は高評価を得たと判断できる。その一方で、項目(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった。」や項目(5)「授業の進む速さは、適切であった。」など、評定にばらつきが見られるものもあり、授業の内容と方法について検討の余地があるとも考えられる。特に項目(3)については、教育研究の方法論について学ぶ授業として、授業で扱う内容の吟味が必要である。ただし、修士課程に位置づく授業である以上、それに相応しい内容の質は維持したい。また、項目(5)については、これまでも熟考してきた点であるが、授業進度にあわせる学生側の主体性や、難解な内容でも果敢に挑む積極性を求めたい。もちろん授業者である私自身も、授業の内容や方法について、本学の修士課程の教育理念や、修士課程での学びの質、学生のニーズを常に意識しながら検討を重ねて授業を行いたい。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅱ
 評価実施日 平成 27年 7月 30日
 担当教員名 町田 哲

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3	1			4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4				4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	4		1	3.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2	3			4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	8				4.2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	3	2			4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	6	1			4.2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4	4			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	1	1		4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3	1			4.4



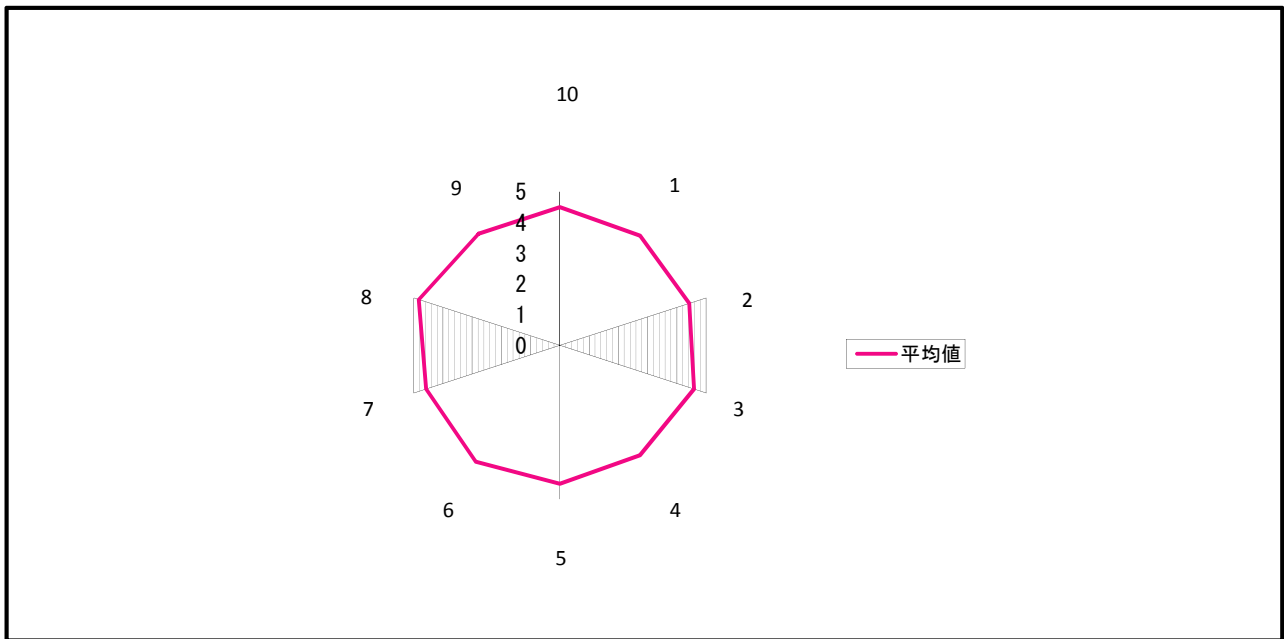
教員のコメント

今年度の歴史学研究Ⅱでは、「幕藩体制と村落社会」をテーマとし、日本近世社会の成立と構造について、その基本的理解を深め、あわせて文献を読み込み理解する力量の獲得をめざした。東アジアの中での小農社会や、山口啓二・朝尾直弘氏といった近世史研究の基本文献を理解した上で、水本邦彦・久留島浩氏らの論文を読み込み、村社会に即した近世社会の展開を理解しようとした。内容的には、専門的なものであったが、これを通して近世社会はもちろんのこと、歴史社会の構造的把握の方法論について、おおむね理解が深まった。また、受講生は毎回論文を読み込み参加した。「村という日常史の観点で日本史を学ぶ事ができた」「毎週の論文講読で鍛えられた。(論文の)配布の順番も系統化されていた」というコメントや、総合評価4.4という数字もそれをうかがわせる。なお、「教師の実践力育成」の値が低いのは、何を持って教師の実践力ととらえるのかの幅によるものであろう。今後は板書等にも留意しながら、授業を進めていきたい。

結果報告書

授業科目名 英語科教育特論Ⅲ
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 畑江 美佳 回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	5	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	5	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	5	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2	2			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	5				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	4	1			4.5



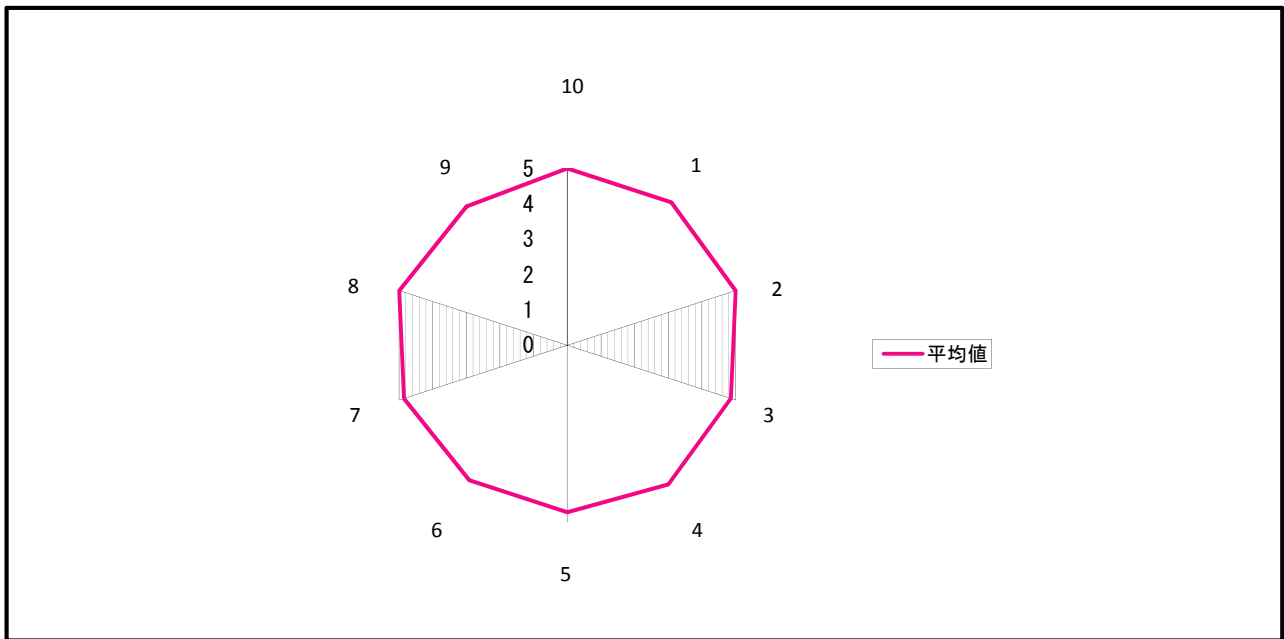
教員のコメント

総合評価で4.5ということで、概ね満足を得られる授業を実施できたと思う。学生の自主性を重んじ、まずは現状の英語教育に疑問を持つことから始めたため、各自が主体的に取り組み、意識を高くもって授業に参加することができたと思う。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅲ
 評価実施日 平成27年7月24日
 担当教員名 原田 昌博 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6		1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



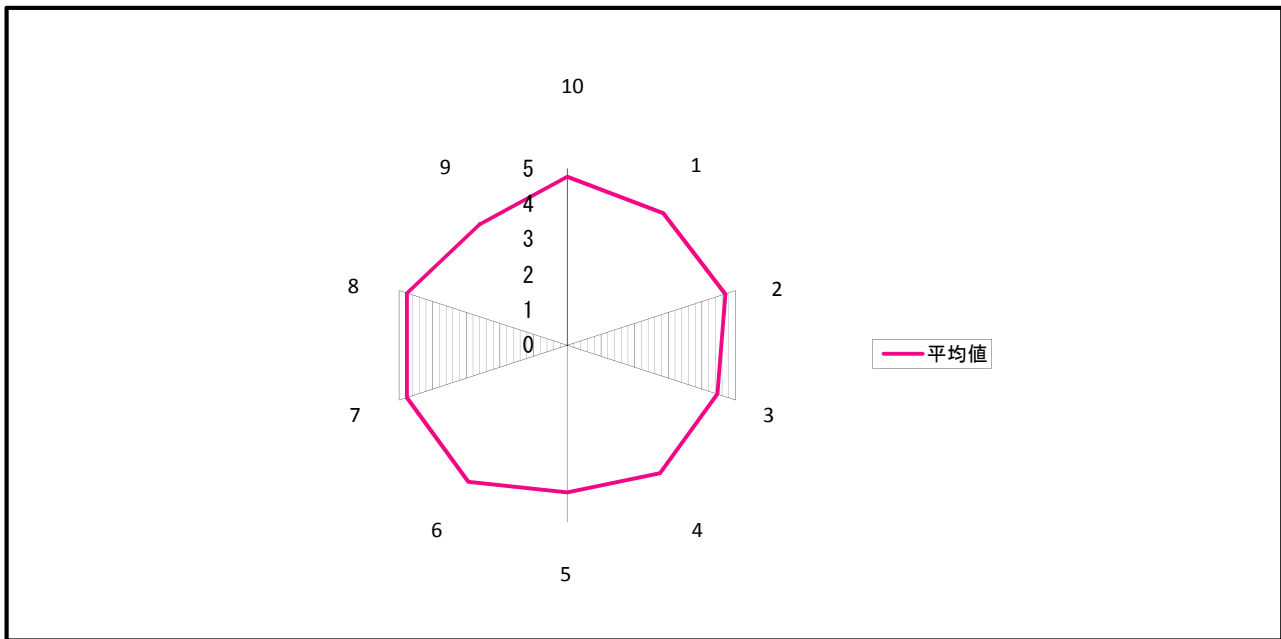
教員のコメント

本授業はナチズムを事例に、新旧高等学校教科書の記述内容を比較しその変化の背景を歴史学上の研究史に基づいて検討することで、歴史学における「見解・解釈の変化」を明らかにすることを目的としている。今年度は受講生が7名であったが、全体的に見て、各質問項目ともほとんどが「5」と評価しており、この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。質問10で全員が「5」と評価している点からも、受講生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。来年度はさらに内容の精選を図り、受講生にわかりやすい講義を目指したい。

結果報告書

授業科目名 地理学研究 I
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 畠山 輝雄 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	3	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	4				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	5	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	3	2			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	3	2		1	4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	1	1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	3				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	3			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	3				4.8



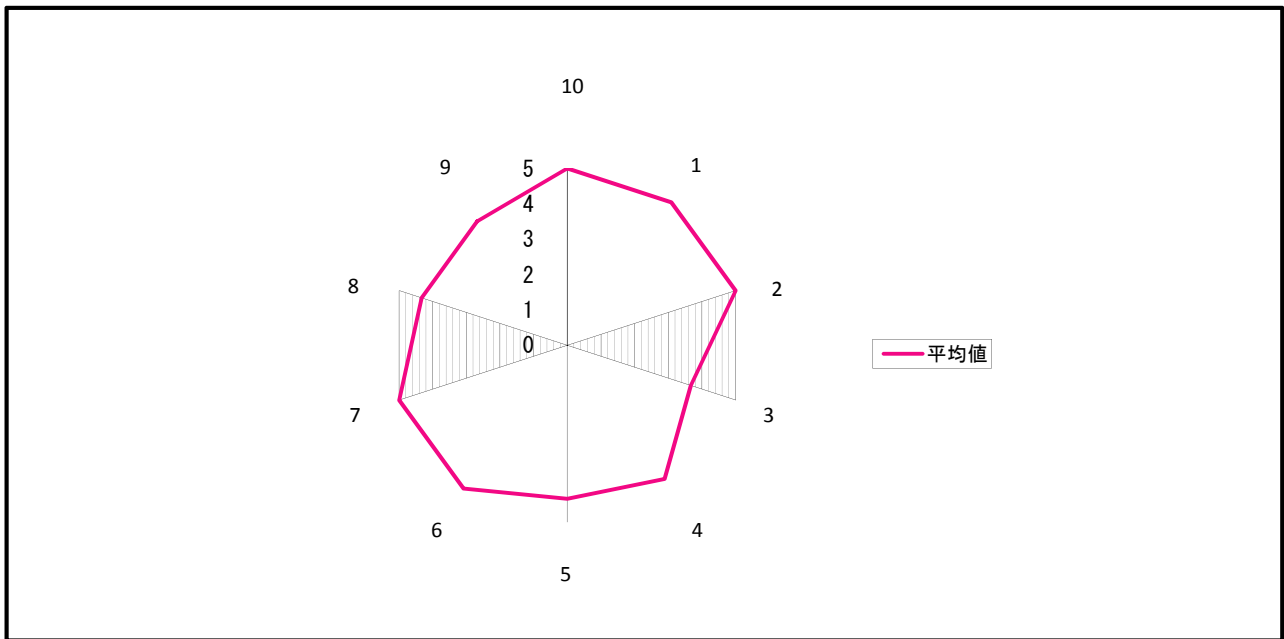
教員のコメント

大学院生からのコメントを踏まえ、今後の授業に活かしていきたい。

結果報告書

授業科目名 法学・政治学研究
 評価実施日 平成27年8月3日
 担当教員名 麻生 多聞 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	1			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



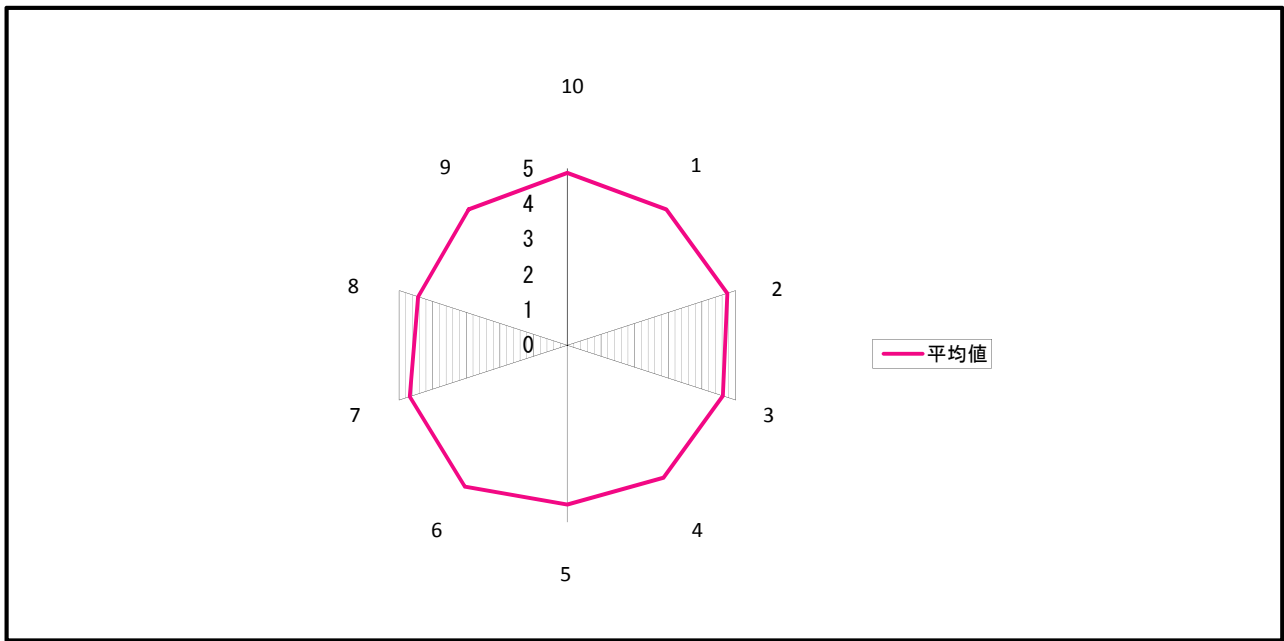
教員のコメント

本年度の「法学政治学研究」では、受講者の全員が主体的に取り組み、予習もしっかりとやっているという印象でした。当方の要望として、文献の内容について教員から質問をされた際に、「わかりません」で終わらせてしまうのではなく、何らかの形で自分自身の考察を述べるよう努めてもらいたいという点がありますが、様々な観点から向けられる質問を起点として、受講者各自の独創性に富んだ回答による討議が展開できたように思います。教員養成課程においては、教育内容のすべてが教育実践に直接的に結びつくものとして位置づけられるわけではなく、本時で取り上げるような専門性の高い文献の講読にも意義があると私は考えています。高度な専門的知識の重層的な修得によってこそ、将来の教育現場における教育活動が支えられるという側面も必ずあるということです。そのような意味で、本年度の受講者の皆さんは十二分な成果を修めたものと考えています。

結果報告書

授業科目名 社会学研究
 評価実施日 平成27年7月24日
 担当教員名 山本 準 回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	2	1			4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	2	1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	2	2			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	4	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	4	2			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	5				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3	3			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	4				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14	2				4.9



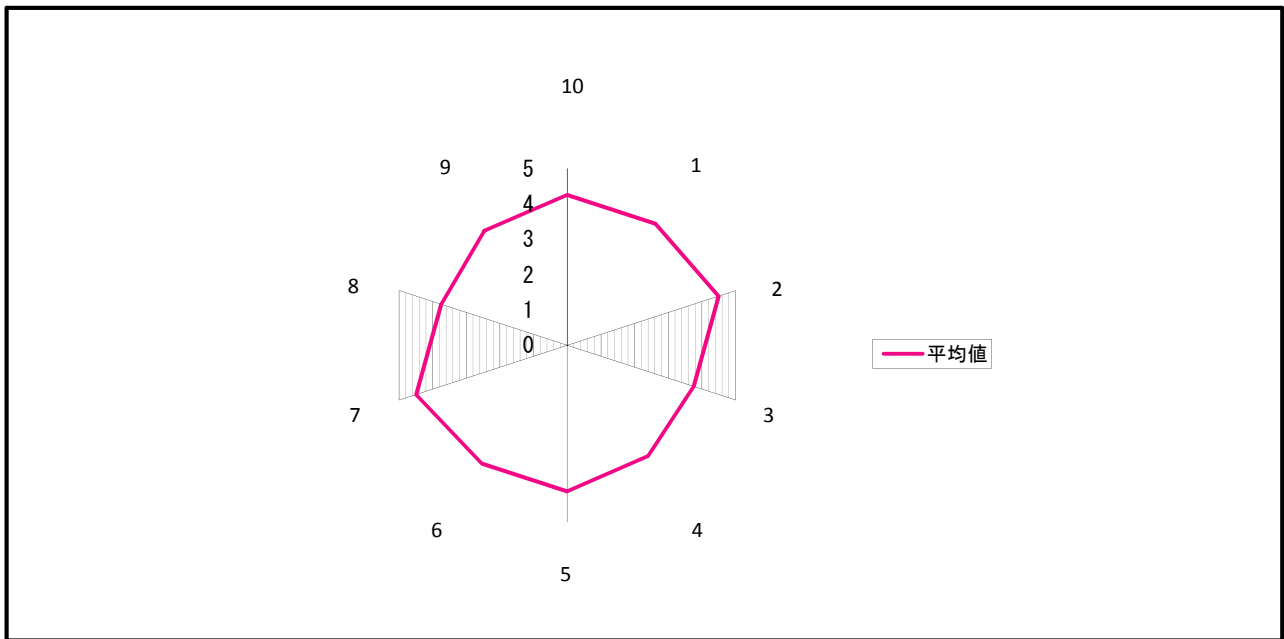
教員のコメント

アンケート項目(1)～(10)のすべてにおいて、受講者平均が4ポイント以上なので、おおむね好評であったかと思える。特に質問項目の(10)「総合評価」に関しては、総合評価が4.9であった。これは講義する側にとっては非常に喜ばしいものである。このような結果が毎年得られるように、授業の工夫を続けていきたいと思う。ただ質問項目の(8)「板書や視聴覚機器の使用は適切であった。」については、受講者平均が4.4ポイントであり、アンケート項目の中で最低点であった。視聴覚教材の利用や資料の利用方法などに、さらにもう一工夫必要ではないかと考えている。

結果報告書

授業科目名 社会科教育学研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 伊藤 直之 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2	2			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3		1	1	3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3		2		3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	4		1		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	2			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	4				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4	1		1	3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	3			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1	1	1		4.3



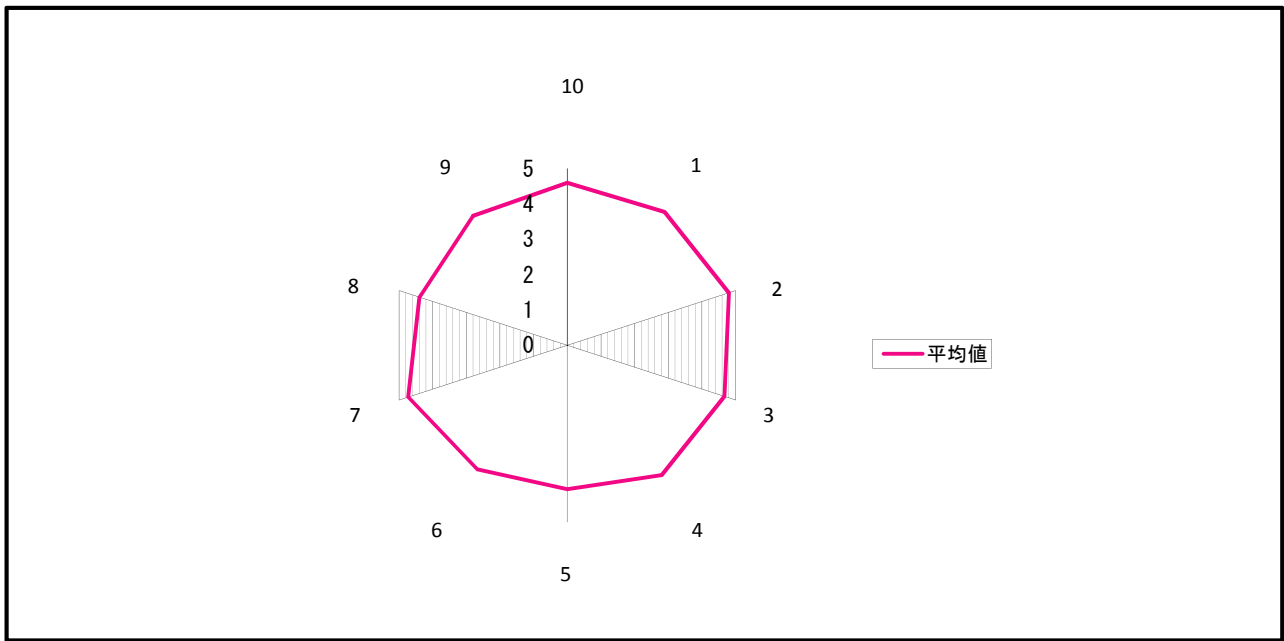
教員のコメント

昨年度に引き続いて、教師の実践力育成につながる内容として評価が低いように思われ、課題がある。
 本講義の趣旨が社会科授業の原理・理論であるために、致し方ないことかもしれない。
 今年度は、15回のうちの一部において、受講生の「ワークショップ」なども取り入れて、理論の実践化を試みたが、残念な結果であった。
 次年度も継続的に拡充を試みたいが、「木を見て森を見ず」とならないようにしたい。

結果報告書

授業科目名 社会科授業研究
 評価実施日 平成27年7月29日
 担当教員名 梅津 正美 回答者数 15 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	3	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	1	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	2		1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	5	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	5	3	1			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	4	3				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	3	3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	2	2				4.6



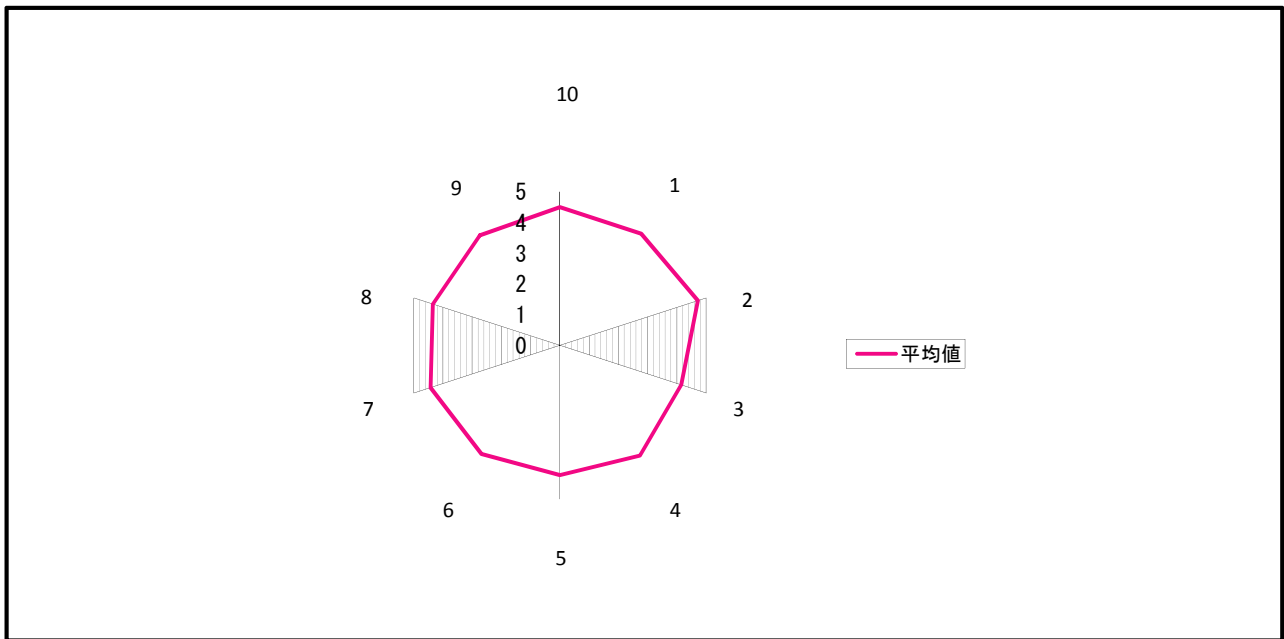
教員のコメント

本授業は、学校現場において社会系教科の授業研究を推進できる力量とともに、自己の社会科教育観や授業論を省察できる力量を育成することをめざして展開した。授業内容は、大きくは①基礎的・基本的な社会科授業研究方法論の理解、②事例を通じた社会科授業論の類型・特色・限界の理解、③研究方法論を活用した小・中学校で実施された授業研究の分析・評価・改善である。受講学生の評価結果によれば、総合評価が4.6であり、専門的知識の深化に係る項目が4.8、教育実践力形成に関わる項目が4.7であった。また、学生の本授業への取組に関わる項目が4.5である。こうしたことから、本授業は、目標・内容・方法において概ね学生から良好な評価を得たと言える。授業の進度に関する評価が相対的に低い結果であったので、学生の理解度を丁寧に見取りながら内容の精選や学生主体の授業方法のさらなる工夫を図ることが必要であると考えている。

結果報告書

授業科目名 代数学研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 平野 康之 回答者数 14 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	7					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	2	1			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	6	1				4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	5	3				4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	5	2				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	6	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	4	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	5		1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	7					4.5



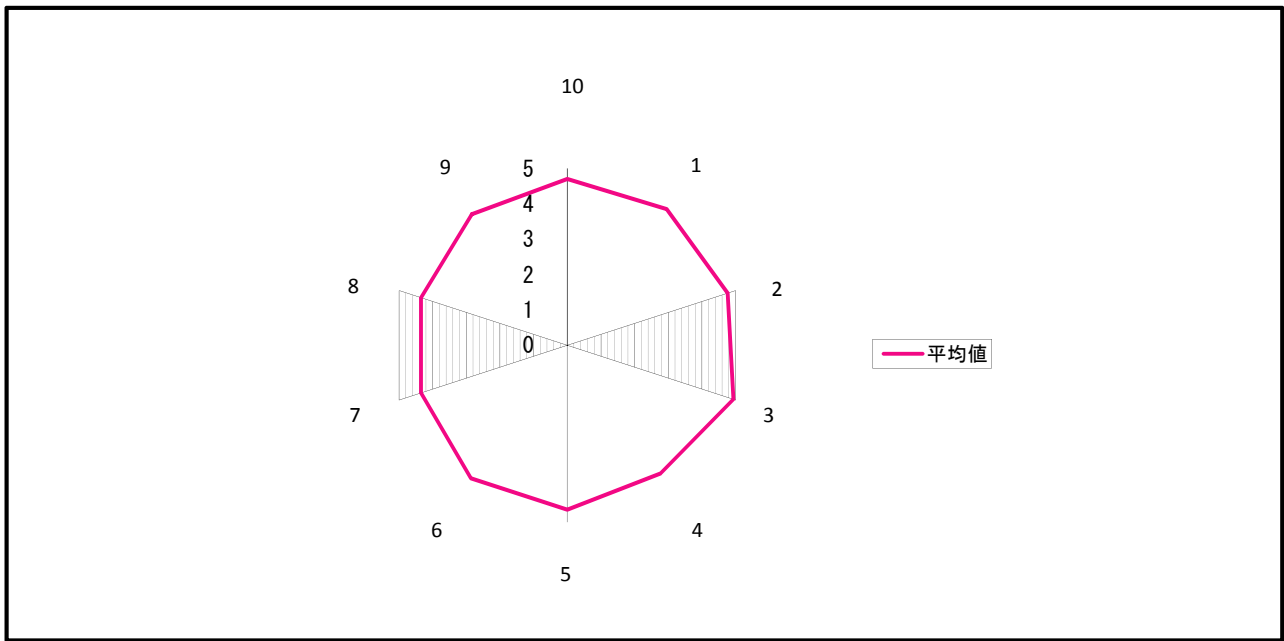
教員のコメント

すべての平均値が4.1以上であり、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」、「(6)受講生に分かりやすく説明した」、「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」、「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」という問いに対して評価の平均値が4.4であったので、この授業が受講者に一樣の評価は受けていると思われる。しかし、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(5)授業の進む速さは、適切であった」という問いに対して評価の平均値が4.1～4.2の範囲に留まっており、今後、これらの点に関して改善していきたい。総合評価として「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いの平均値が4.5であったので大多数の受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。今回の評価の平均値は昨年より高い数値であるが、それに満足せず、もっと教師の実践力の育成につながる内容にし、授業の進む速さも学生の理解度に合わせた適切なものに改善していきたい。

結果報告書

授業科目名 数学科教育学研究
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 秋田 美代 回答者数 17 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	4					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15		2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	1				1	4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	4	1	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	2	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	4	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	6	1	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3	4				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	4		1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	3	1				4.7



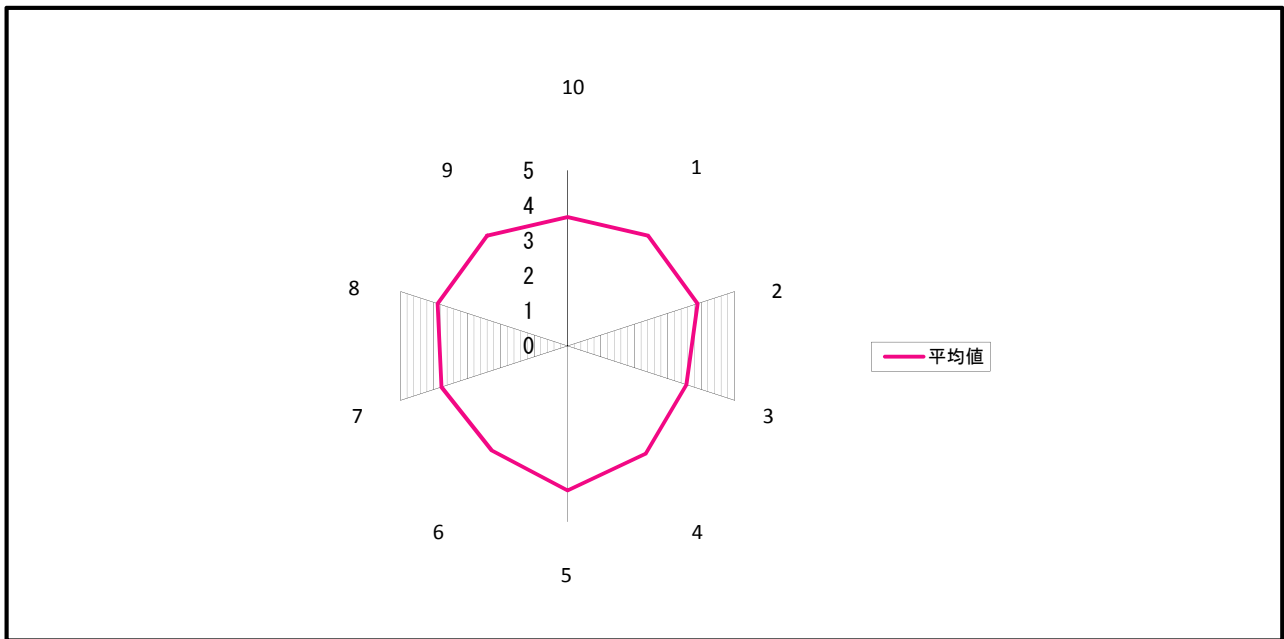
教員のコメント

この授業科目の主な目標は、数学教育の目標論、カリキュラム論、内容論、方法論、評価論等について考察し、生徒の基礎的学力、関心・意欲、創造性等を高める数学学習理論について理解すること、及び数学教育における実践的な課題に対する解決策についての認識を深めることであった。総合評価の平均値は4.7、評価の平均値が高かった質問項目は、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」であり、授業の内容については受講生の数学の指導力や数学教育についての専門的知識を向上させることができるものであったと判断できた。一方、「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」、「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」、「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」については、評価の平均値は4.4以上であり、多くの受講者にとっては概ね満足できるものであったかもしれないが、評価2を選択した受講者もいることから、個々の受講者の要望や理解度に対する配慮の必要性を感じた。この授業科目の目標は、達成できたと考えるが、個々の受講者についての手立てを工夫することが次年度の課題である。

結果報告書

授業科目名 数学科教材開発研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 佐伯 昭彦 回答者数 9 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3		1	1		3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	4	1		1		3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	5	2		1		3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	4		1	1		3.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	4			1		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	4	2		1		3.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	5	1		1		3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	4	1		1		3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4	3				3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	4	2		1		3.7



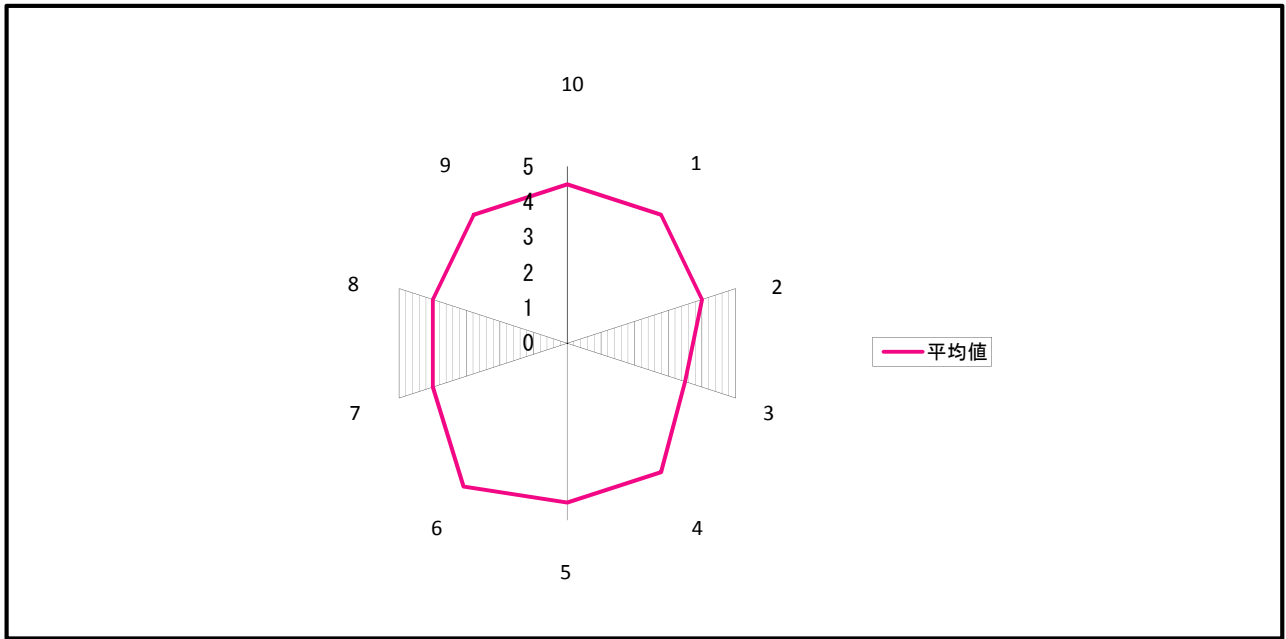
教員のコメント

1つの項目を除いて3点台後半の評価で、総合評価は3.7あった。この原因は、アンケート回答者9名という少ない人数において、一人の学生が全て1を選択したことが大きな原因であると考えられる。実際に、この学生以外に1を選択した学生はいなく、この学生のデータを外して再計算すると、全ての項目が3.9~4.5の値となる。本授業では、数学教育におけるICT活用について実際の教材を体験すること、数学授業を設計するために有用な理論を学生自身が調べ発表する活動を通して、教材開発に関わる資質・能力を高めることを目的として行った。再計算した結果からは、本授業の目的は概ね達成できたと考えられる。しかし、全ての項目において1を選択した学生がいたことは事実である。この学生のコメントに「他の授業の使いまわしはやめるべき」があった。これは、本授業の最初の5コマ分は、昨年度の学部1年の「初等中等教育実践基礎演習」とほぼ同じ内容を取り扱った。本授業の受講生には、長期履修生が2名おり、2名とも昨年度の「初等中等教育実践基礎演習」を履修していた。この事実は、4月当初に分かり、授業内容を変更することは不可能であった。長期履修の制度は、素晴らしい制度であるが、こういったところに長期履修生を対象とした授業の大変さが初めて分かった。さらに、この学生のコメントに「教材開発という名前ばかりで、教材を開発などしていない」とのコメントがあった。本授業は、教材開発に関わる研究であり、実際の教材開発は後期の「数学科教材開発演習」で実施する。授業の目的や趣旨は、最初の授業で説明したが、このように授業の目的を理解していなかったことが低い評価を付けた原因だと考えられる。

結果報告書

授業科目名 物理学特論 I
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 本田 亮 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	1			3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



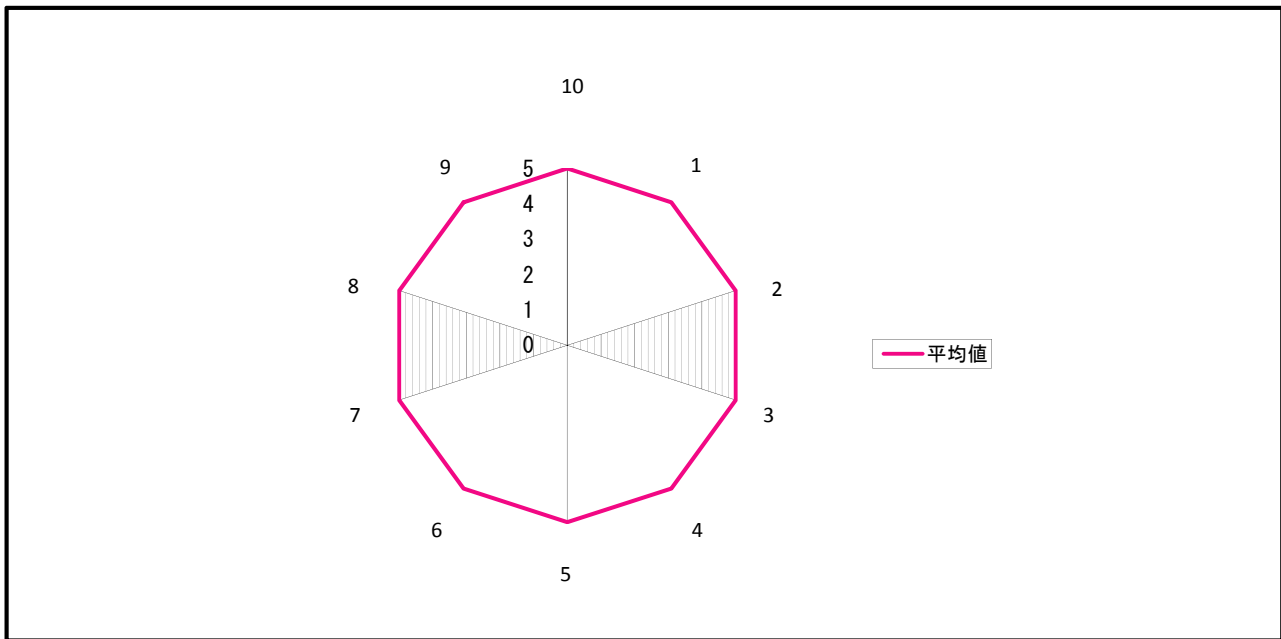
教員のコメント

受講生が少ないため、受講生の希望に合うトピックスを選ぶことができた。受講生に予習と授業中での説明を課したが、彼らもそれに対応した。授業評価アンケートの結果に対するコメントはない。

結果報告書

授業科目名 物理学特論IV
 評価実施日 平成27年7月29日
 担当教員名 本田 亮 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



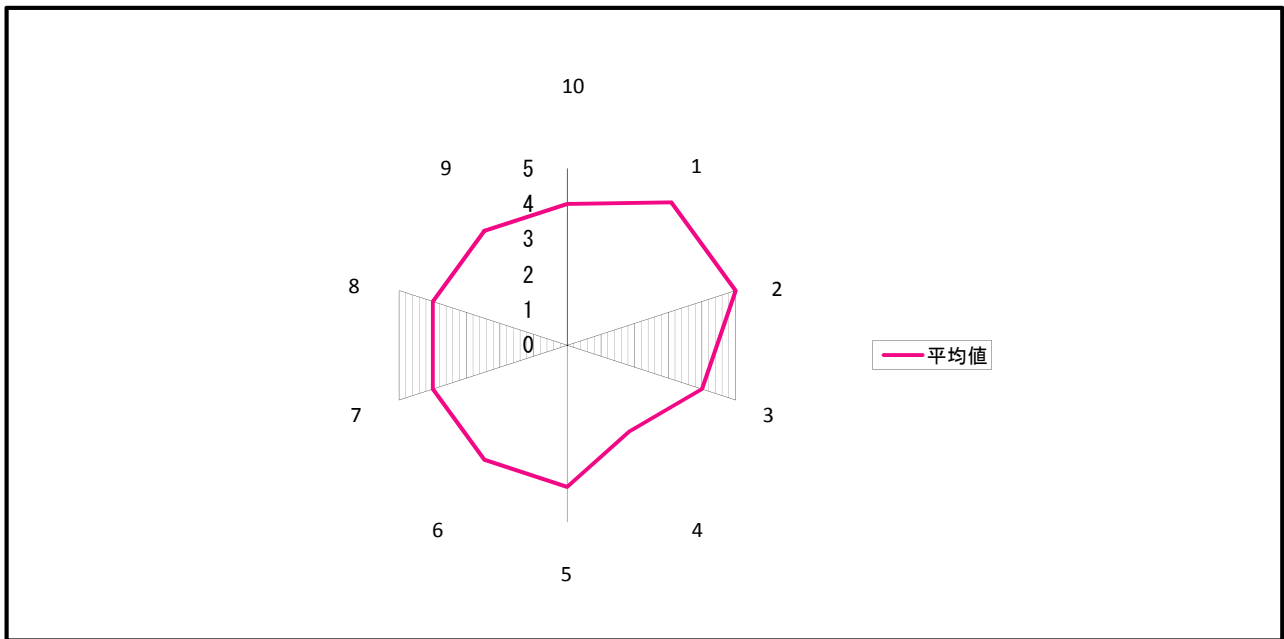
教員のコメント

受講生が1人であるため、授業評価アンケートの統計的な価値がなく、これに対するコメントも持ち合わせていない。授業は、受講生の学習履歴と予習に副っておこなわれた。

結果報告書

授業科目名 生物科学特論Ⅱ
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 工藤 慎一 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。			1			3.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		1				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		1				4.0



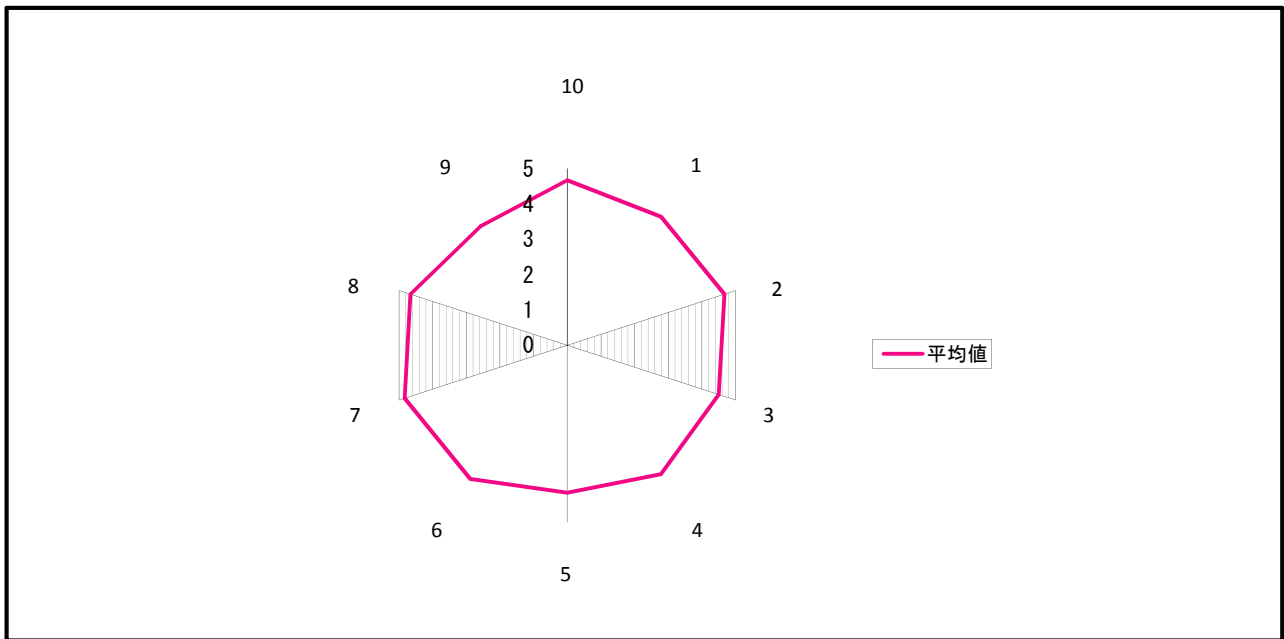
教員のコメント

受講生は1名であり、この結果に基づきコメントすることは控えたい。

結果報告書

授業科目名 宇宙科学特論
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 西村 宏 回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1	2				4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	1				4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2					4.7



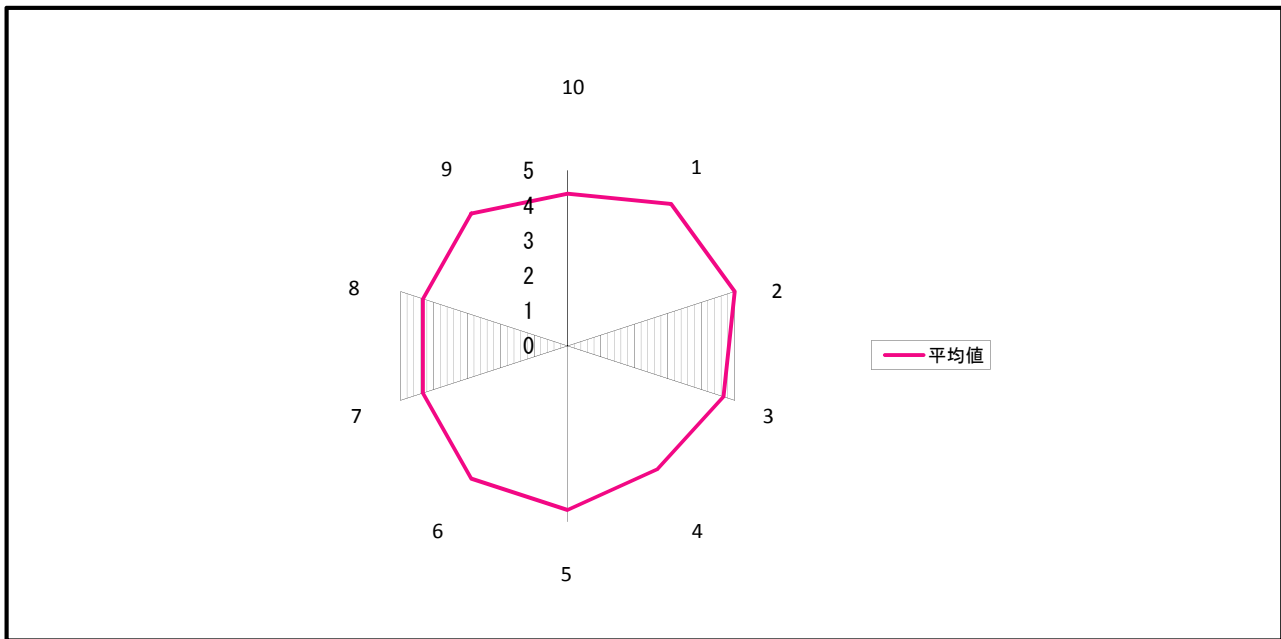
教員のコメント

全体的には、評価が4.7であり、講義としてはほぼ授業者の説明するべき意図が受講生に伝わっているものと思われる。
 「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」の設問に対する評価は4.2で、全評価中では「(5)授業の進む速さは、適切であった。」とともに、相対的に低い値を示している。これは、大学院授業の開講数が非常に多く、予習や復習にあてる時間がほとんど確保できなかった結果ではないかと推測される。その影響であると思われるが、授業の進む速さに対する評価が低い値を示している。授業内容が多いということもありうるが、むしろ、ゆとりをもって予習や復習にあてる時間がなかったことに起因するものと考えられる。
 幸いにも「(7)教科書や配布された資料は、適切であった。」という設問に対しては、4.8と最も高い評価が得られていることからみると、もっと時間的余裕があれば、配布された資料を予習によって精査でき、授業に十分反映できるものと思われる。
 自由記述の欄では、「宇宙科学についての専門的知識を深めるのに役立った。」や「宇宙の基本である力、原子、元素の合成についての学習ができた。」点が、この授業でよかった点として挙げられている。教員養成系の授業であることを勘案すれば、致し方がないだろうが、宇宙科学的観点で自然科学を見るという授業については、いわば初めての経験に近かったことがうかがわれる。その反映として、「普段の生活ではこうした内容の学修はまずできませんから、その機会が得られて大変よかった。」ととらえられている記述もみられた。
 総合的には、ほぼ平均化された評価が得られているが、もう少し内容を精選したうえで、ひとつの項目の解説にかける時間を長くする必要があるのかもしれない。

結果報告書

授業科目名 地球科学特論 I
 評価実施日 平成27年8月6日
 担当教員名 村田 守, 香西 武, 足立 奈津子 回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		1				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2		1				4.3



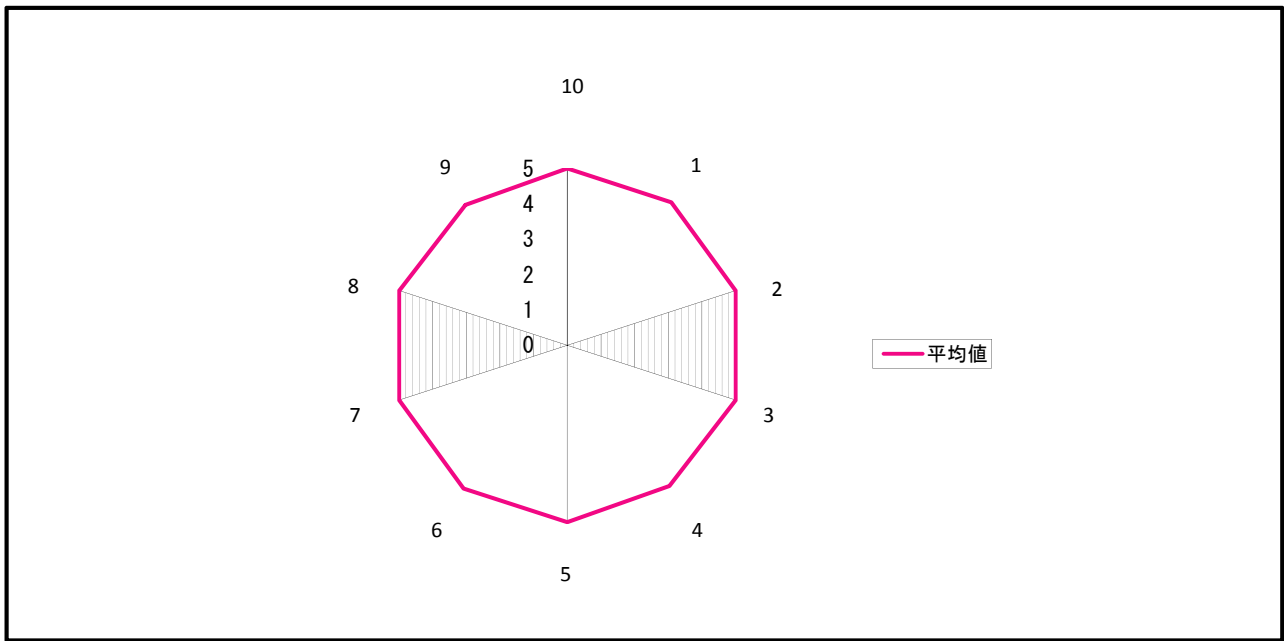
教員のコメント

受講生が3名(理科現職教員1名, 理科院生1名, 他コース院生1名)で, 学力・知識量に差があり, 求められるものが異なるので, アンケート結果が今後の講義の改善に繋がるかは不明である。ただし, 全員アンケート用紙の裏に記述していたので, 満足度は高かったものと思われる。

結果報告書

授業科目名 声楽発声法
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 頃安 利秀 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	1					4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11						5.0



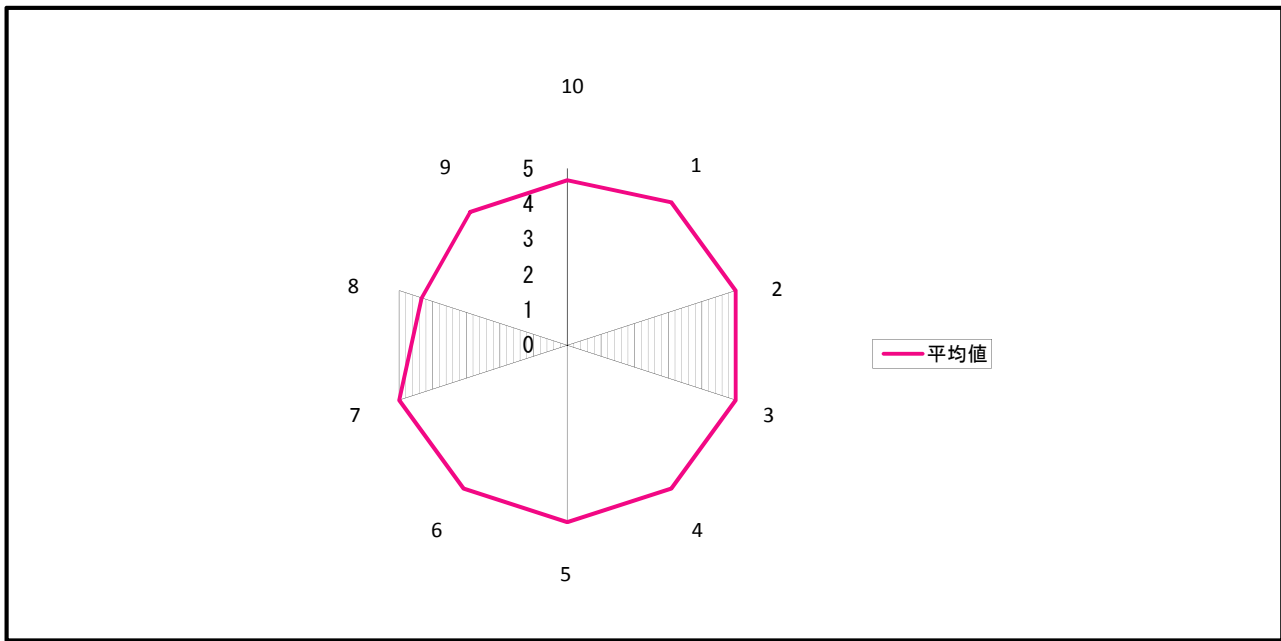
教員のコメント

7割以上の受講生が音楽コース以外の学生であったので、できるだけ誰にでも分かりやすい講義と実技指導を行った。自分でも驚くほどの高い評価をしていただいたと思う。「声とからだ」は教員が授業を行う上でマスターしておかなければならない重要な要素である。これが十分に使えなければ、どんな立派な授業構想ができたとしても、授業の中で子どもにしっかりと伝えていくことはできない。この授業がこのような高評価を受けたのは、教員の方々や教員を目指す学生に皆さんが、「声とからだ」をマスターする必要性を強く感じておられるからだと思う。

結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏基礎演習
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 森 正, 田中 巳穂 回答者数 3 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

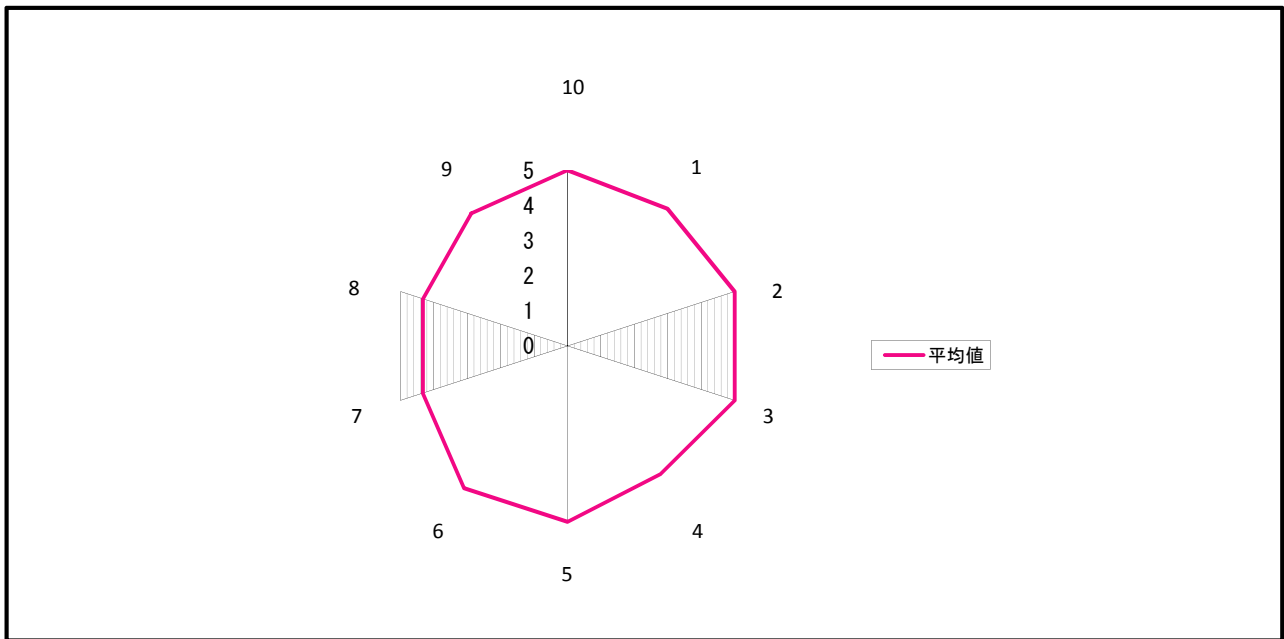
中国からの留学生も含め、課題研究でピアノを選択した学生、夏の教員採用試験を受験する学生と各学生の状況に応じた個人指導で授業は進められたが、それぞれの課題に即した指導により成果を上げることができたことが、学生の自由記述を読んでも感じられた。これからも、このような個人指導の形態で授業を行っていきたいと考えているが、学生のこれまでの学習経験等が多様化しており、特に今回は教員採用試験に対応したピアノ初見視奏の教材を取り入れた。また、長期履修の学生のように、在学中に実地教育で実際に授業を行うことが考えられる学生については、小中学校の音楽の授業において、どのようにピアノ伴奏に取り組むべきか、学部生には様々な機会を通して考えさせることが可能であるが、大学院生がピアノのレッスンを受けることが可能なのはこの授業だけなので、その対策についてもこの授業で触れる必要があると感じた。

そのような現状のなか、教師として音楽の授業行なう際に必要とされるピアノの演奏技術とこの授業との関係を、嘱託講師をお願いしている先生とも研究していく必要があると考えている。

結果報告書

授業科目名 学校教材ピアノ伴奏法
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 山田 啓明 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4		2			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4		2			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5		1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



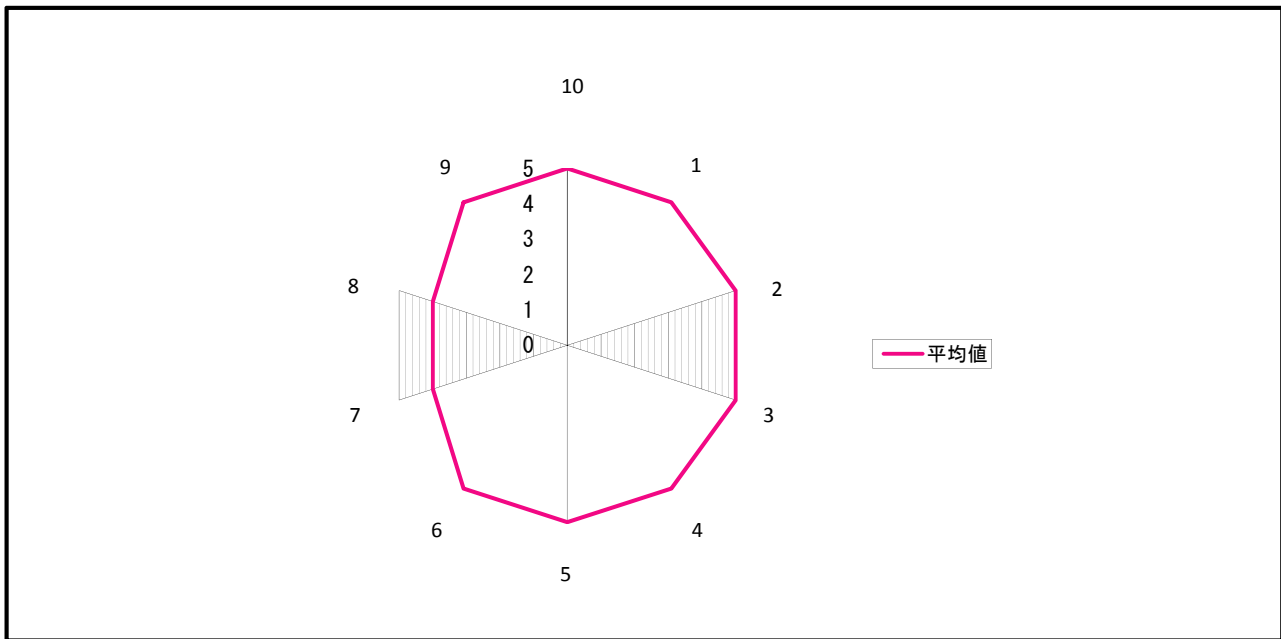
教員のコメント

この授業は隔年で音楽科コースの森正准教授と私とで開講しているが、毎年意欲のある受講生に恵まれている。本授業では基本的にピアノの弾き歌いを課しているが、各自の技倆や課題に沿った曲を受講生自身に選ばせ、毎回公開レッスン方式を取っている。全体的な評価の高さは授業者としてもほぼ納得の行くものである。

結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏法
 評価実施日 平成27年7月23日
 担当教員名 森 正 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1		1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



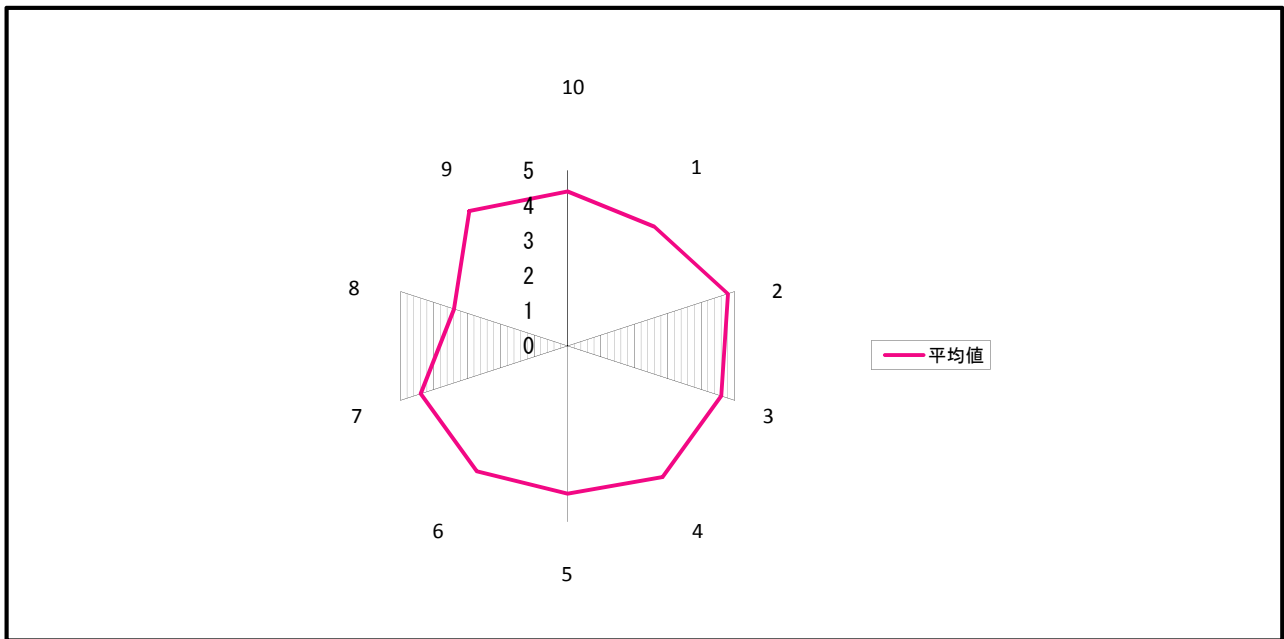
教員のコメント

受講した学生は、いずれも課題研究における修了演奏との関係でこの授業を受講した学生たちで、ふたりとも自分の研究テーマに対し解説を含め非常に熱心に取り組み、確実に準備を進めることが出来たことが、授業に対する高い評価につながったと考えられる。特に研究に対する主体的な取り組みは学部生には感じられないもので、大学院の最終学年でこのような研究姿勢を身につけたことは評価出来る。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器総合演習
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 山根 秀憲 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3		2			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4		1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1		1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	1		1	3.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1			1	4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1	1			4.4



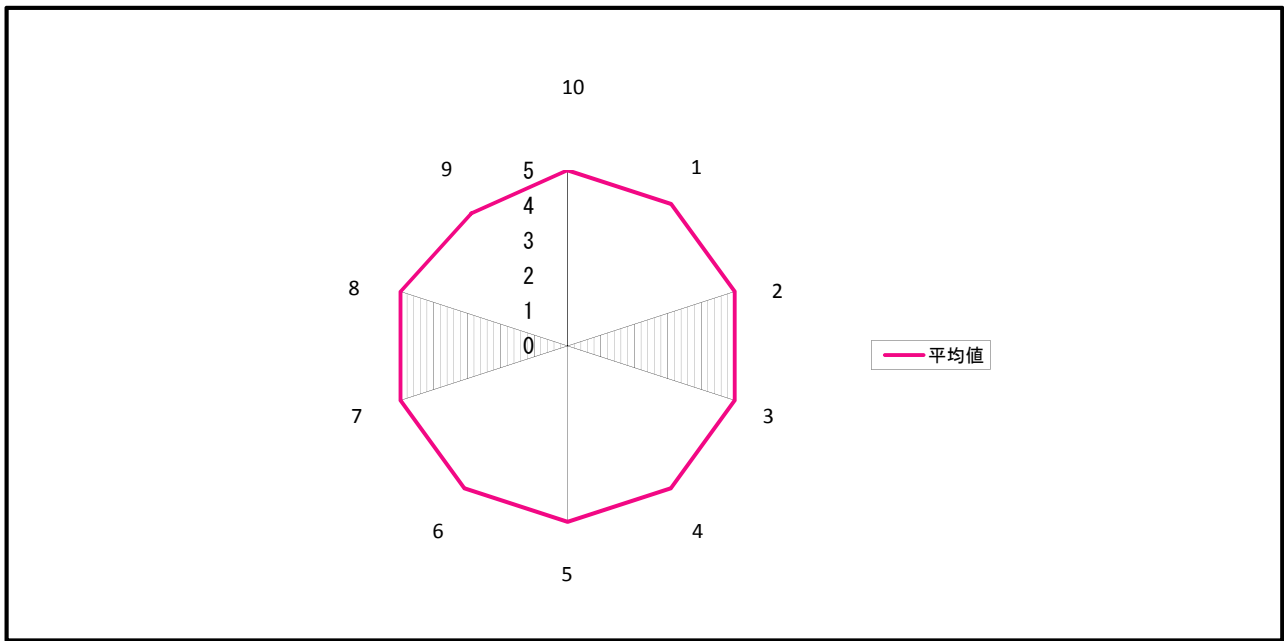
教員のコメント

この授業では、選択した楽器の演奏についての学習だけでなく、ピアノによる伴奏にも重点をおいている。音楽コースの学生の場合、ある程度ピアノ演奏に慣れているため、大きな問題はない。しかし、これまで、ピアノ学習の経験のない受講者の場合は、大きな負担となる。この場合、ピアノ伴奏を免除している。本来、管楽器の授業であっても、ピアノを伴った作品による学習が一般的であるため、受講者には、ピアノ伴奏の準備も十分に行ってもらいたい。楽器それぞれに固有のことは、多様な書物が出ているので、自ら積極的に調べて頂きたい。このことについて、授業で折に触れて説明しているが、受講者の行動の変革には繋がっていない。今後も理解してもらえよう説明の工夫が必要であろう。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器演奏基礎
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 山根 秀憲 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



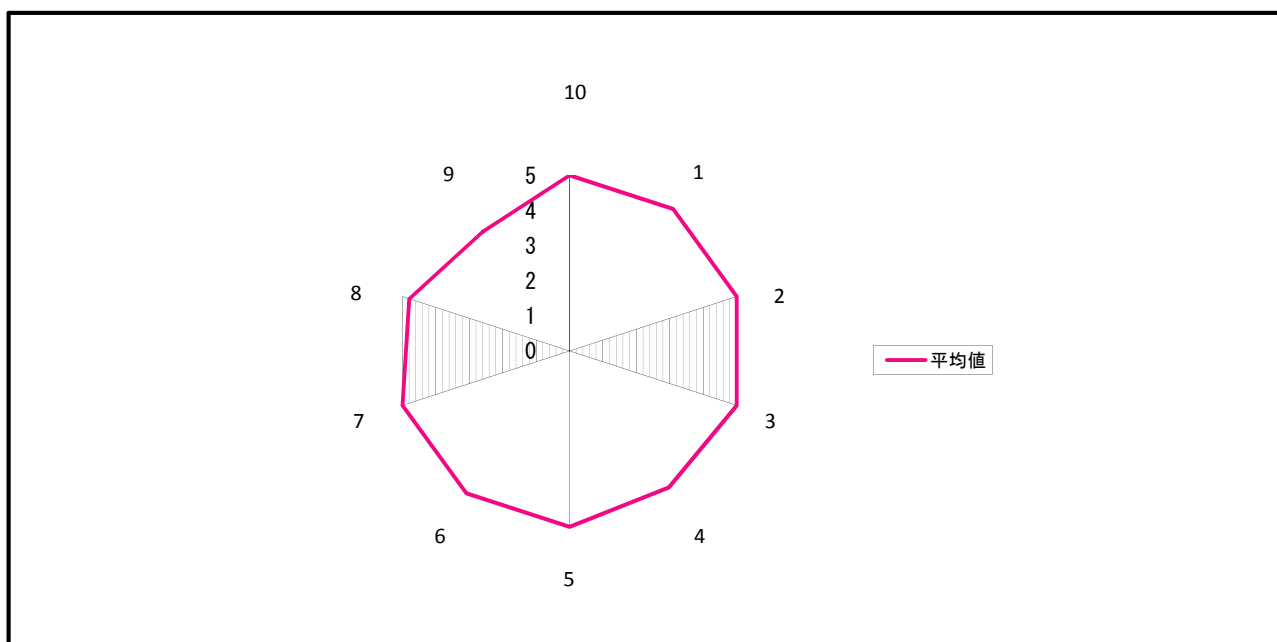
教員のコメント

今回の受講者の全てが、選択した楽器の初心者であった。そのため、それぞれの楽器の構造、発音原理の理解に時間をかけた。管楽器の学習経験がないことから、金管楽器のマウスピース、フルートの頭部管のみで発音することに困難さを感じていた。授業以外の個人練習の重要性を折に触れて話したが、アンケート項目の「あなたの授業への取り組みについて(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」が4.7であり、積極的に取り組めない受講者がいた。実技の定着には、日常の計画的な学習が欠かせない。次の授業では、毎日の練習計画の重要性について、これまで以上に伝えていきたい。

結果報告書

授業科目名 指揮法基礎演習
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 山田 啓明 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



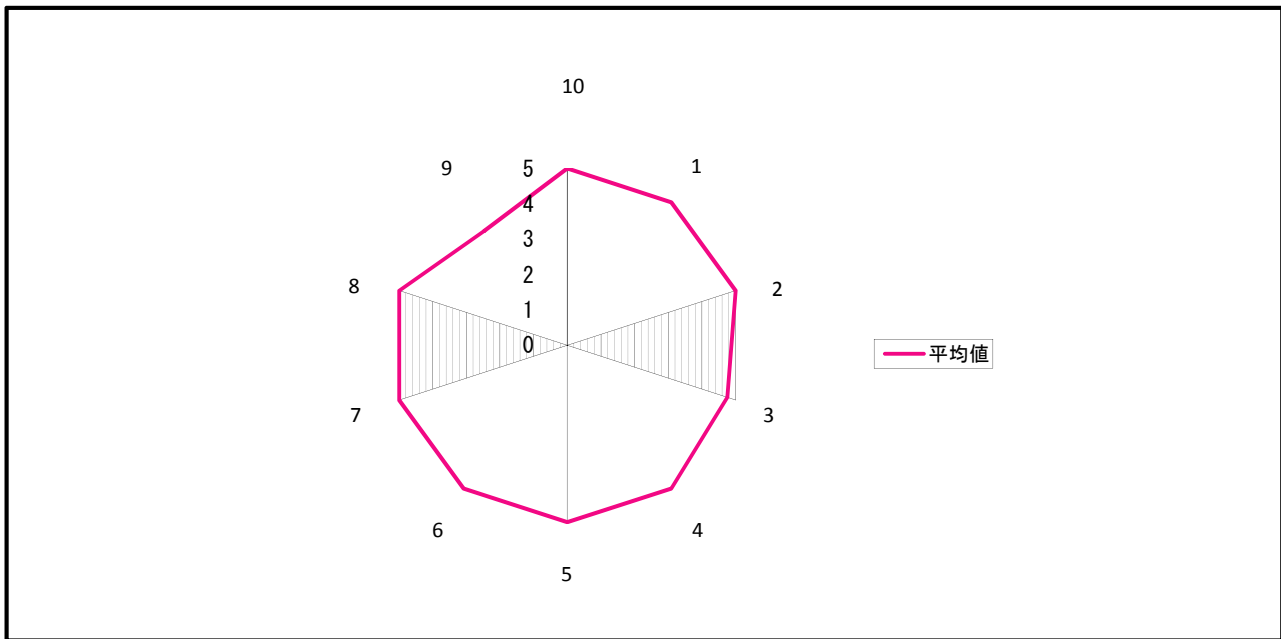
教員のコメント

『指揮法』関連の授業は学部も大学院も常に評価が高い。ピアノなどどちがって技倆の違いがあまり出ないせいだと考えている。

結果報告書

授業科目名 楽曲分析研究
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 松岡 貴史 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1		1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



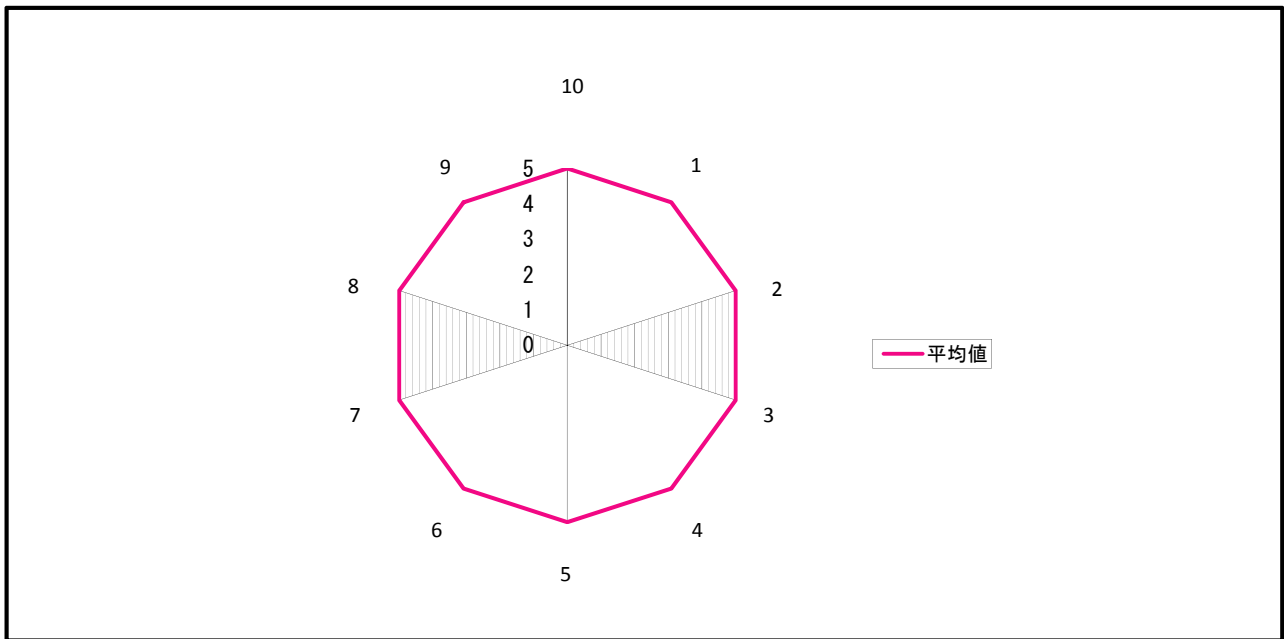
教員のコメント

授業では、楽曲分析の方法を提示し、学校教材を含め、受講生が希望するさまざまな様式の楽曲について実際に分析と楽曲解釈を行い、演奏表現にそれをどう生かすか、演奏を交えながら検討を行った。受講者は終始積極的に取り組み、このような授業内容が求められていることがひしと感じられた。実際、毎回の授業において学ぶ意欲と内容の深まりが強く感じられ、その結果、総合評価5.0となり、満足度の高い授業であったといえよう。

結果報告書

授業科目名 音楽教育史研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 長島 真人 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



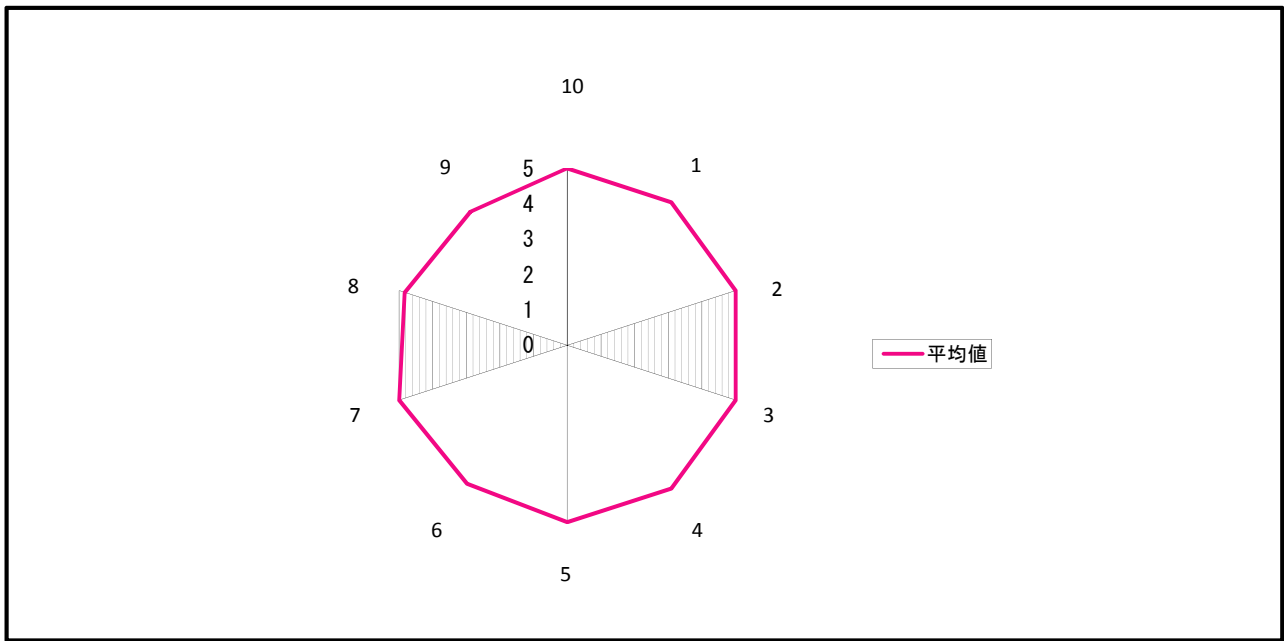
教員のコメント

今年度は、中国からの留学生を含む2名の受講者という、少人数の授業になった。そこで、少人数であることを活かして、対話的な授業が展開できるように努力した。具体的には、音楽教育の歴史的な事実や史料を共に吟味しながら、これらが象徴している今日的な意味について、語り合うことができた。特に、音楽授業における指導上の問題を基礎に置きながら、歴史が語る意味を共有することができた。留学生がいるので、日本語の解説には注意を払ったが、院生たちは、熱心に授業に参加し、自分の考えを創造していくことが出来たように思う。受講者が増えても、今回のような語り合いが出来るような授業の展開を継続していきたい。

結果報告書

授業科目名 音楽科教育研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 長島 真人 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



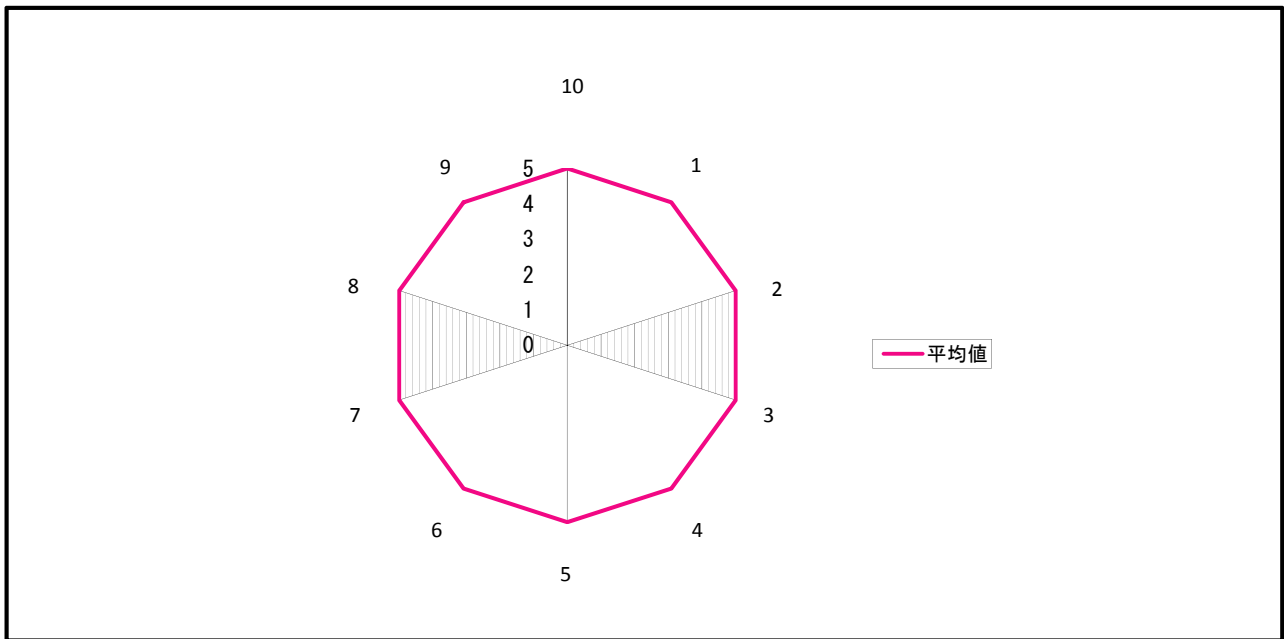
教員のコメント

特に、酷評はなく、今年度も、授業を有効に展開することができた。多様な専門コースから受講者が集まったが、音楽の美しさの本質と音楽科教育の本質について、語り合うことができた。授業者自身の理論を説明する場面は最小限に留め、資料を通して考え、語り合い、共有していく場面を可能な限り多く取るように心がけた。その成果が、ここに現れていると思える。今後も、具体的な資料から語り合い、対話的な指導を通して、必要な概念や論理が院生の中に構築されていくように、指導方法を工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 音楽科授業演習
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 小山 英恵 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



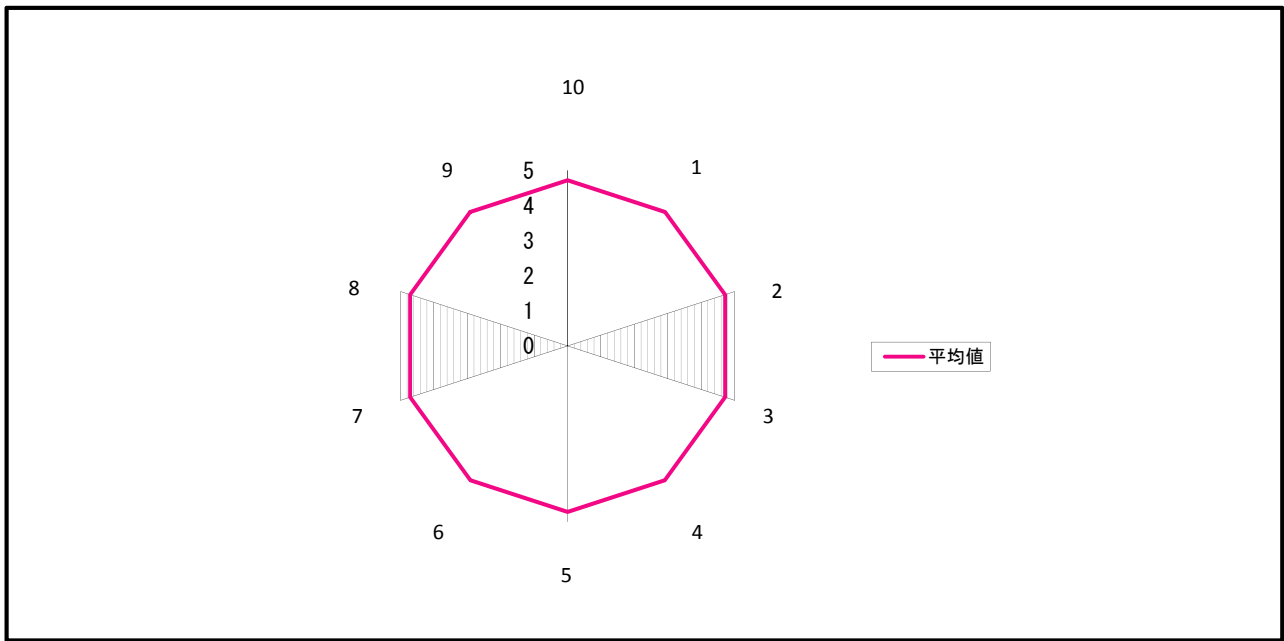
教員のコメント

今期は、例年よりも受講生が少人数であったこともあり、学生一人ひとりの授業づくりに関する問題意識から出発し、それぞれの課題を共有し、協同解決しながら模擬授業へ向けて取り組むかたちで演習を進めた。受講生たちの熱心な取り組みが授業内容の密度に反映したと感じている。受講生主体で課題を解決していく本演習において、教員の支援をどのように組み込むか、さらに追究することが今後の課題である。

結果報告書

授業科目名 絵画制作研究
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 鈴木 久人 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6		1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6		1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6		1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6		1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6		1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6		1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6		1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6		1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6		1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6		1			4.7



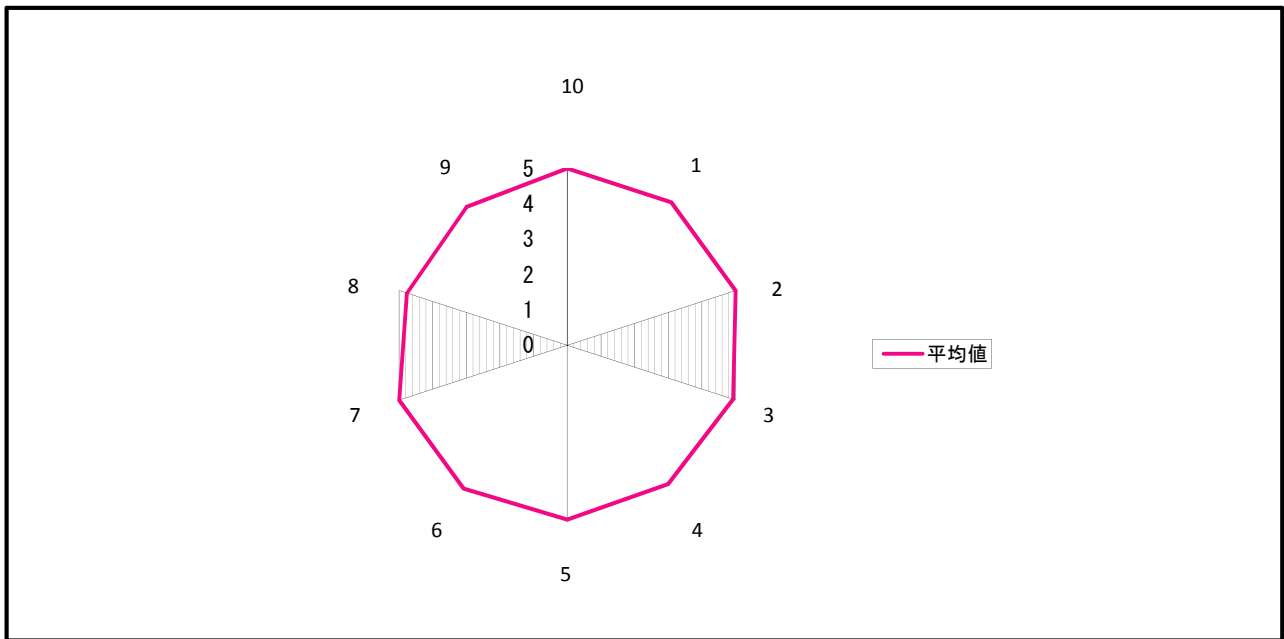
教員のコメント

概ね、質問事項(1)から(10)では本授業の内容が好意的に受け取られていると考える。だが、一人の学生が自分の取り組み以外すべて3と評価している。これが気になる点ではある。内容、進め方についてさらに検討をくわえる予定である。
 自由筆記の質問でも好意的記述が目立ち、現代美術作品を取り上げている内容が高評価を得た。だが教育現場での展開についての記載がない事が気にかかる。教育現場でどのように生かせるのかもより具体的に取り上げてきたつもりであるが、改善の余地があるようである。

結果報告書

授業科目名 陶芸制作演習
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 栗原 慶 回答者数 13 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	2					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	1	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12		1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13						5.0



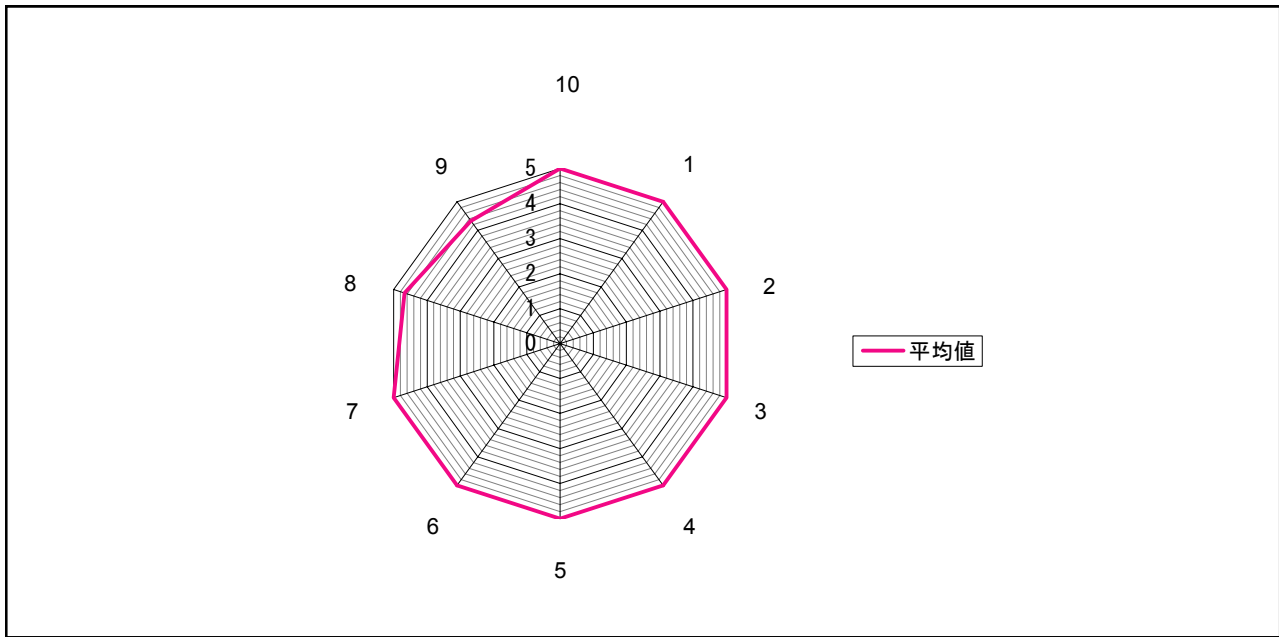
教員のコメント

実技中心の演習授業であったので、できるだけ受講生個人の進捗状況に合わせて指導を行った。ガイダンス時に、作品の乾燥状態や窯のスケジュールに合わせて授業時間外の制作も行うように指示していたが、多くの受講生が積極的に取り組んでくれた。自身の気づきと反省は、多くの学生に受講してもらう事は大変有り難い反面、対応がどうしても出来ない場合があったこと、人数に応じた設備配置を検討しておくべきだということである。特に作業上、皆が効率よく動ける動線の確保は課題である。視聴覚機材は適当な時間を見計らって使用したので、より具体的に伝わった部分も多かったと思う。素材や制作過程に魅力がある分野だと認識しているので、今後も反省すべき点を改善し、より内容に磨きをかけたい。

結果報告書

授業科目名 美術科授業研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 山木 朝彦 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0

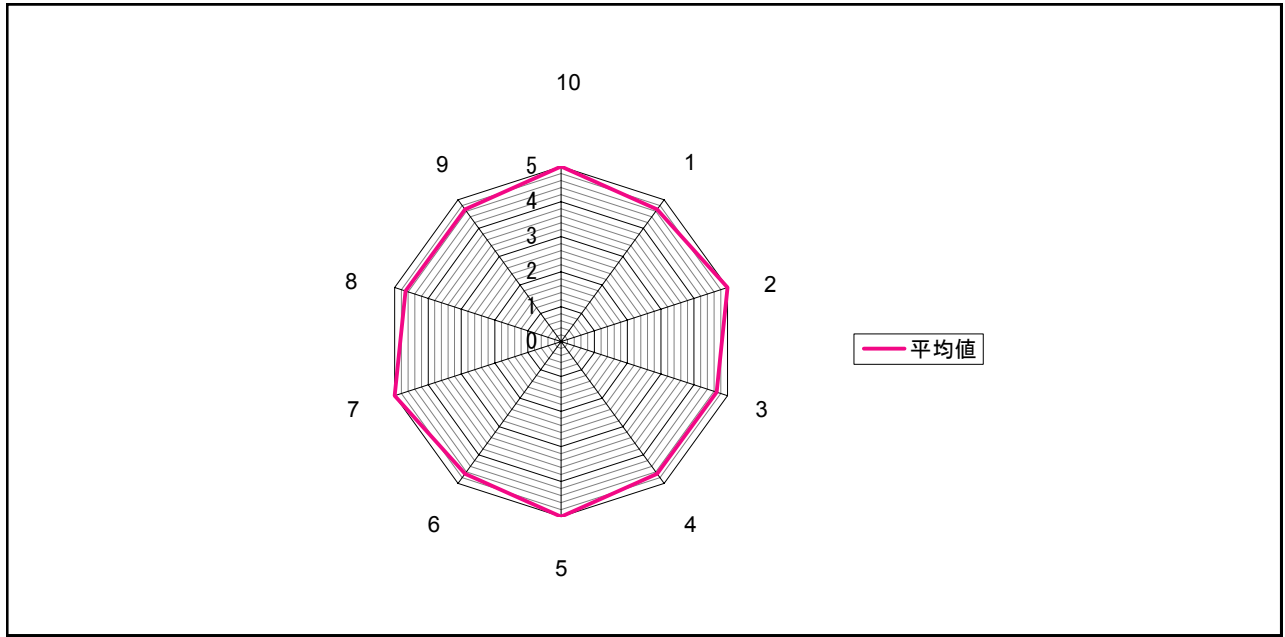


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 芸術学研究
 評価実施日 平成27年8月4日
 担当教員名 小川 勝 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0

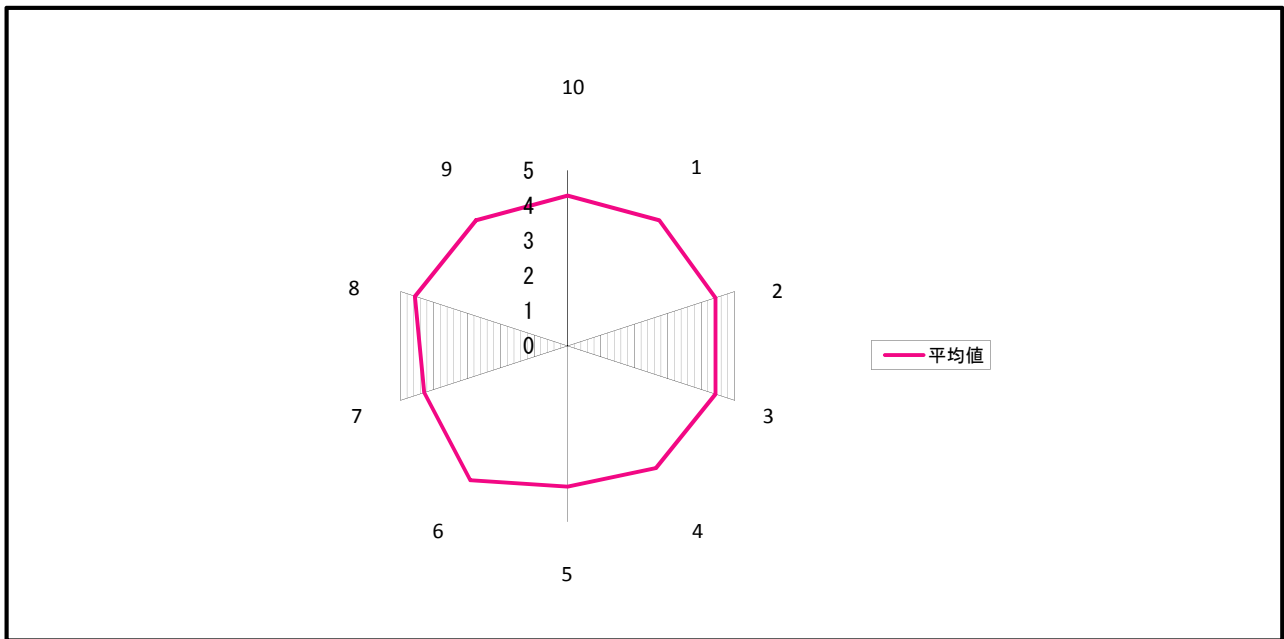


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 美術科教材開発研究
 評価実施日 平成27年7月23日
 担当教員名 山田 芳明 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5		2			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	2			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3	2			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	3				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	3	1			4.3



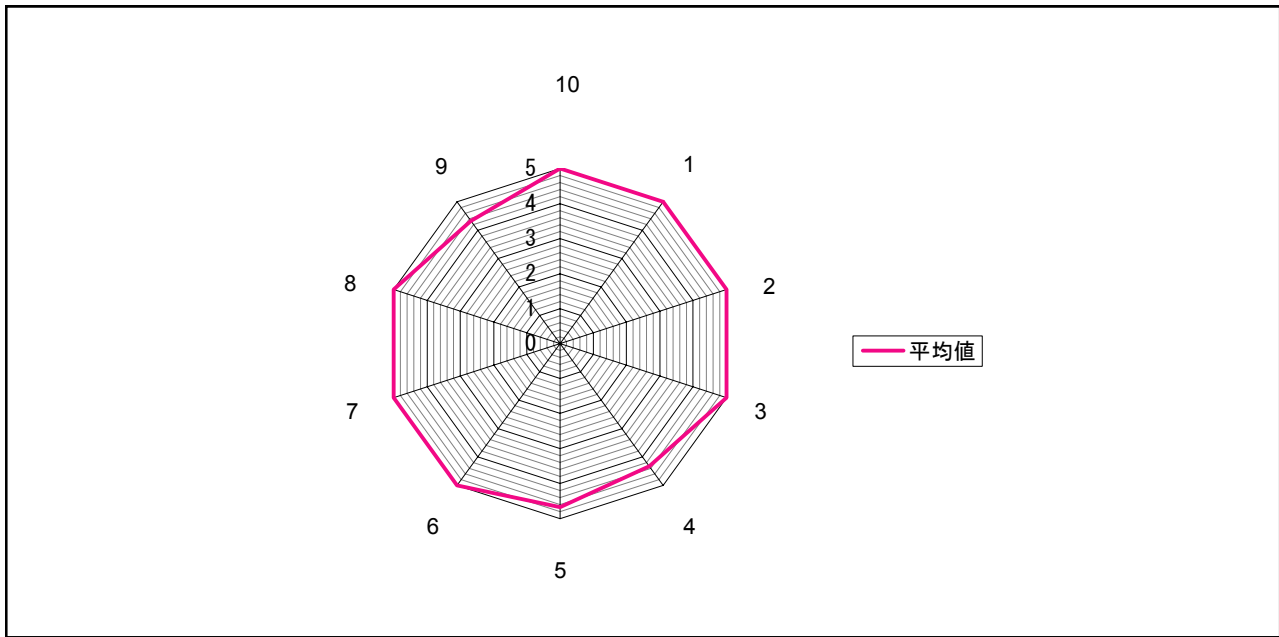
教員のコメント

本授業の受講学生は8名であり、そのうち7名がアンケートに回答している。受講生が10名に満たないため、統計的な分析はさけ、全体の傾向をとらえると次のようなことが分かる。
 学生からの総合評価は、平均で4.3ポイントであることから、おおむね満足する内容であったと考えられる。
 また、「授業内容」「教員の授業の進め方」「自身の授業への取り組み」のいずれの項目にも2、あまりそう思わない、1そうおもわない、の回答はなく、総じて、好評であったといえる。
 ただ、昨年度と比して、全体の評価は下がっており、学生の授業記述にあった、授業の前半と後半の構成の見直しを求める意見や、学生相互で協議する時間をしっかりとるように求める意見等を踏まえて、授業の改善を図る必要性を感じる。

結果報告書

授業科目名 美術科教育研究法演習
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 山木 朝彦 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0

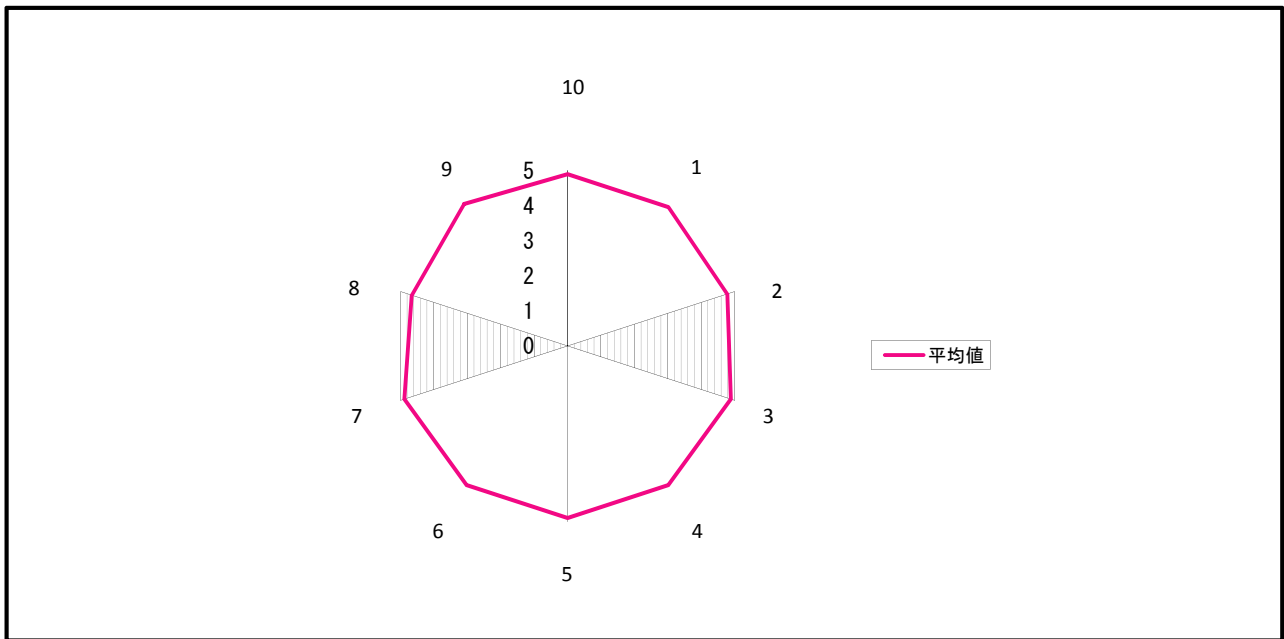


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 スポーツ社会学研究
 評価実施日 平成27年7月31日
 担当教員名 木原 資裕 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



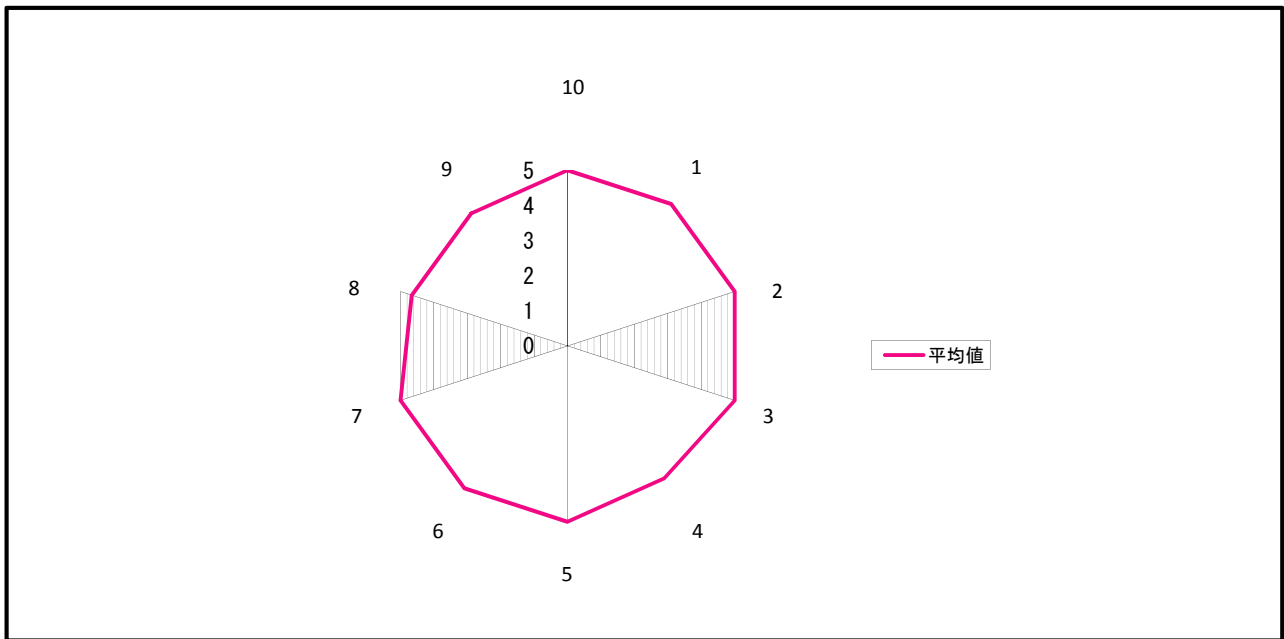
教員のコメント

受講生は11名であったが、2名が教員採用試験のため、この評価アンケート調査を受けていない。また、11名中4名が木原のゼミ生であったため、そのメンバーの影響を受けたためか、授業の雰囲気明るく、積極的な意見等が多くみられた。
 10項目の内、評価4.7が1項目、評価4.8が1項目、評価4.9が7項目、評価5.0が1項目となっている。平均評価4.88で高い評価結果となっており、特に「10.この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」は4.9であり、これからも継続させていきたいようである。
 一方、本学に赴任してはや22年になり、この授業も22年間にわたり、実施していることになる。マンネリ化せずに、新聞記事等の常に新しい内容を加えた授業展開をこころがけていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 学校体育経営研究
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 藤田 雅文 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



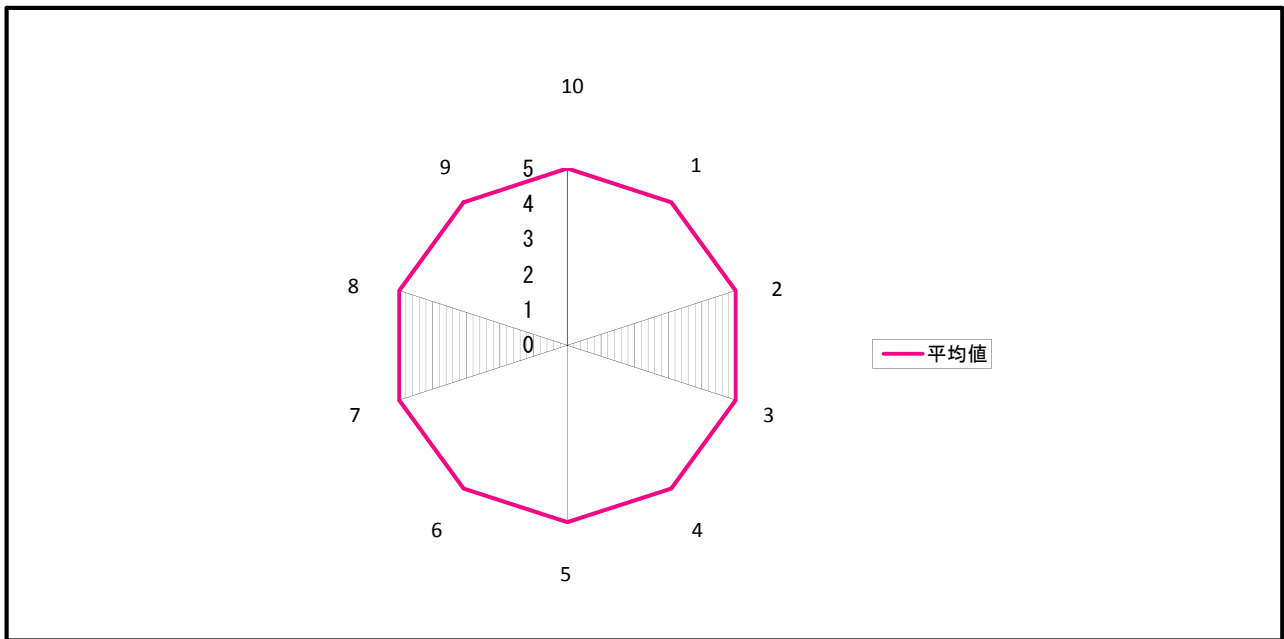
教員のコメント

10項目の平均評価点は4.9であり、極めて高い評価を得たと考えている。
 来年度以降も同様の内容と方法で授業を進めていきたいと考えている。なお、良かった点について2名から以下の回答があった。
 1. 非常に興味のある分野だったので、勉強になった。少人数の授業だったので楽しく学習できた。
 2. 先生の話の内容が分かりやすかったし、資料も適して理解が深まった。保健体育科教員や運動部の顧問になった時にこの授業で学んだことを生かそうと思う。

結果報告書

授業科目名 体育・スポーツ心理学演習
 評価実施日 平成27年9月17日
 担当教員名 村上 妃斗美 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



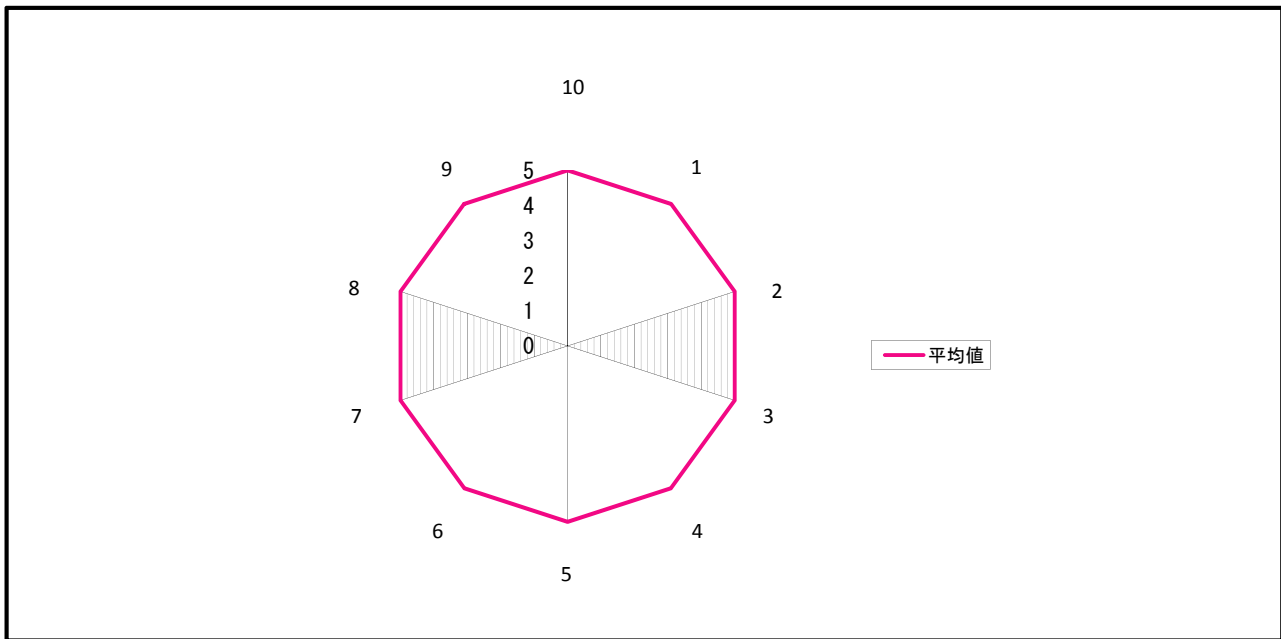
教員のコメント

体育・スポーツ心理学について基礎から研究、現場に繋がるような内容まで幅広く指導することができた。学生のこの授業に対する意欲が高く、質問などに随時対応しながら授業を進めることができた。また、履修者が3名と少なかったため、1人1人に対して指導できた点は良かったのではないかと考えられる。

結果報告書

授業科目名 運動学研究
 評価実施日 平成27年7月24日
 担当教員名 乾 信之 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



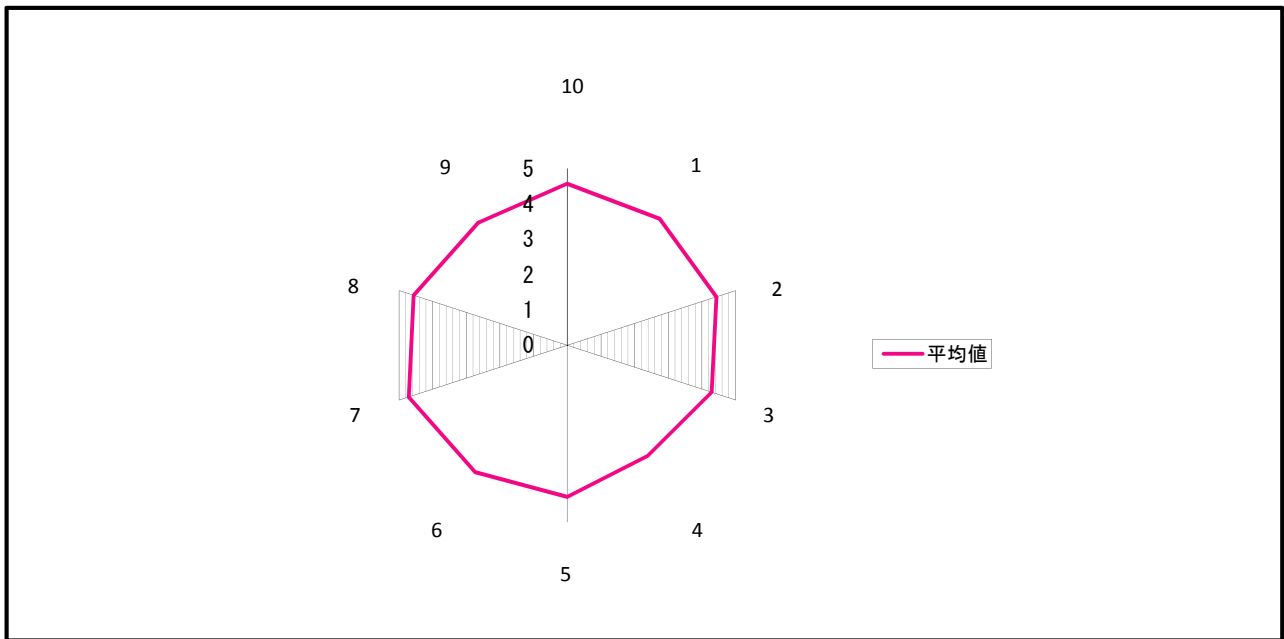
教員のコメント

受講生いずれも学部の基礎的な知識を持ち合わせていないので、前半は教科書的な講義を行い、後半は少し最近の研究されている内容である身体イメージやジョイント・アクションの研究を紹介した。いずれも好評であり、上記のような結果になった。

結果報告書

授業科目名 健康科学研究
 評価実施日 平成27年7月17日
 担当教員名 廣瀬 政雄 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	4				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	4				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		4			3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	3				4.6



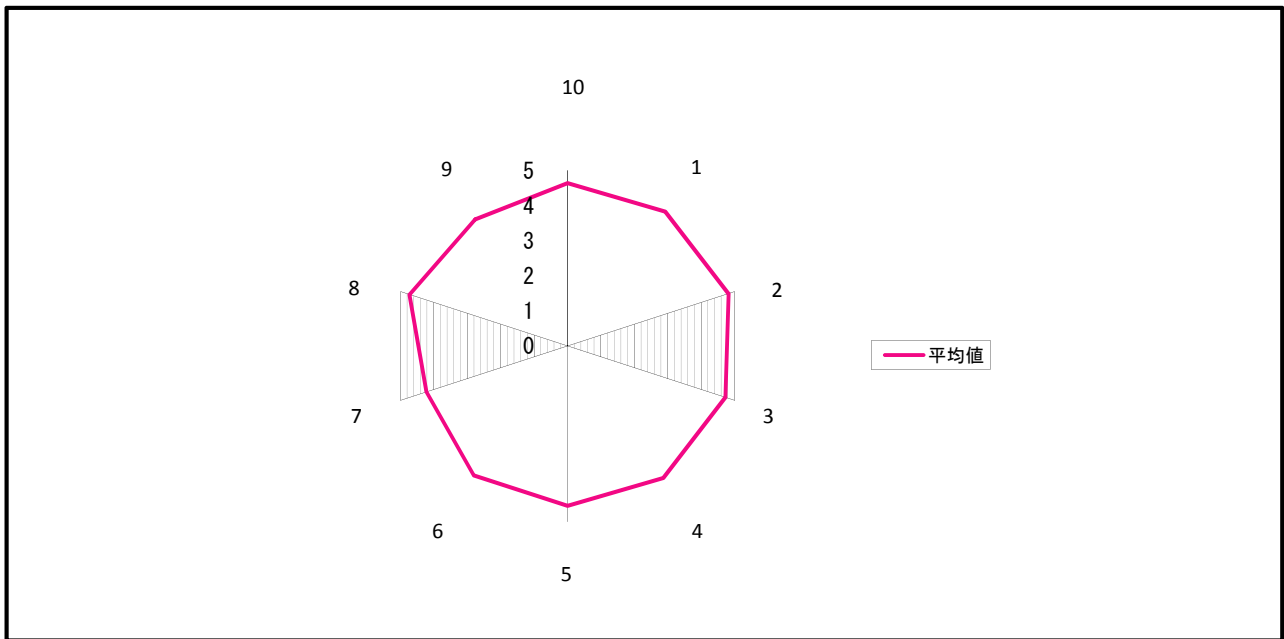
教員のコメント

受講者本人、家族、友人および学校教員として有用な健康に関する知識と考え方を高めてもらうという目的をもって授業している。保健体育コースの学生が最も多いが、その他のコース(特別支援コースや教育臨床コース)の学生も参加している。それぞれの目的に合うように授業に参加し、役立ててもらえるように、授業の最初に授業内容について希望を聞くようにしている。今年の参加学生はまじめでおとなしい印象であった。授業には積極的に参加し、発言した。授業評価の中で、成績評価の項目が二つに分かれ、成績評価の基準が明確でなかったと答えた学生が半数ほどを占めた。総合的に判断したつもりであったが、試験の成績で判断されるのに慣れた学生には基準が明確でないと感じた学生もいたのかもしれない。学生の希望を取り入れた成績評価を考えていきたい。

結果報告書

授業科目名 運動生理学研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 田中 弘之 回答者数 11 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	3	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	3	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1		2	2	4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2	1			4.6



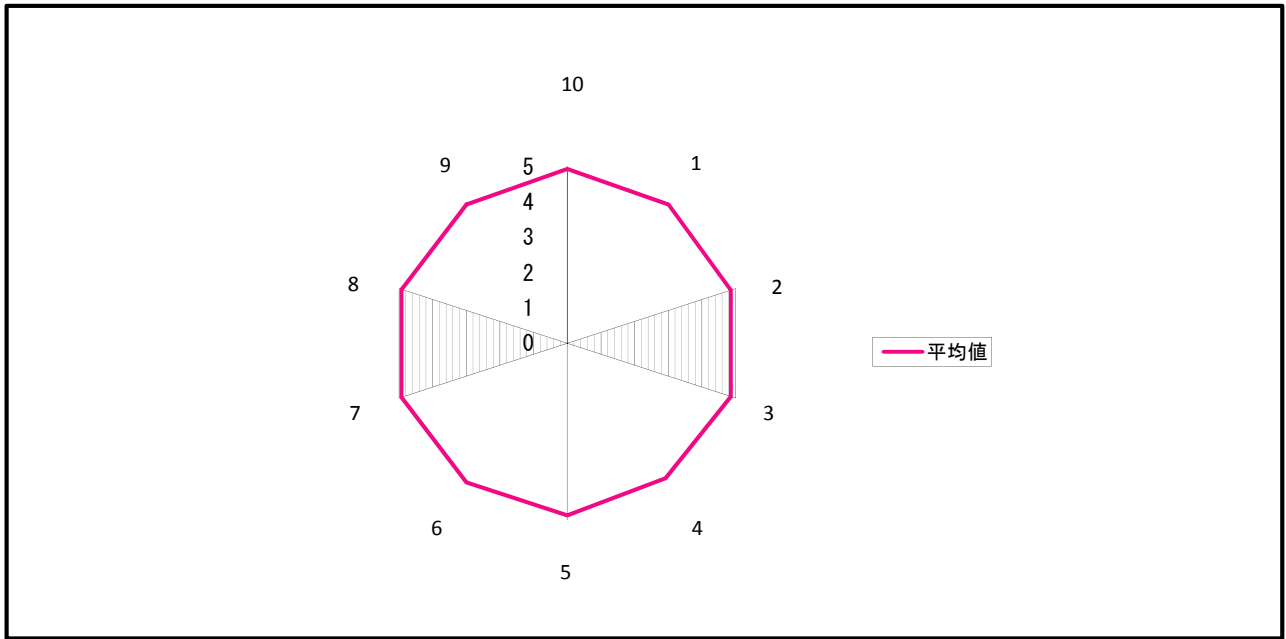
教員のコメント

評価の平均値は4.6であり、総合評価においても4.6と判断されていることから、当初の講義目的は概ね達成されたと考えられる。
 『授業に主体的・積極的に取り組んだ。』については、例年、評価が分かれているが、「3」評価者の自由記述欄には、『保健体育を専門分野とする教師になるには、運動についてや、体の構造や仕組みについては知っておかなければならないと考えているから。』とのコメントが記されており、「3」評価と、この記載内容との整合性については、よく咀嚼しておきたいと考えている。
 また、その他の自由記述欄の概観では、『受講生に答えさせることでわからないながらも考えることができ、緊張感を持って受講できる。』『学校現場に出たときに本当に必要な知識を見につけることができた。』『専門的知識をつけることができた。』等、概ね好評であった。
 改善するべき点としては、『速かったです。』『配布資料が欲しい。』等の記載があった。講義の進捗については、例年、指摘を受け続けている事項であるが、今年度は、『授業の進むスピードが思ったよりも遅くて、わかりやすく講義してくださり、ありがとうございました。』との記述もあり、講義進捗については、毎年を受講生の反応を確かめながら、今後も効率的な授業展開に一層の創意工夫を重ねたい。

結果報告書

授業科目名 保健体育科教育学研究
 評価実施日 平成27年7月14日
 担当教員名 梅野 圭史 回答者数 14 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	2					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	2					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	2					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	4					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12	2					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	2					4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13		1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	1					4.9



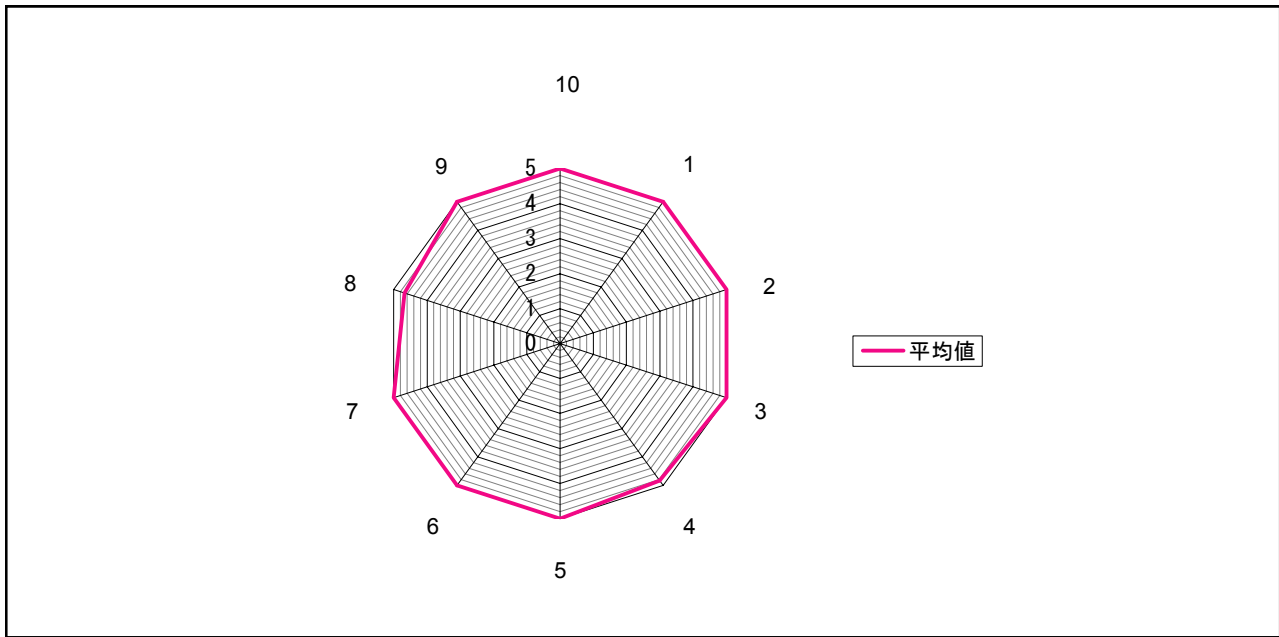
教員のコメント

受講した学生さんたちの意欲に触発され、授業に力が入ったという感じだった。大学院の授業でペーパー試験はなじまないと考えているので、次年度からは多岐にわたる学習活動を用意し、成績評価に生かしていきたい。

結果報告書

授業科目名 体育教授学研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 綿引 勝美, 湯口 雅史 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5		1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0

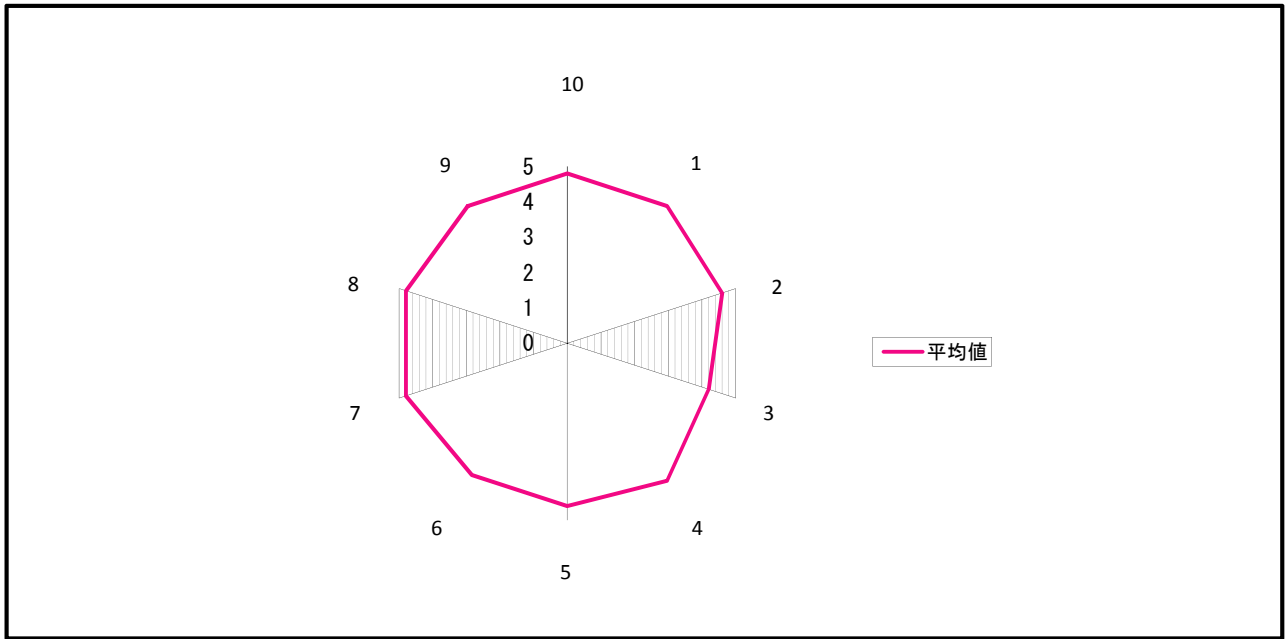


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 情報処理研究
 評価実施日 平成27年7月21日
 担当教員名 菊地 章 回答者数 5 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		2				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4		1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1					4.8



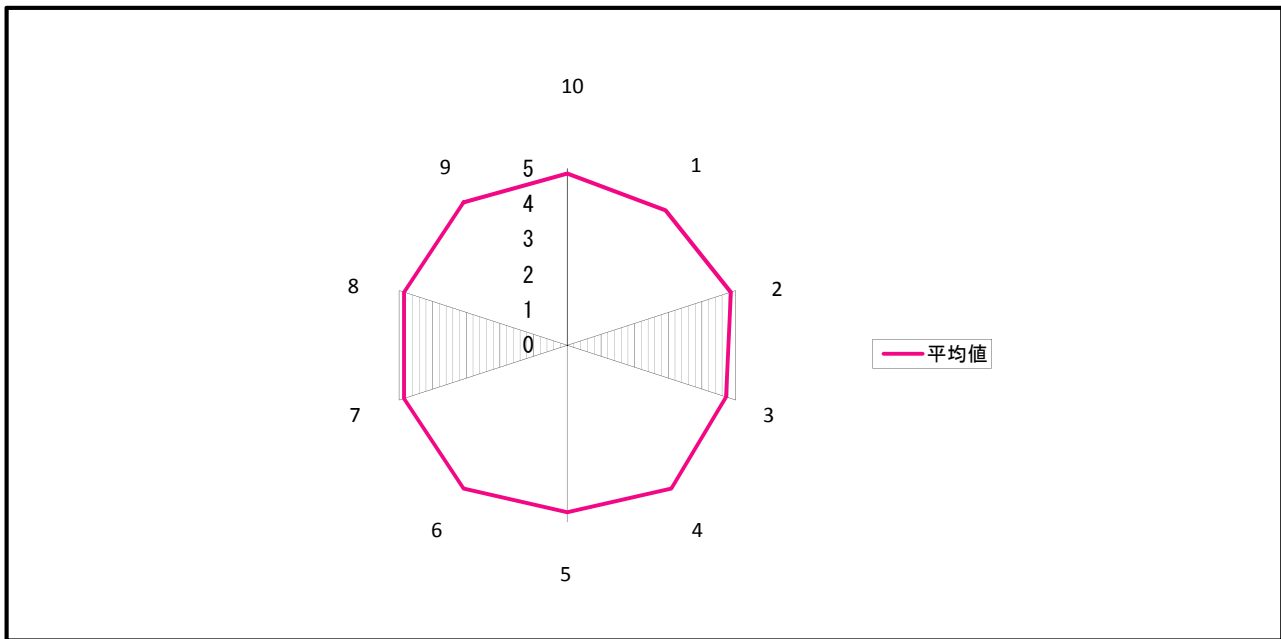
教員のコメント

受講者が少なく、受講者の要望に合わせて授業を進めたため、おおむね反応が良かったと思われる。特に、過去の計算機の変遷を世界の博物館調査を踏まえて外国旅行経験も含めて説明したために、皆様非常に興味を抱いたようです。後半は少し専門的な内容になったため、進行スピードが一部の受講生には少し速かったかもしれない。概ね良い評価を得たと思える。

結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 宮本 賢治 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



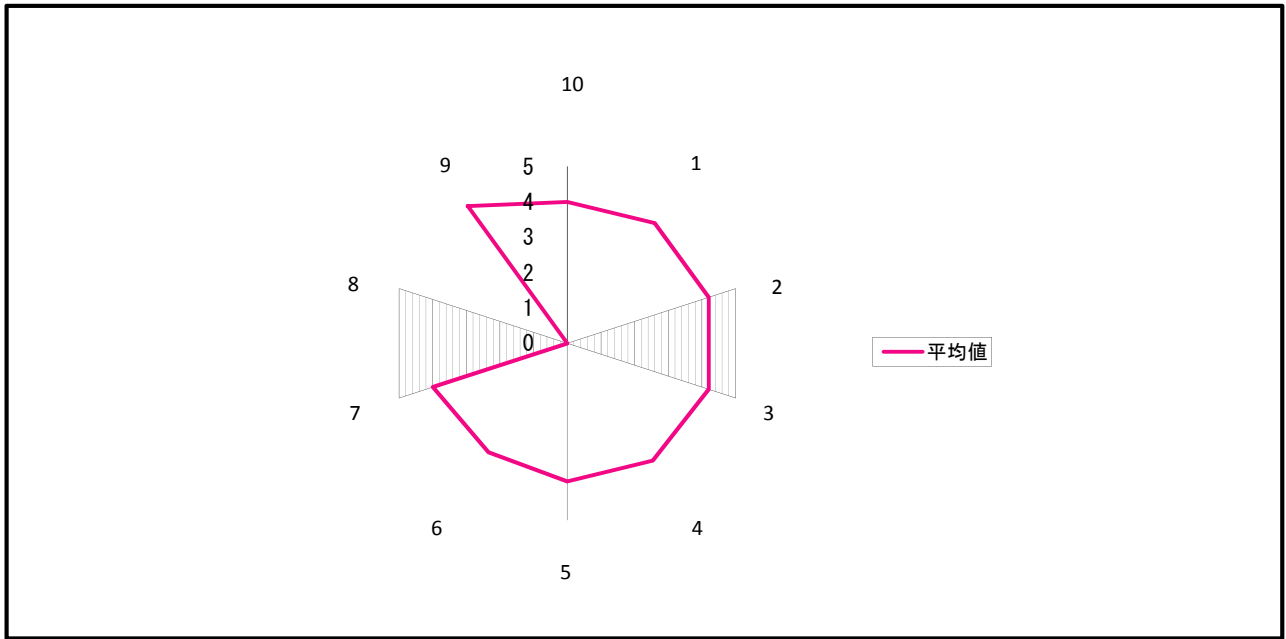
教員のコメント

すべての項目で4.7以上という高評価が得られて満足できる結果となった。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

結果報告書

授業科目名 材料及び加工学研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 米延 仁志 回答者数 10 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7		1	2			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7		1	2			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1		1	1		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1			2		4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7			1	2		3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7				3		3.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7			2	1		4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。							
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7			2	1		4.0



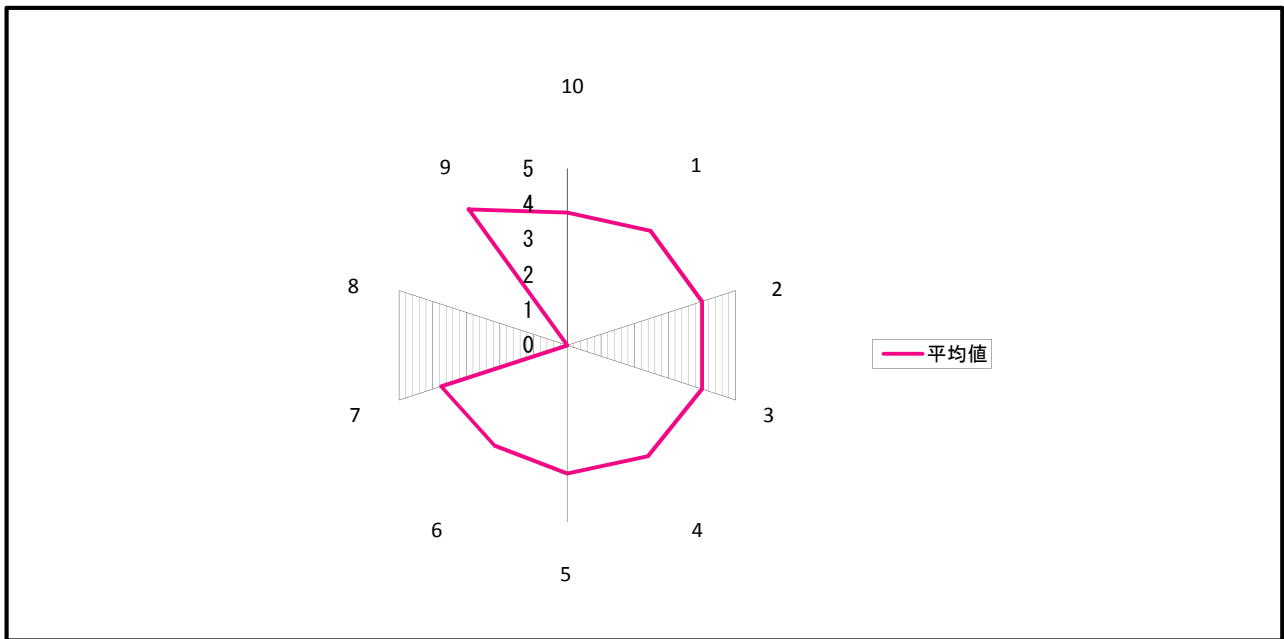
教員のコメント

70%以上の受講者から非常に高い評価を受けた。一方で30%の受講者から極めて低い評価を受けた。それぞれの受講生のスキルに応じて、異なった制作課題を課しているが、実習室の標準定員(6名)や装置の台数に制約があり、毎年、この点を苦慮している。来年度以降は課題の提示方法にも工夫したい。

結果報告書

授業科目名 材料及び加工学演習
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 米延 仁志 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5		1	2		4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5		1	2		4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1		1	1	4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1			2	3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5			1	2	3.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5				3	3.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5			2	1	3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5			2	1	3.8



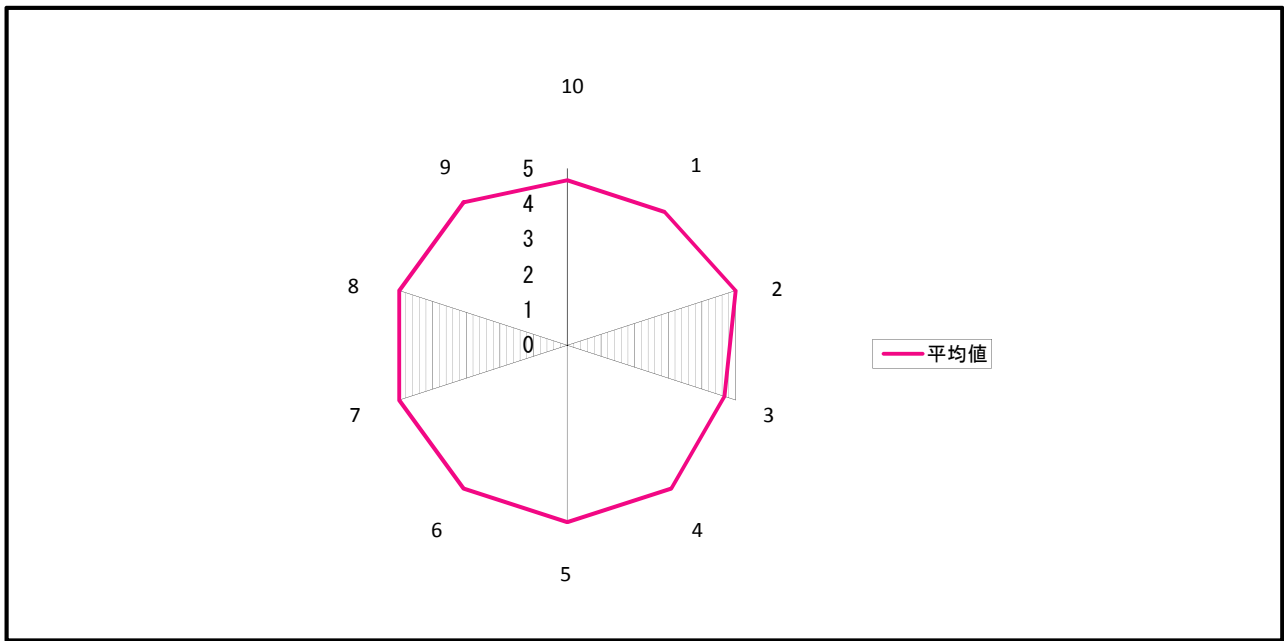
教員のコメント

6割以上の受講者から非常に高い評価を受けた。一方で極めて低い評価も受けた。それぞれの受講生のスキルに応じて、異なった制作課題を課しているが、実習室の標準定員(6名)や装置の台数に制約があり、毎年、この点を苦慮している。来年度以降は課題の提示方法にも工夫したい。

結果報告書

授業科目名 プログラミング演習
 評価実施日 平成27年9月13日
 担当教員名 林 秀彦 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



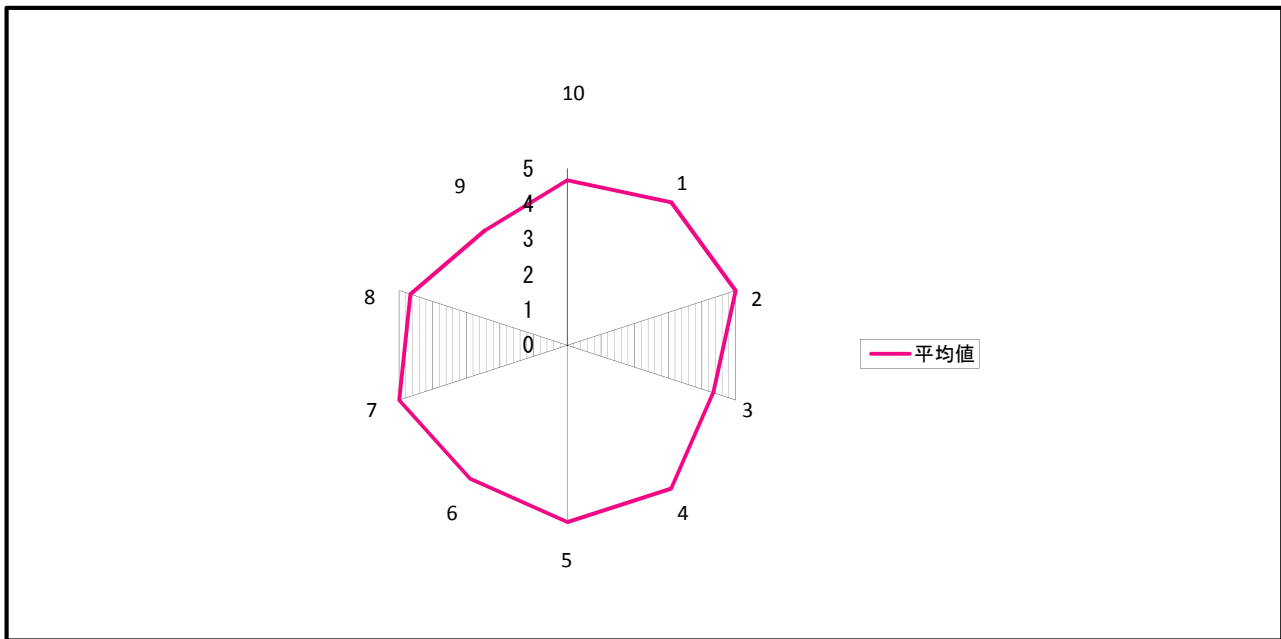
教員のコメント

本授業は、与えられた課題に取り組むうえで、問題解決能力に加えて問題発見能力の習得も必要となっている。授業方法はプログラミング入門レベルの文法を習うような指導型ではなく、課題に対して多面的な観点から学習をサポートできる学習支援型である。このような授業の特性については、初回の授業で説明しており、授業評価結果では、評価値が4と5が多く、全体的に高い傾向にあったことから、それらの点がおおむね理解されたうえで受講者は授業に取り組んでいたものと考えられる。自由記述欄には、「よかったと思われる点」については、「プログラミング言語の1つについて学習できたことと適切と思われる資料を御紹介くださったこと」といったコメントがあった。プログラミングに関する資料を参考しながら、学習の機会を有効に活用して、学習を進めたことが示唆される。授業では限られた時間であったので、今後も継続的に学習を積重ね、受講者各自のさらなる活躍に期待したい。

結果報告書

授業科目名 情報科学研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 伊藤 陽介 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



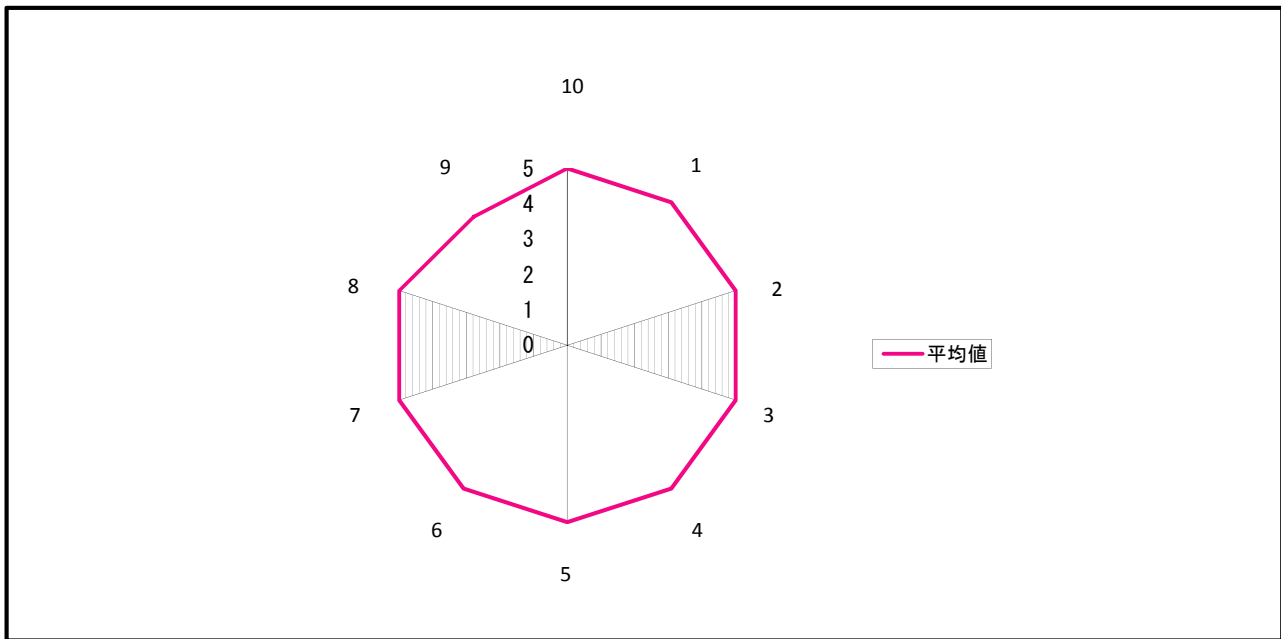
教員のコメント

授業内容に関する各評価、受講生からのコメント、総合評価などから、本授業はおおむね満足されていると考えられる。本年度より穴埋め式プレゼン資料配布方式に変更したところ好評であった。しかし、学校教育と専門的な内容との関連性についてより丁寧な説明をするなどの改善は必要である。

結果報告書

授業科目名 信号情報処理研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 菊地 章 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



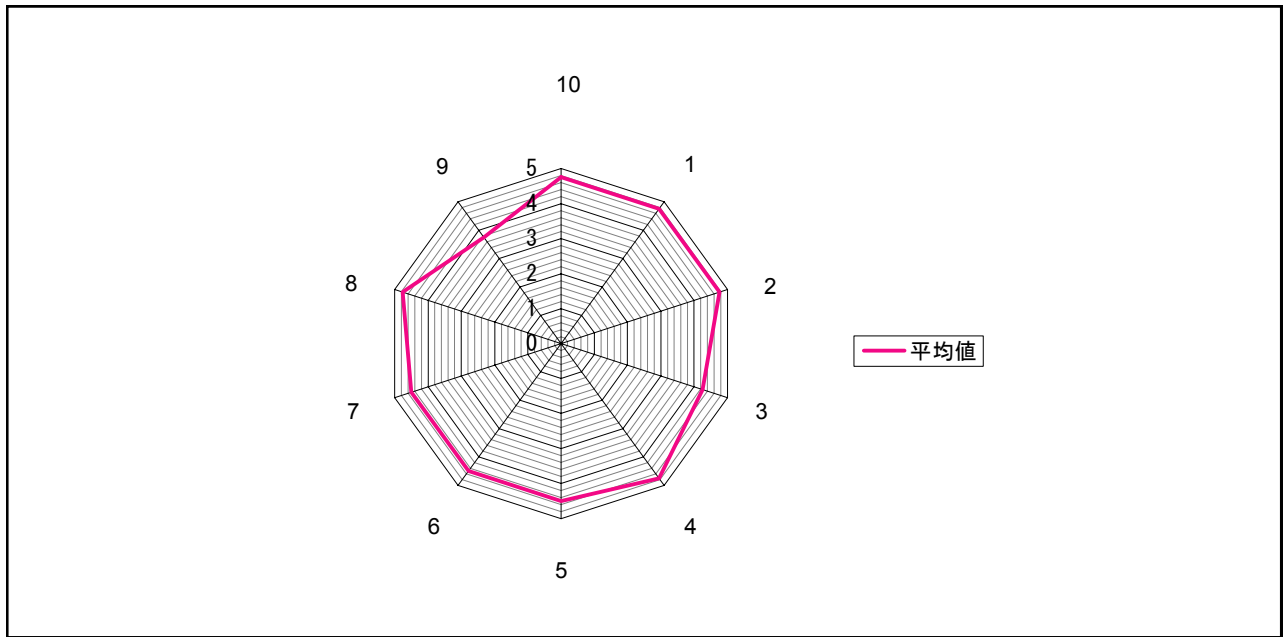
教員のコメント

今年度の受講者は2人と少なく、受講生の表情を見ながら授業を進めることができた。専門的な内容として数学的な内容も含まれるため受講生にとって少し高度であったかもしれないが、MATLAB環境を用いて男性の声を女性のように、また女性の声を男性のように声質を変化させる実習を行うことで、授業に対する関心が一挙に深まったようである。概ね満足できる授業結果と思われる。

結果報告書

授業科目名 計算力学研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 畑中 伸夫 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3	1			3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8

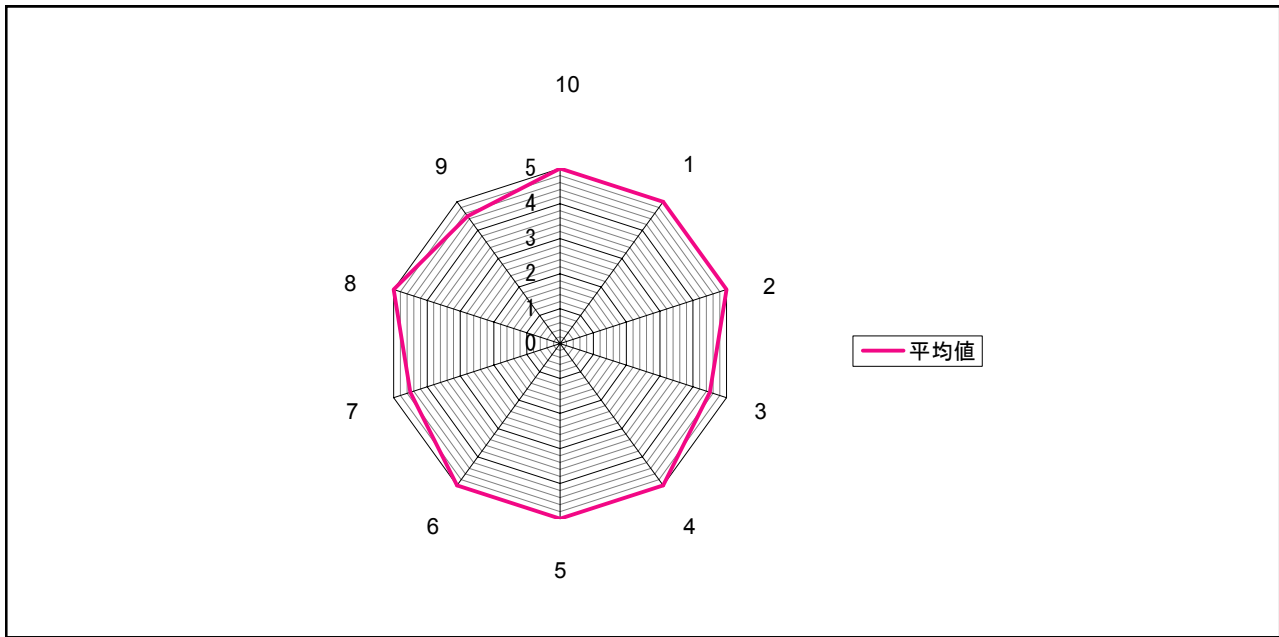


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 計算力学演習
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 畑中 伸夫 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0

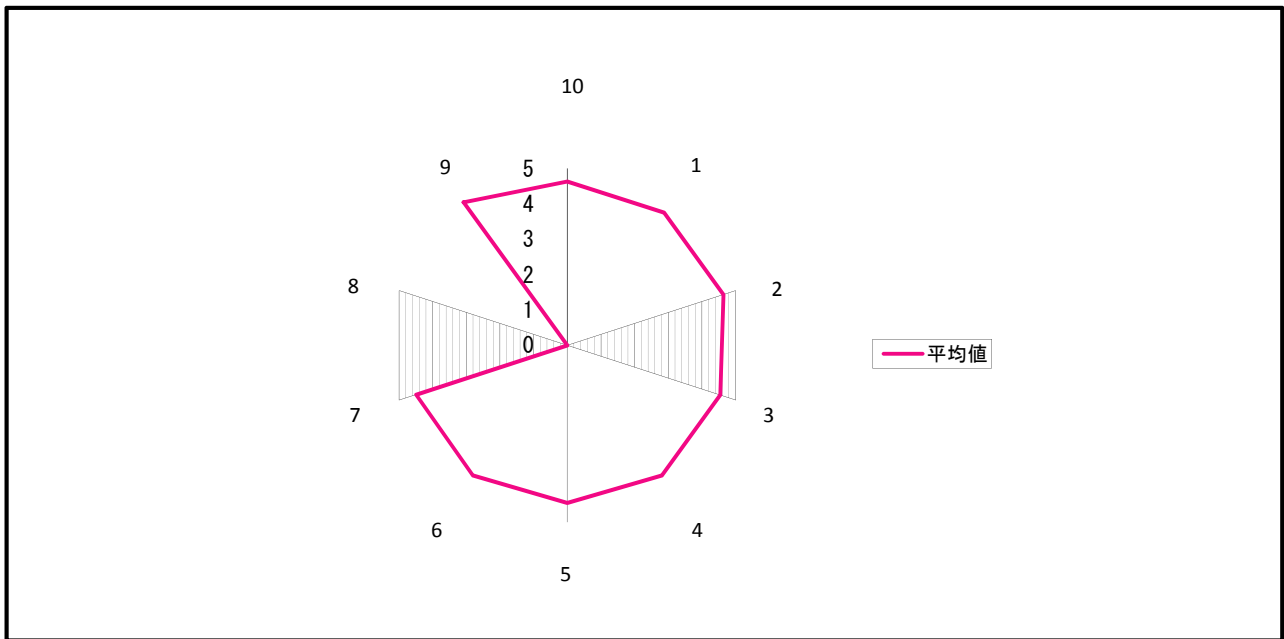


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 木質材料加工法演習
 評価実施日 平成27年7月24日
 担当教員名 米延 仁志, 尾崎 士郎 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1		1		4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1		1		4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	1			1	4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1			1	4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2			1	4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1			1	4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1			1	4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10				1	4.6



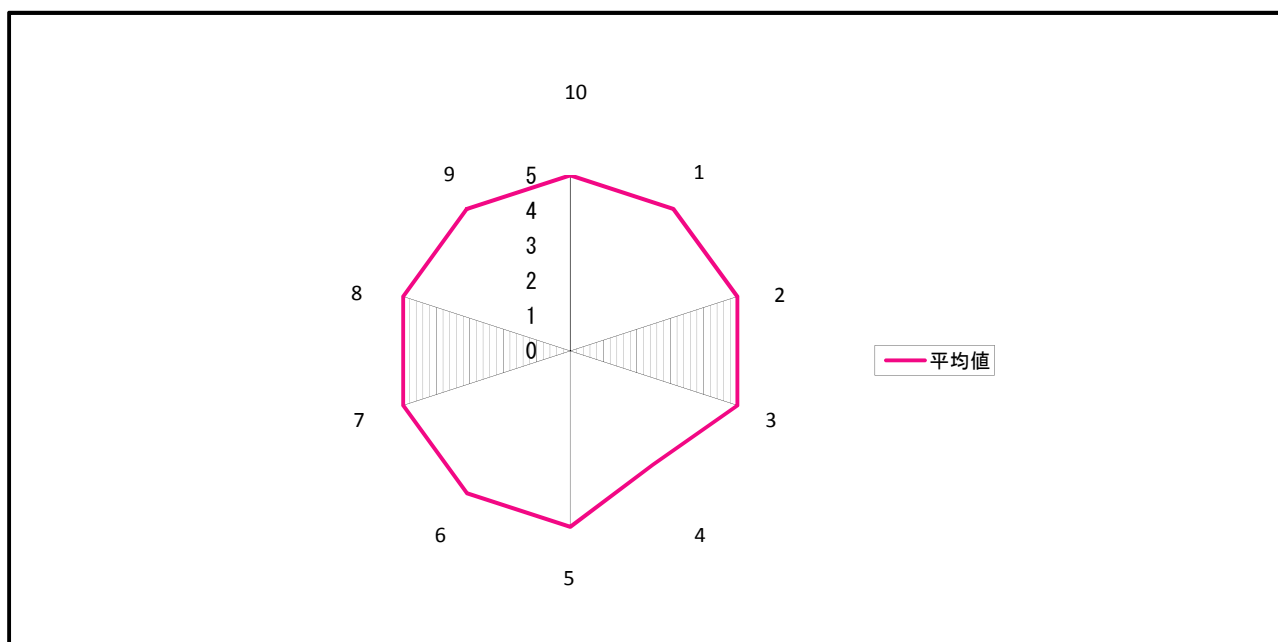
教員のコメント

概ね高い評価を受けた。実習室の定員、装置の台数等で効果的な演習を行なうことに毎年苦慮している。来年度以降は、題材の選定を工夫したり、作業の繰返しを増やして、受講生のスキルの向上を細かく評価できるようにしたい。

結果報告書

授業科目名 情報科教育研究 I
 評価実施日 平成27年9月17日
 担当教員名 森山 潤 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



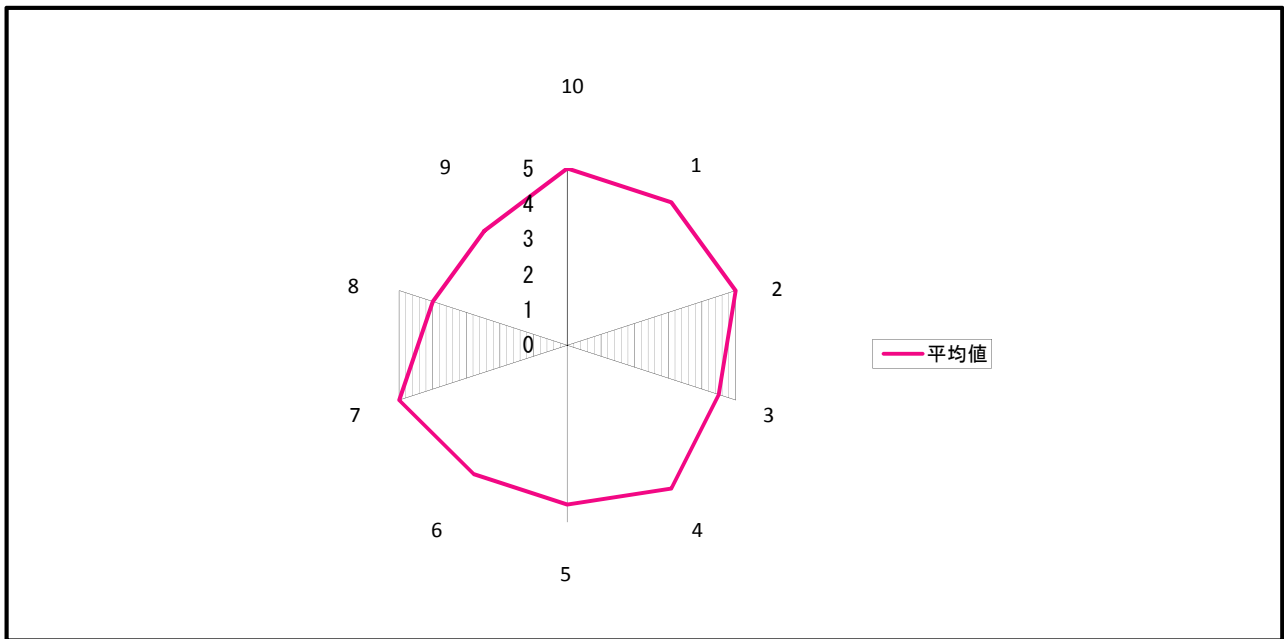
教員のコメント

概ね良好な評価をいただきました。しかし、成績評価方法の説明については、改善が必要であることがわかりましたので、次回へ課題にしたいと思います。

結果報告書

授業科目名 家族・ジェンダー研究
 評価実施日 平成27年7月30日
 担当教員名 黒川 衣代 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



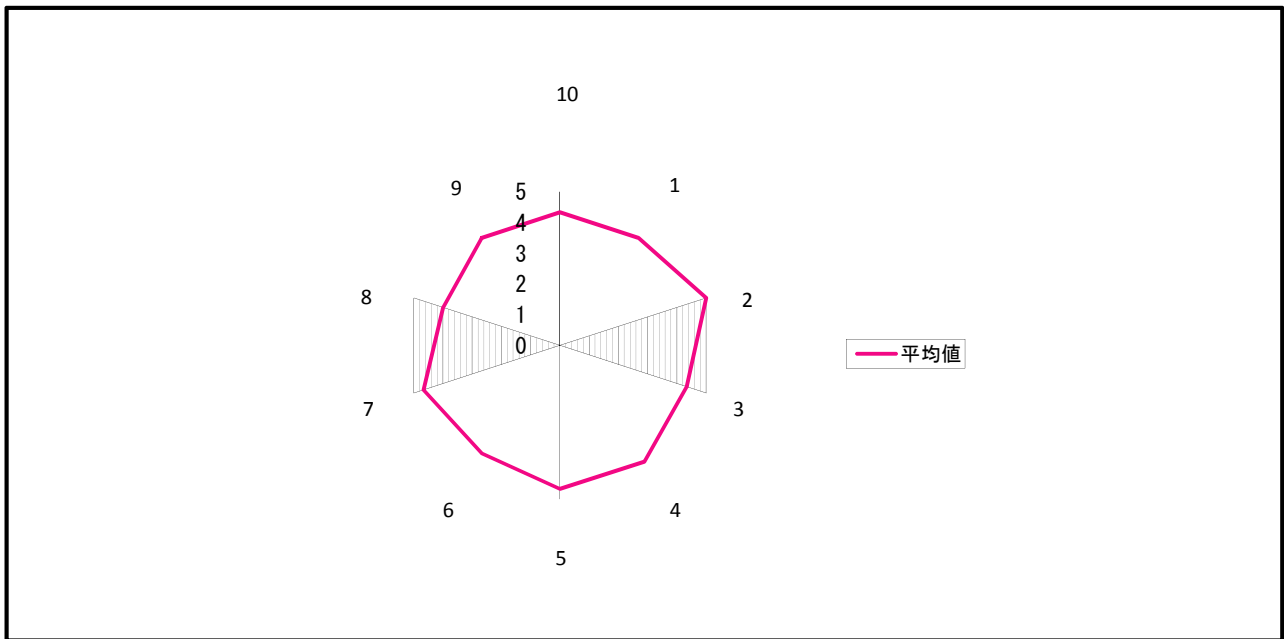
教員のコメント

履修者が2名だけであったので、それぞれの知識や興味を考慮に入れて授業を展開した。授業では、毎回授業内容にふさわしい資料プリントを用意し、説明には履修者2名の目の前に白紙を用意してそれを使った。課題は、全体の授業の中で数回提出してもらったが、2名とも積極的に取り組んでいたと思う。特に1名は、新たに学んだことが多かったようで、この分野に対する興味と関心が深まったようである。授業担当者としては嬉しい限りである。

結果報告書

授業科目名 衣生活学研究
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 福井 典代 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	2				4.3



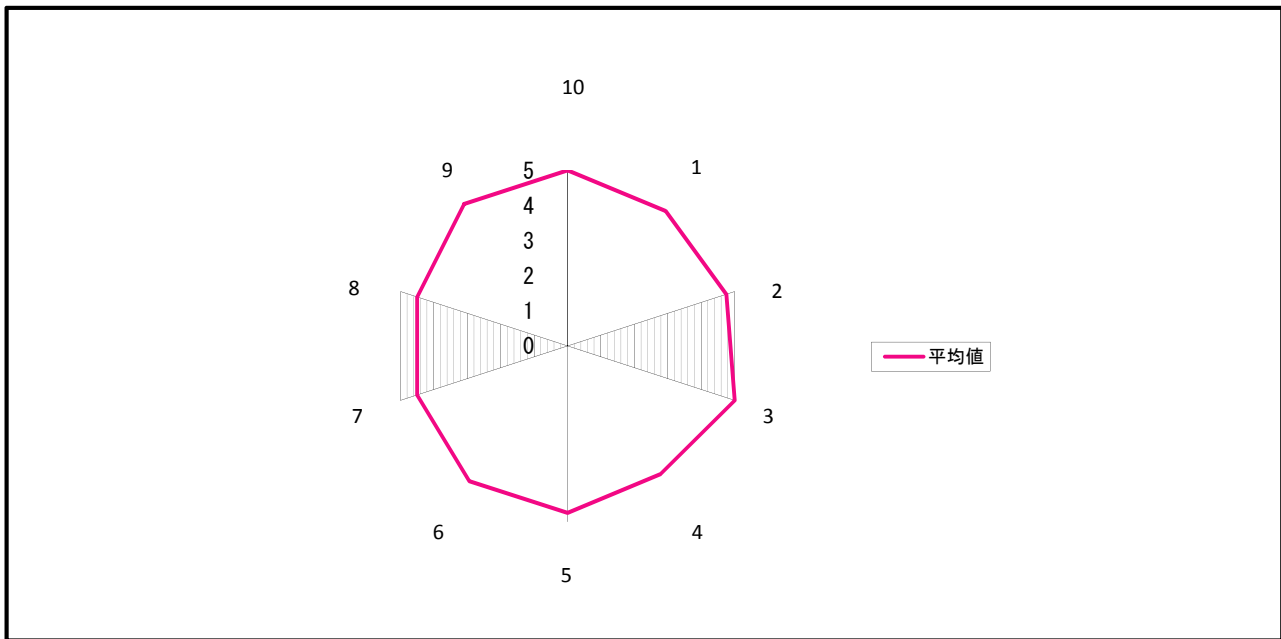
教員のコメント

総合評価が4.3であり、授業内容や授業の進め方について高い評価を受けた。この授業で良かったこととして「講義だけでなく体験的で分かりやすかった」、「実験が多かった」、「実践力がつきました」という回答が得られた。講義科目であるが、授業内容に沿って実験や実習を積極的に取り入れたことが評価された。今後も授業内容を分かりやすくするために実験や実習を取り入れた授業を行いたい。

結果報告書

授業科目名 食生活学研究
 評価実施日 平成27年7月28日
 担当教員名 松永 哲郎, 西川 和孝 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



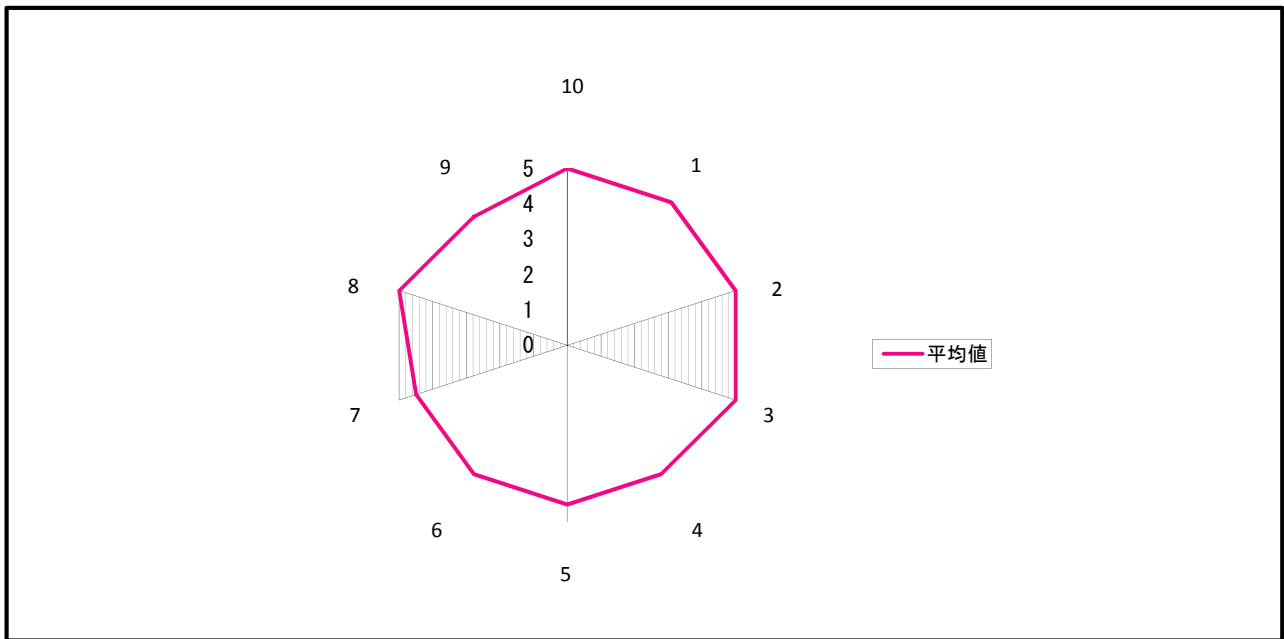
教員のコメント

食生活学に関する様々な専門知識やトピックスを取り扱うとともに、学校現場において応用可能な食物実験・実習を実施した。
 専門外の分野の学生の受講もあったため、専門的内容の簡易化の工夫をした。
 授業評価から、本科目の目的・目標は概ね達せられたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 住生活学研究
 評価実施日 平成27年7月27日
 担当教員名 金 貞均 回答者数 2 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



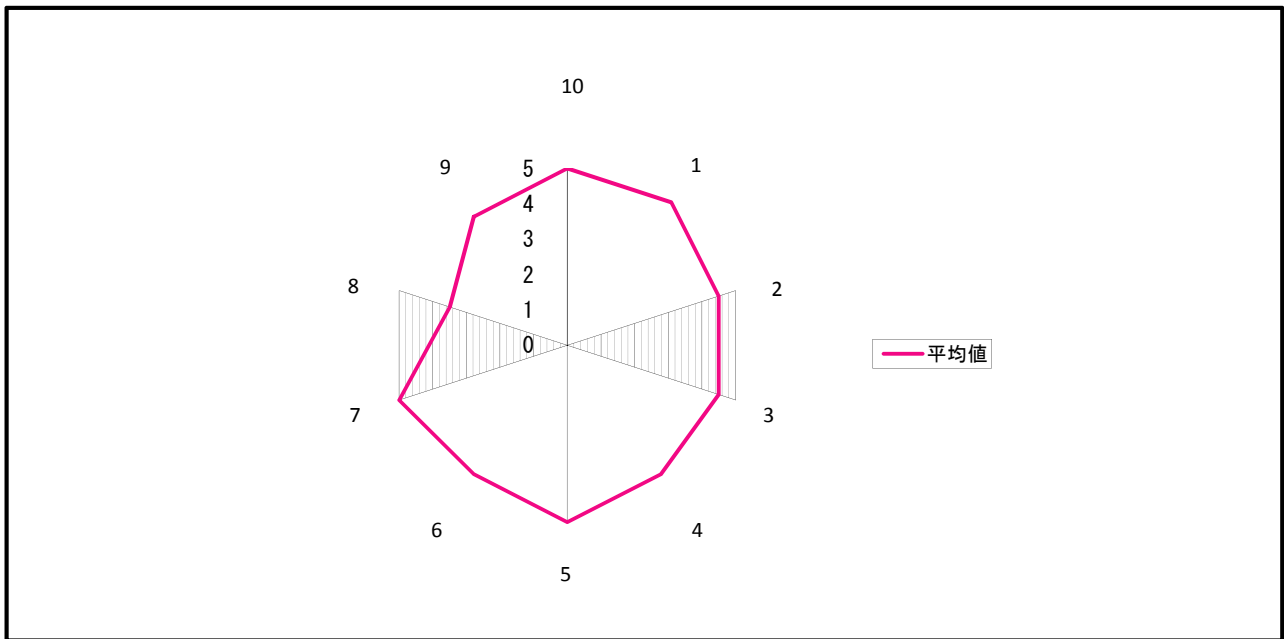
教員のコメント

本授業では少人数授業の利点を生かして、授業テーマに対して課題発表と意見を述べ合う時間をできるだけ設ける努力をした。本授業に対して受講生は全体的にポジティブな評価をしており、「満足している」と評価したい。[1]この授業について、各項目ごとの評価結果は上記のとおりで、ここでは自由記述欄の意見を紹介する。[2]この授業でよかったと思われる点について、「一方通行の講義ではなく、自分で調べて発表が多かったのが力になっていて感じた。」「韓国の住生活について知れたこと」と記述していた。[3]この授業で改善すべきと思われる点についての記述はなかった。[4]質問(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」について、あなたが回答を選択した理由については、「5. そう思う」を選択した受講生は、「発表内容についてより深く調べようとした。」、「4. ややそう思う」を選択した受講生は、「内容が少し難しかった。」と感想を書いていた。専門外の受講生にとって慣れない用語であったり初めて聞く内容であったりすることもあったと思うが、受講生は問題意識をもって授業に積極的・主体的に取り組んでくれた。以上の授業評価の結果は受講生が受け身にならない授業の成果と捉え、これからも受講生が主体的にかかわる授業を工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 家庭科教育学研究
 評価実施日 平成27年7月16日
 担当教員名 速水 多佳子 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	1			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



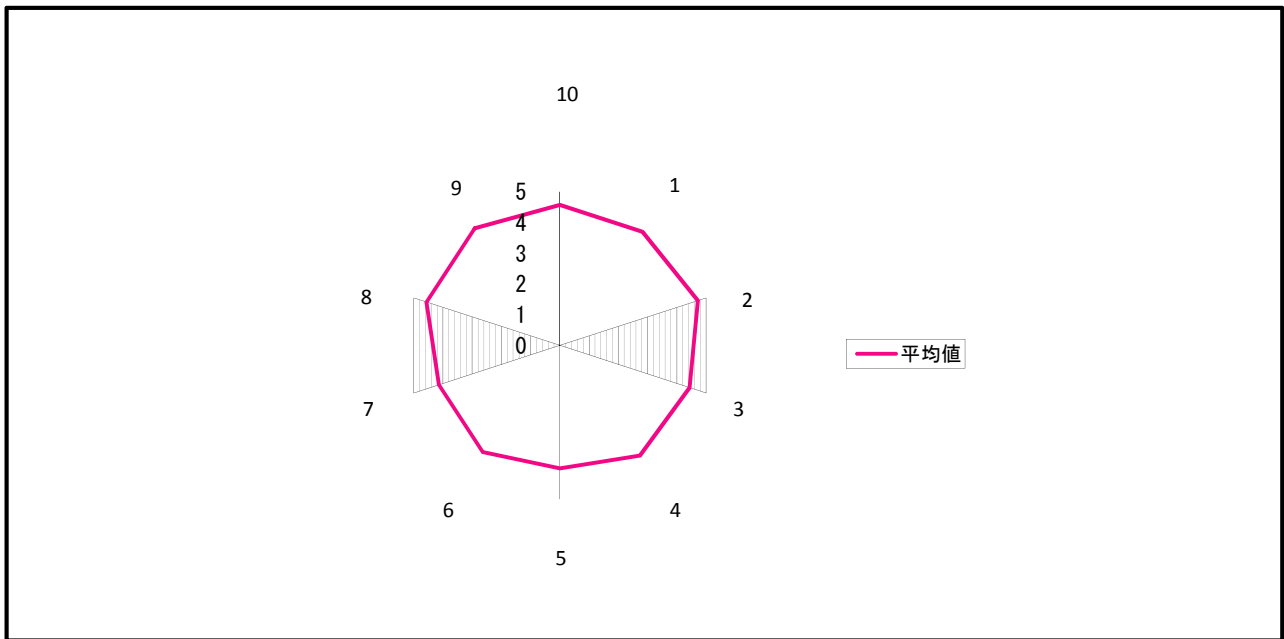
教員のコメント

本授業の受講生3名は、全員が管理栄養士の資格を取得しており、食生活に関する内容についての知識は十分に持ち合わせていた。しかし、家庭科の食生活以外に関する領域(衣生活、住生活、消費生活、家族、環境など)については基礎的な知識が不足していたため、本人達の希望によりテキストを用いて家庭科のすべての領域を基礎から見直していくことを中心に授業を進めた。学生が順番に発表をしていく形をとった。各自がテキストに関連した内容を発展させ、回を重ねるごとに実習なども取り入れて工夫した発表ができていた。基礎的な内容に十分に時間を取って、教員としての指導方法などについても具体的に扱うことができた。しかし、3名中1名は教員志望ではなかったため、意見交換に対する積極性は見られなかった。教員志望ではない学生のモチベーションの上げ方が課題である。

結果報告書

授業科目名 教育研究・調査
 評価実施日 平成27年7月24日
 担当教員名 石坂 広樹, 小澤 大成 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1	3			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3		1		4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1	1			4.6



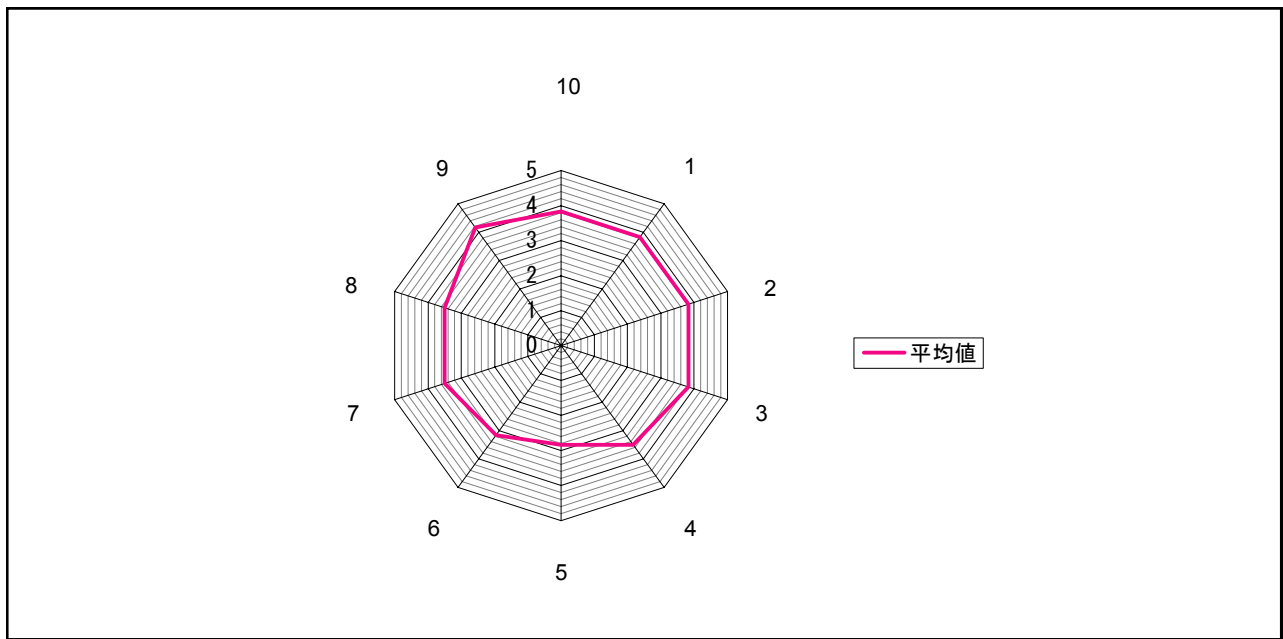
教員のコメント

本件授業では、学生の理解度に合わせて授業内容の大幅な変更を行ったり、補習も丁寧に行っている。それにもかかわらず内容面で不満を持っている学生がごく少数ではあるが、それがおり正直びっくりしている。今後も授業内容の改善を行っていくが、学生のモチベーションを高める努力も必要となるものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 外国語運用能力強化演習 I
 評価実施日 平成27年7月24日
 担当教員名 石村 雅雄, 石坂 広樹 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3	2			3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		5	1			3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	2			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		3	3			3.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		1	3	2		2.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2	3	1		3.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	2	1		3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	4			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	1			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3	2			3.8

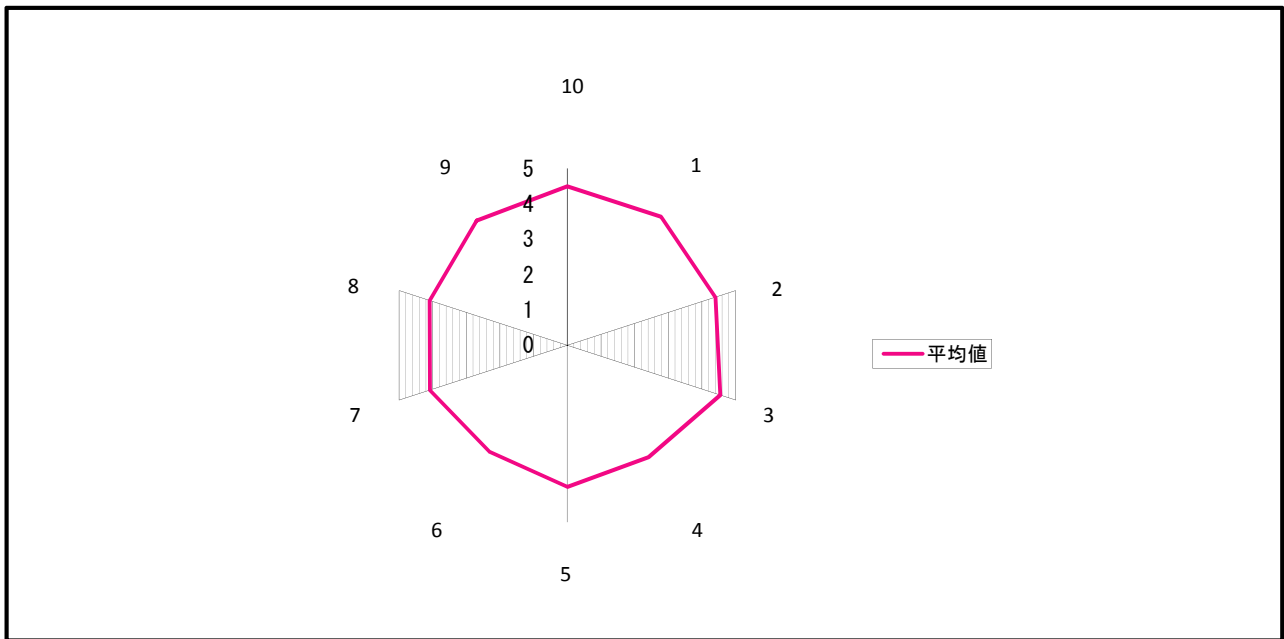


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナー I
 評価実施日 平成27年7月21日
 担当教員名 近森 憲助, 石村 雅雄, 小澤 大成, 石坂 広樹 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3	1			1	4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4	1			1	4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2	3		1		3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	5	1		1		4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	2	1	1		3.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	5	1	1			4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	3	3			1	4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	5				1	4.5



教員のコメント

授業評価に関するコメントをみると、発表内容と自らの研究課題あるいは関心との整合性が高いこと、コースの他の学生が研究している内容を知ることができる点などが評価されている一方で、改善すべき点として成績評価の方法の明確化や受講生にわかりやすく説明することなどが改善点として指摘されている。また本セミナーでは、英語での発表を奨励しているが、このことについても発表者の英語能力、とくにディスカッション時の英語使用は、困難を極める場合が多い。日本語を解しない受講生に関しては、個別に通訳を付けるなどの対応をしている。受講生からは日英併用すればどうかという提案もあった。今後以上のような点を検討し、改善していきたい。